事業報告書　目次

Ⅰ．わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言……2

Ⅱ．総括……（小川　朝生）…4

Ⅲ．ワーキンググループ報告

1. ピア養成研修ワーキンググループ……（秋月　伸哉）…9

2. 短期サポートグループワーキンググループ……（平井　啓）…12

Ⅳ．都道府県への支援……22

Ⅴ．がん患者に対するピア・サポート体制に関する都道府県調査……28

Ⅵ．資料集

1. 意見交換会、医療従事者向け研修会　資料……36
2. がんサポートグループ企画・運営者のための研修会　フライヤー……46
3. ピア・サポートを推進するための手引き……50
4. ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル……80
5. フォローアップ研修会開催マニュアル……126
6. 委員会名簿……150

Ⅰ．わが国のがん医療においてピア・サポートを広く推進するための提言

ピア・サポートに関する現状調査並びにモデル研修の実施、各都道府県との意見交換で得た知見をもとに、がん医療におけるピア・サポートを推進し、がん患者・家族が安心して暮らせる地域共生社会を実現するために、次期のがん対策推進基本計画の検討に際して以下を提言する。

１．ピア・サポートの普及・啓発の推進

（１）国はピア・サポートの認知が途上である結果を確認した第３期がん対策推進基本計画の中間評価を踏まえ、ピア・サポートに関する市民や行政、医療機関への啓発を、一層強化する必要がある。

（２）国はピア・サポートに関する改訂された研修プログラム等の普及を図るとともに、都道府県によるそれに基づくピア・サポーターの養成、研修修了者の活用、活動の維持、質の向上に向けた支援を継続する必要がある。特に地域統括相談支援センターの機能を見直し、再整備と設置を促進することが望まれる。

（３）各都道府県は、がん診療連携拠点病院等においてピア・サポートの活動を推進するために、改訂した研修プログラムに沿った研修を実施しピア・サポーターを養成すると共に、継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制を併せて整備することが重要である。体制の実現に際しては、ピア・サポートの教育研修やマネジメントを担当する専属の者を置くことが望ましい。健康対策推進事業にある地域統括相談支援センターの活用や患者団体等との連携が解決策になりうる。

（４）ピア・サポートの運用には行政と医療機関との密な連携が欠かせない。各都道府県は、都道府県がん診療連携協議会の協力のもと、ピア・サポートの養成や継続研修の実施について、目標を定め、進捗を評価して継続的に改善を進めることが重要である。そのためには、該当都道府県のがん診療連携協議会において、ピアサポトート支援を担当する部会を明確にすることが重要である。一般論として、内容の関連する相談支援部会や緩和ケア部会が所掌することが親和性があると考える。

（５）がん診療連携拠点病院等は、施設内においてピア・サポートを推進する部署・担当者を明確に定める必要がある。がん相談支援センターが、ピア・サポートとの連携を担うことが期待される場合には、一定の権限を与えるとともに、支援を強化することが望まれる。

（６）教育・研修を進めるにあたっては、国や都道府県、関連学会、患者団体等は、がん治療や精神心理的支援、相談支援に携わる医療従事者と連携し、県や地方ブロック単位で支援体制を構築し、人材育成を図ることが望まれる。

（７）国や都道府県、関連学会、患者団体等は、医療機関外で行われるピア・サポートにおいても、ピア・サポートに関して認識を共有するために、市民教育を進めることが望まれる。

２．ピア・サポートを活用したセルフヘルプグループやサポートグループの推進

（１）国はがん診療連携拠点病院等の整備に関する指針において、拠点病院内での患者家族支援の基盤の一つとしてピア・サポートを活用したセルフヘルプグループやサポートグループ等の配置を明確にするなど、推進に向けた基盤の整備を進めることが重要である。

（２）各都道府県は、がん診療連携拠点病院で開催されているピア・サポートやセルフヘルプグループ、サポートグループに関する情報を収集し、ポータルサイト等を通じて発信するなど、がん患者・家族が希望する支援にたどり着けるよう取り組むことが重要である。

（３）がん診療連携拠点病院等は、がんサロンにおいて、改訂された研修プログラムの修了者をしたグループ活動（セルフヘルプグループ、サポートグループ）を実施するなど、積極的な活用を進めることが重要である。

３．コロナ禍でのピア・サポート体制の確保

（１）新型コロナウイルス感染症流行が長期化するなかで、がん患者・家族への心理社会的な負担は大きく増大している。都道府県やがん診療連携拠点病院等は、感染予防の観点だけではなく、患者・家族を包括的に支援する立場から、心理社会的支援を積極的に進めることが重要である。

（２）オンラインでの活動では、情緒的交流の限界や技術的な負担、個人情報の管理など、対面形式にはない課題がある一方、物理的な距離にとらわれない利点がある。一部の都道府県やがん診療連携拠点病院等においては、対面形式のピア・サポートに加えて、オンラインでの活動・養成に取り組んでいる。それぞれの長所を活かして、複数の支援の場を用意することが重要である。

（３）今後起こり得るパンデミックや災害の際も心理社会的支援の場が必要であることを認識し、活動ができるように準備しておくことが重要である。

４．ピア・サポートの効果検証の検討

（１）第三期がん対策推進基本計画において個別目標に掲げられている通り、ピア・サポートの「効果検証」についても検討することが望まれる。これに先立ち、多義的な意義をもつピア・サポート介入の効果としてどのようなアウトカムが妥当であるかを検証する必要がある。

Ⅱ．令和３年度厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業　総括

改訂委員会　小川　朝生
国立がん研究センター先端医療開発センター　精神腫瘍学開発分野

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式である。

わが国のがん対策においては、平成 23-25 年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を受託し、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等によりその周知を図った経緯がある。

しかし、平成 28 年 9 月に総務省が公開した「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」では、平成 27 年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況を 17 都道府県、51 がん診療連携拠点病院を対象に調査をしたところ、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況を確認した。

この報告を受けて、がん対策推進基本計画（第 3 期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれた。

本事業では、上記計画を受けて、平成 30 年度より実施している。令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症流行が続くことにより、引き続き移動や会合が制限された。そのため、特に医療従事者を対象とした集合研修の開催が困難になる、各都道府県を訪問しての対面での意見交換の開催ができなくなるなど、さまざまな制限が持続する中での事業実施となった。

感染の波をみつつではあったものの、実施要綱に従い、

（1）医療・福祉関係者などの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム改訂委員会」を設置し、前年度改訂したしたプログラムを使用した研修を実施する。また地域ごとにニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続性の可能性等の検証を行うとともに、必要に応じてプログラム等の改善を行う。

（2）委員会において検討された内容に基づく教材等を活用し、地域統括相談支援センターや患者サロンの開催等に協力するピア・サポーター等に対して研修等を実施する。また、都道府県がピア・サポーターの育成を目的とした研修を実施する際、都道府県に対する相談支援を実施する。

（3）情報提供、研修の周知や参加申し込み、必要資料の提供等を行うホームページを運用する。

ことを検討した。

B. 経過

改訂委員会を設置し、課題整理を行い、以下の 4 点を検討・実施した。

・ピア・サポーター養成研修会の開催
・ニーズの把握及び各都道府県におけるピア・サポートに関する取組みの実態把握
・がん診療連携拠点病院等に向けたがんサロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施
・情報提供等を行うホームページの運用

1. ピア・サポーター養成研修会の開催

本事業で改訂したピア・サポーター養成研修プログラムに基づく研修会を各都道府県で広げていくことを目標としている。しかし、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症流行のため、対面型研修会の開催が困難な状況が続いていた。そのため、昨年度にオンライン形式を取り入れた短縮版を開発し、活用したフォローアップ研修会等を実施した。

1）ピア・サポーター養成研修会開催マニュアルのオンライン開催への対応

コロナ流行により研修会がオンラインで開催できるよう、留意点を追記した。

2）フォローアップ研修プログラムの作成

フォローアップ研修の質の向上を目指して、ある程度ニーズの共通するプログラムを集約し、複数のプログラム案から選択できるような研修プログラムを作成した。

3）各地の実情に応じたピア・サポーター養成、ならびにフォローアップ研修の実践

全国の都道府県にピア・サポート養成に関わるニーズを調査し、要望のあった都道府県に対し、当 WG からプログラムの提案、開催支援を行った。

①山形県ピア・サポーター研修会

2021 年 11 月 14 日（10：00～15：00）に、すでにピア・サポーター養成研修を修了したピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイがオンラインと対面のハイブリッド形式で行った。ピア・サポーター 22 名、医療従事者 8 名が参加した。

②長崎県がん診療連携協議会相談支援 WG 研修会、ピア・サポーターフォローアップ研修会

2022 年 1 月 29 日（10：00～17：00）にフォローアップ研修として、講義、事例検討、体験を語るセッションを、オンラインと対面のハイブリッド形式で実施した。ピア・サポーター 14 名、医療従事者 15 名が参加した。

③栃木県がんのピア・サポート基礎研修会

2022 年 2 月 12 日（13：30～15：30）に、これから栃木県でのピア・サポート活動を始める準備の研修会として講義、座談会をオンライン形式で実施した。ピア・サポーター候補者 28 名、医療従事者・行政職 34 名が参加した。

2. ニーズ把握及び各都道府県におけるピア・サポートに関する取組みの実態把握

1） ニーズ把握・現状評価及び地域での取組みの持続性の可能性等の検討

各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指し、ピア・サポーター等の研修について都道府県の取り組みに対する意見交換や講師の紹介、研修プログラム並びに研修テキスト等の提供を行った。

2021 年 5 月に厚生労働省より各都道府県担当部署に対して案内を送付した後に、希望した都道府県と個別に支援内容を調整した。今年度は 4 県に対して改訂委員会委員が出、都道府県担当者や医療従事者と直接各県の取組みの現状ならびに課題に関しての意見交換をオンラインにて行った（【表 1】参照）。

また計 16 県から希望を受け、研修テキスト並びに DVD の送付を行った。

2）行政・医療機関に向けたピア・サポートを推進するための情報提供資材の改訂

ピア・サポートの受け入れが進まない理由の一つに、行政や医療機関におけるピア・サポートへの認識が途上の点がある。昨年度より行ってきた都道府県との意見交換、医療従事者向けの研修会をもとに開発したピア・サポートのマネジメントに関する情報提供資材の改訂を進めた。

3）ピア・サポートに関するニーズ把握・現状評価

各都道府県におけるにピア・サポート研修や行政と医療機関の協力体制に関する現状を把握し、今後のピア・サポートの支援の拡充に活かすことを目的に、厚生労働省健康局がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県の担当部署に、現状調査を実施し、全都道府県より回答を得た。

その結果、都道府県がん対策推進基本計画でピア・サポートに関して目標を設置しているのは 24 都道府県（51.0%）であった。都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは 14 都道府県（29.7%）であり、養成研修の内容をがん診療連携拠点病院と定期的に検討する機会を設定しているのは 12 都道府県（25.5%）であった。がん診療連携拠点病院間でがんサロンの連携や情報共有が定期的に行われているのは 11 都道府県（23.4%）であった。ピア・サポーター養成研修会が定期的に開催されているのは 21 都道府県（44.7%）であった。養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは 23 都道府県（48.9%）、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは 20 都道府県（42.6%）であった。登録されたピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは 22 都道府県（46.8%）であった。

フォローアップ研修を定期的に開催してい

るのは20都道府県（42.6%）、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは16都道府県（34.0%）であった。

ピア・サポートの養成・活用には、行政と医療機関との密な連携が不可欠である。しかし、都道府県がん診療連携協議会のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は限られていた。今後、その必要性を明確にし、その地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、その後の継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。

3. がん診療連携拠点病院等に向けたがんサロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施

本事業では、医療機関ごとに、それぞれのリソースを踏まえ、今後ピア・サポーターが安心して活動に携わることをできることを目的に、がんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」プログラムを開発してきた。

がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目標に活動した。

本年度は、11月3日（東京とオンライン）と2月11日（オンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートグループ運営の手引き」「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事前登録者は、11月95名、2月93名であった。昨年度より合計3回開催し、244名が修了した。

昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられた。

全国のがん診療拠点病院において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者の対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えられる。

4. 情報提供等を行うホームページの運用

昨年度に引き続き、情報提供や研修の周知を行うホームページを運用し、研修テキスト等の公開や、各種研修会、委員会や各ワーキンググループ活動の紹介を行った。

- 「ピア・サポーター養成テキスト2020年度」の公開（PDF）
- 「がんサポートプログラム企画の手引き2020年度」の公開（PDF）
- 「ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル」の公開（Word）
- 2020年2月に行ったピア・サポーター養成研修会で使用したスライド、プログラムの公開（PDF）
- 平成30年度、令和元年度、令和2年度の事業報告書の公開（PDF）
- 2021年11月3日、2022年2月11日実施「がんサポートグループ企画運営者のための研修会」の研修案内、申込ページの設置
- 改訂委員会議事録の公開
- 各会議、意見交換会、研修会等の活動紹介
- 各種問い合わせへの対応

C. 考察

昨年度来の新型コロナウイルス感染症流行による制約が加わる中で、各都道府県に対するピア・サポート養成と担当者との意見交

換、がん診療連携拠点病院等に対してはサポートグループを開催するための研修会を開催した。また実施要綱に沿って、ピア・サポートに関する都道府県の実態把握を行った。上記活動を通して、わが国のがん医療において、ピア・サポートを推進する上で以下の取組みが求められる。

1. ピア・サポートの養成・活動に関する基盤を整備する必要性

ピア・サポートはがんサロン等がん診療連携拠点病院内で活動することが想定されており、その養成と活用にあたり行政と医療従事者とが協働して進める必要がある。しかし、

① 都道府県のがん対策推進基本計画の中でピア・サポートに関する目標が設定されている都道府県は約半数にとどまっていること

② 都道府県の中で行政と医療従事者がピア・サポートに関して検討する場を持っている都道府県が約 1/4 に限られていることが明らかとなった。

がん診療連携拠点病院の整備指針には、「体験を語り合う場」の設置が義務づけられている。「体験を語り合う場」については、その検討の経緯まで踏まえないとセルフヘルプグループやサポートグループを想定していると解釈することが難しいため、本来の主旨が十分に周知されていない現状がある。がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の整備の方向性を明確にし、適切な支援体制を確保する取組みも求められる。その方策として、がん診療連携拠点病院の整備に関する指針において、拠点病院内にピア・サポートを活用したセルフヘルプグループやサポートグループ等の配置を明確にするなど、推進に向けた基盤整備が重要である。

加えて、ピア・サポーターが活動をするうえで、相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要になる。特に医療機関と連携してピア・サポー

【表 1】意見交換会の実施

医療者向け研修会・意見交換会の実施

	都道府県	日時	参加者
1	栃木県	令和 3 年 8 月 10 日	県庁がん対策担当職員 2 名
2	高知県	8 月 11 日	県庁がん対策担当職員 2 名
3	長崎県	10 月 15 日	県庁がん対策担当職員 3 名 県内がん診療連携拠点病院等職員 15 名（医師、看護師、MSW）
4	沖縄県	令和 4 年 1 月 28 日	県庁がん対策担当職員 2 名 沖縄県地域統括相談支援センター職員 4 名 県内がん診療連携拠点病院等職員 11 名（看護師、MSW） 患者会代表　6 名

医療者向け研修会

	都道府県	日時	参加者
1	福岡県	令和 3 年 7 月 28 日	県庁がん対策担当職員 3 名 県内がん診療連携拠点病院相談支援センター職員 18 名（看護師、MSW） 患者会代表　8 名
2	香川県	11 月 16 日	県庁がん対策担当職員 2 名 県内がん診療連携拠点病院相談支援センター職員 9 名（看護師、MSW、心理士）
3	栃木県	12 月 7 日	県庁がん対策担当職員 2 名 市町がん対策担当職員・福祉センター 5 名 県内がん診療連携拠点病院等職員 59 名（看護師、薬剤師、MSW、保健師、心理士、社会福祉士、理学療法士、作業療法士）

ト活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報の扱い等についても確認する必要があり、事前の教育･研修は必須である。その点でも各県において、行政と医療従事者が計画を策定し、議論する場を確保する重要性の認識が広まる必要がある。

2. 新型コロナウイルス感染症流行下でのピア・サポート活動の推進

新型コロナウイルス感染症流行が長期化するなかで、がん患者・家族への心理社会的な負担は大きく増大している。特に社会的距離拡大戦略（ソーシャル・ディスタンス）の影響で、接する機会が減り、心理的・社会的な孤立を招いている。しかし、がん診療連携拠点病院等では、感染予防の観点から、院内でのピア・サポート活動に制限が続けられ、多くの拠点病院では活動が止まったままである。たしかに感染予防についての配慮は必要である一方、心理社会的支援が滞っている状態が長期化することによる患者・家族の不利益にも対応する必要がある。

その中で、一部のがん診療連携拠点病院や県において、オンラインでのピア・サポート活動を試みる所も出てきた。オンラインでの活動では、画面を通した間接的な交流であることから情緒的交流に限界はあるものの、物理的な距離にとらわれない長所がある。技術的な負担（特に高齢者ではセッティングの問題）、病院で実施するには個人情報の管理方法を定める必要性があるなど、対面形式にはない課題があるものの、AYA や働く世代を中心に時間や場所にとらわれずに広域から集合することができることから、活用範囲が拡大してきている。がん診療連携拠点病院や都道府県では、それぞれの長所を活かした支援の場を提供できる可能性がある。そのためにも、オンラインでのピア・サポート活動に関する情報を収集し、その実践を共有する取組みも求められる。

令和３年度厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業
改訂委員会　会議記録

第１回　委員会

日時：令和３年８月 20 日

議事：(1) 本年度の事業予定
(2) ピア・サポート支援希望アンケートとピア・サポート体制都道府県の現状調査
(3) ピア・サポーター養成研修会の開催予定
(4)「がんサポートプログラムの企画・運営者のための研修会」について
(5) 都道府県へ支援について

第２回　委員会

日時：令和４年１月 12 日

議事：(1) ピア・サポーター　フォローアップ研修会、準備報告
(2)「がんサポートプログラムの企画･運営者のための研修会（11 月３日実施）」実施報告
(3) 都道府県支援状況報告
(4) 事業報告書についての検討

第３回　委員会

日時：令和４年３月 11 日

議事：(1) ピア・サポーター　フォローアップ研修会開催報告
(2)「がんサポートプログラムの企画･運営者のための研修会（2 月 11 日実施）」実施報告
(3) 都道府県支援状況報告
(4) 事業報告書についての検討
(5) 成果物に関する検討

令和３年度厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業

Ⅲ-1. ピア養成研修ワーキンググループ　報告

ピア養成研修ワーキンググループ長　秋月　伸哉
がん感染症センター　東京都立駒込病院　精神腫瘍科　・メンタルクリニック　部長

A. 目的

本 WG の目的は、すべての都道府県で継続的に行え、実際の活動につなげることができるピア・サポーター養成プログラムを開発することである。2018 年度には、ピア・サポーター研修プログラム、並びにピア・サポーター養成テキストを作成し、パイロット版の研修を実施、2019 年度はピア・サポーター養成テキストの改訂、ピア・サポーター養成研修会運営マニュアルを作成し、三重県でプログラムに基づくピア・サポーター養成研修会を実施、2020 年度はコロナ流行の状況に合わせ対面研修の時間を短縮できるよう講義動画の作成、短縮版ピア・サポーター養成研修会を開発し長崎県で実施、フォローアップ研修プログラムの提言を作成した。

本年度は昨年度作成した提言に基づき、より具体的なフォローアップ研修プログラムを作成し、またフォローアップ研修でプログラムの実践を行うこととした。

B. 経過

1. ピア・サポーター養成研修会開催マニュアルのオンライン留意点書き込み

コロナ流行により研修会がオンラインで開催できるよう、留意点を研修会開催マニュアルに追記した（Ⅵ資料集：ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル）。

2. 具体的なフォローアップ研修プログラムの作成

フォローアップ研修は各地のピア・サポート開催状況や課題、ピア・サポーターのニーズに応じて行われるべきであり、画一的なプログラムはそぐわない。一方である程度ニーズの高いプログラムを挙げることはできるため、複数のプログラム案から選択できるような研修プログラムを作成した（Ⅵ資料集：ピア・サポーターフォローアップ研修会マニュアル）。

3. 全国各地の実情に応じたピア・サポーター養成、ならびにフォローアップ研修の実践

全国の都道府県にピア・サポート養成に関わるニーズを調査し、要望のあった都道府県に対し、当 WG からプログラムの提案、開催支援を行った。

1）山形県ピア・サポーター研修会②

2021 年 11 月 14 日（10：00～15：00）に、すでにピア・サポーター養成研修を修了したピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、ロールプレイがオンラインと対面のハイブリッド形式で行われた。当 WG は講義を担当した。ピア・サポーター 22 名、医療従事者 8 名が参加した。

2）長崎県がん診療連携協議会相談支援 WG 研修会、ピア・サポーターフォローアップ研修会

2022 年 1 月 29 日（10：00～17：00）にすでにピア・サポーター養成研修を修了したピア・サポーターへのフォローアップ研修として、講義、事例検討、体験を語るセッションが、オンラインと対面のハイブリッド形式で行われた。当 WG は全プログラムの講義、ファシリテートを担当した。ピア・サポーター 14 名、医療従事者 15 名が参加した。（表 1：プログラム）

3）栃木県がんのピア・サポート基礎研修会

2022 年 2 月 12 日（13：30～15：30）に、これから栃木県でのピア・サポート活動を始める準備の研修会として講義、座談会がオンラインで行われた。当 WG は講義、座談会を担当した。ピア・サポーター候補者 28 名、医療従事者・行政職 34 名が参加した。

C. 考察

2018 年度、2019 年度に開発されたテキスト、プログラムをもとに、コロナ流行下でも実施できるよう日程を短縮しオンラインで実施できるピア・サポーター養成研修プログラ

ム開催マニュアル、フォローアップ研修プログラムを開発、実施した。

２県でフォローアップ研修を行ったが、活動状況やこれまでの研修の経緯の違いから異なったプログラムが行われた。フォローアップ研修については各地の実情に合わせた柔軟なプログラムが必要である。

ピア・サポートそのものの開催支援も検討されたが、都道府県からの要望が出されなかった。コロナ流行の状況により、効果的にピア・サポートが開催されていない実情が想定される。オンライン開催を含めたコロナ流行下でも実施できるピア・サポートの広がりが必要である。

表１
長崎県がん診療連携協議会相談支援 WG 研修会
ピア・サポーターフォローアップ研修会
プログラム

時間	分	内容
長崎県がん診療連携協議会　相談支援WG研修会 （主催：長崎県がん診療連携協議会　相談支援WG）		
10:00～ 11:30	90	がん相談員に求められるピア・サポート活動の支援 ～千葉県のピア・サポート活動について学ぶ～
フォローアップ研修会 （主催：長崎県、日本サイコオンコロジー学会）		
研修会開始～基礎知識復習		
13:00～ 13:30	30	開会あいさつ、オリエンテーション
		ピア・サポート基礎知識の復習
事例検討		
13:30～ 15:20	110	説明＆グループへ移動
		アイスブレーク
		グループごと:1例目検討
		全体:1例目振り返り（4グループ×3分）
		休憩
		グループごと:2例目検討
		全体:2例目振り返り（4グループ×7分）
15:25～ 15:35	10	休憩
テーマを決めた「自分の体験を語る」		
15:35～ 16:45	70	説明、デモンストレーション
		1回目
		2回目
16:45～ 16:55	10	閉会あいさつ

令和３年度厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業
ピア養成研修ワーキンググループ　会議記録

第１回 WG 会議

日時：令和３年９月 15 日（水）

議事：(1) 都道府県への支援について
(2) オンラインでの研修会実施について
(3) フォローアップ研修会　プログラムの作成について

第２回 WG 会議

日時：令和３年 11 月１日（月）

議事：長崎県ピア・サポーターフォローアップ研修会のプログラム案作成

第３回 WG 会議

日時：令和３年 12 月 15 日（水）

議事：長崎県ピア・サポーターフォローアップ研修会のプログラム決定。役割分担、講義スライドの検討。

第４回 WG 会議

日時：令和４年２月９日（水）

議事：(1) 栃木県　がんのピア・サポート基礎研修の講義スライドの検討
(2) ピア・サポーター養成研修会をオンラインで実施する際の留意点の検討
(3) フォローアップ研修会のマニュアル作成

長崎県　ピア・サポーターフォローアップ研修会

日時：令和４年１月 28 日（金）（前日打合せ 18：00～19：00）
令和４年１月 29 日（土）
（相談支援 WG 研修会　9：30～11：30、
フォローアップ研修直前打合せ 11：40～12：00、
研修会 13：00～17：00、反省会 17：00～18：00）

栃木県　がんのピア・サポート基礎研修

日時：令和４年２月 12 日
（直前打合せ 11：30～12：00、研修 13：30～15：30、反省会 15：30～16：00）

令和３年度厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業

Ⅲ-2. 短期サポートグループワーキンググループ　報告

短期サポートグループワーキンググループ長　平井　啓
大阪大学大学院　人間科学研究科　准教授

A. 目的

がん患者を対象とした「サポートグループ」は、がん患者の情緒面や対処能力向上のための心理社会的支援の方法として世界の多くの医療施設において提供されている。日本でも地域がん診療連携拠点病院の要件において、がん相談支援センターに必要な機能として、「医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援」が求められている。ゆえに、実際、医療者が運営する構造化されたサポートグループ、あるいはピア・サポーターが中心となり運営されるピア・サポートプログラムなど、さまざまな取り組みが行われている。しかしすでに開催されているがんサロンやピア・サポーターによるサポートグループの運営上の課題解決や質向上を行うための体系的で簡便な資料がなく、これらの心理社会的支援の方法が十分に行われているとは言い難い。

そこで短期サポートグループワーキンググループは、これまで、さまざまな「サポートグループ」の運営に携わったメンバーにより、ピア・サポートを含む、さまざまな形や目的の「サポートグループ」に関して構造と機能の整理を行い、おもにがん診療を行う病院で勤務するがん患者を対象としたサポートグループの企画・運営に携わる医療従事者を対象とした、「がんサポートグループ運営の手引き」を作成し、さらにがんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」を開発し、2021 年度に実施した。がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2 回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目的とした。

B. 経過

本年度は、11 月 3 日（東京とオンライン）と 2 月 11 日（オンライン）の 2 回開催し、それぞれ 90 名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。本研修プログラムのねらいは、①サポートグループ・ピア・サポートについて理解しており（必要性や意義、方法について）②サポートグループのファシリテーションに関する基本的な技術を習得し、企画・運営することができる人材の養成である。

方法としては、参加者が事前課題として自施設のがんサポートグループについて評価し、オンライン研修会を受講する形をとった。その後、参加者の主観的変化を見るために事後評価アンケートを行った。

事前評価アンケートは、自身のプロフィール、自施設のがんサポートグループの構造や機能、自己の行動などの主観的評価をオンライン上の質問サイトにて尋ねた。

講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーションの 6 場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートグループ運営の手引き」「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

事後評価アンケートは、事前評価アンケート同様にオンライン上の質問サイトにて、サポートグループの理解度やファシリテーターとしての効力感などを「非常にそう思う」「とてもそう思う」「ややそう思う」「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の 5 件法で、その他研修会に関する意見等を尋ねた。

C. 結果

事前登録者は、11 月 95 名、2 月 93 名であった。このうち事前評価アンケートのデータについてクラスター分析（ward 法）を行い、目標レベル分けを行ったところ、11 月の研修会でレベル設定を行ったものは 82 名であった。このうち、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニードへの対応が弱い」34 名、レベルⅡ：「多様なニードへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」35 名、レベルⅢ：「エキスパート」13 名であった。2 月の研修会では、79 名をレベル分けし、レベルⅠ：「ビギナー」「ピア・サポーター未導入で多様なニードへの対応が弱い」37 名、レベルⅡ：「多様なニードへの対応が弱い」「ピア・サポーター導入」24 名、レベルⅢ：「エキスパート」18 名であった。2020 年度の研修会と比較して、11 月の研修会の参加者は、ファシリテーション、ロールモデルの提供、情緒的サポートピア・サポーターとの協働の平均点は低く、多様なニーズ院内への協力要請に関する平均点は高い傾向にあった。さらに 11 月の研修会と 2 月の研修会を比較すると、ロールモデルの提供、多様なニーズへの対応、ピア・サポーターとの協働、院内の協力の平均点は低いという特徴があった。

事後評価アンケートの結果からは、11 月と 2 月の研修会ともに、サポートグループ運営に関する知識と態度に関するすべての評価項目で有意に改善することが明らかとなった。このうち効果量が高かった項目は、「ファシリテーターの役割を理解している」「医療者とピア・サポーターが協働する方法について理解している」「サポートグループを自信を持って運営できる」であった。これらの結果から本研修の目的は十分に達成されたと言える。

またファシリテーションに関する評価の項目から、基本的なファシリテーションのスキルは実践を通して学習できたが、比較的高いスキルを求められる対応について課題を感じていることが分かった。

研修全体ついての自由記述の回答を分類したところ、良かった点としては、ロールプレイの経験、他施設・他県の取り組みを聞く機会、実践の振り返り・エンパワメント、講義内容・ファシリテーション、研修の構成、開催形式、ピア・サポートの必要性の理解であった。一方で、改善点としては、オンライン開催であること、研修時間の長さ、開催日、ロールプレイの長さなどであった。

D. 考察

「がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会」は昨年度から開催し、今年度までに合計 3 回開催し、244 名が修了している。昨年度に比べて本年度はレベルⅠの参加者が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。全国のがん診療拠点病院において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、さらに本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者の対象としていく必要がある。さらに、これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で、オンライン開催になっている。そのためサポートグループのファシリテーションの一部についてロールプレイで体験してもらう研修となっているが、対面開催が可能となれば、さらに幅広いスキルの獲得のための研修が可能となると考えている。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

事前アンケート回答状況

2021年10月22日17時〆切時点
81/88名提出　92%回収

受講者の背景 (n=81)

1．所属：

所属	人数
がん相談支援センター	29
地域連携・医療相談室	17
総合患者支援センター	9
看護部	9
地域統括がん相談支援センター	7
外来	6
緩和ケアセンター	2
がんセンター	1
心療内科・精神科	1

2．職種：

職種	名	
看護師・保健師		50
がん看護専門看護師	14	
緩和ケア認定看護師	5	
がん性疼痛認定看護師	2	
がん化学療法認定看護師	2	
乳癌看護認定看護師	3	
がん放射線療法認定看護師	1	
MSW		22
心理職		4
事務員		2
医師		1
ピア相談員		1
認定がん専門相談員		1

図表１　研修会受講者の背景（2021 年 11 月 3 日）

3．がん相談支援センター配置状況

配置	名	配置	名
専従	31	担当でない	7
専任	20	その他	6
兼任	17		

受講者の経験 (n=81)

1．臨床経験　18.2年

2．がん相談経験　7.5年

3．サポートグループのファシリテーター経験

あり　37名　　なし　44名

サポートグループの開催内容 (n=119)

1．開催頻度

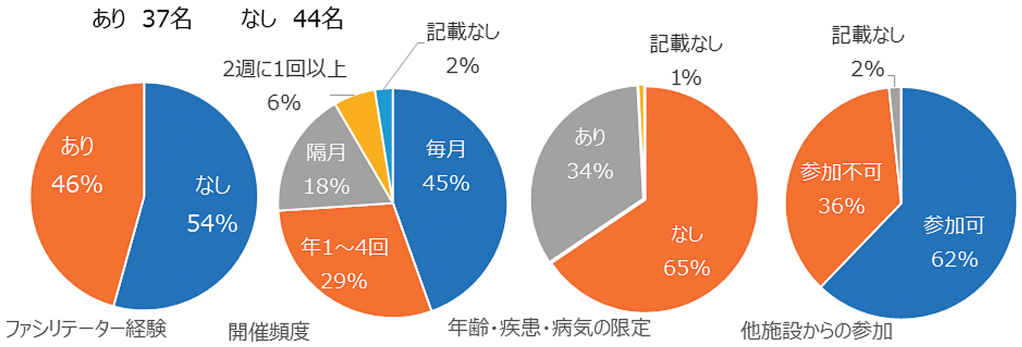
開催頻度	グループ	開催頻度	グループ
2週に1回以上	7	年1～4回	35
毎月	53	記載なし	3
隔月	21		

2．年齢層や疾患・病気の限定

あり　40グループ　　なし　78グループ　　記載なし1

3．他施設からの参加

可　74グループ　　不可　43グループ　　記載なし2



図表２　研修会受講者の背景（2021 年 11 月 3 日）

4. 1施設の開催プログラム数 (n=81)

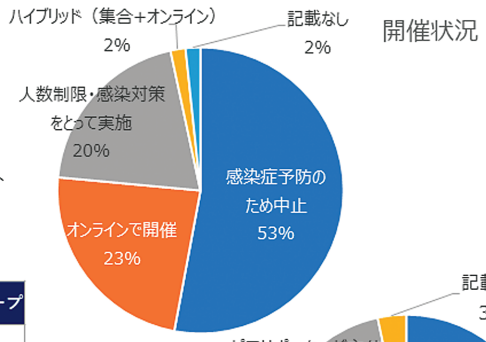
1グループ　58名　2グループ　13名
3グループ　5名　4グループ　5名

※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

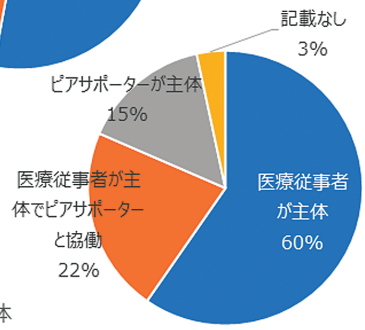
5. 平均参加人数　11.2名

6. コロナ禍での開催状況 (n=119)

開催状況	グループ
感染症予防のため中止した状態である ※うち再開検討中：9グループ	63
オンラインで開催している	28
人数制限・感染対策をとって実施している	24
ハイブリッド（集合+オンライン）	2
記載なし	2



開催状況



運営主体

7. 運営主体 (n=119)

運営主体	グループ
医療従事者が主体で開催(企画・運営)している	71
医療従事者が主体でピアサポーターと協働して開催(企画・運営している)	26
ピアサポーターが主体で開催(企画・運営)している	18
記載なし	4

図表 3　研修会受講者の背景（2021 年 11 月 3 日）

事前アンケート回答状況

1月31日時点
81/83名提出　97.6%回収

受講者の背景 (n=83)

1. 所属：

所属	人数
がん相談支援センター	22
地域連携・医療相談室	19
患者総合支援センター	8
看護部	8
がん診療サポートセンター	5
外来	5
緩和ケアセンター/PCU	4
病棟	3
心理部門	2
診療科	2
居宅介護支援事業所	1
事務部門	1
大学教員	1
回答なし	2

2. 職種：

職種		名
看護師・保健師・助産師		46
がん看護専門看護師	10	
緩和ケア認定看護師	9	
がん性疼痛認定看護師	5	
がん化学療法認定看護師	3	
MSW		32
心理職		4
医師		2
事務員		1

※複数資格保持者をダブルカウント
（MSW・心理士、看護師・MSW）

図表 4　研修会受講者の背景（2022 年 2 月 11 日）

3．がん相談支援センター配置状況

配置	名	配置	名
専従	20	兼任	28
専任	19	担当でない	16

受講者の経験 (n=83)

1．臨床経験　20.8年

2．がん相談経験　7.3年

3．サポートグループのファシリテーター経験

あり　33名　なし　48名　回答なし　2名

サポートグループの開催内容 (n=104)

※サポートグループの記載なし9名+未提出2名を含む

1．開催頻度

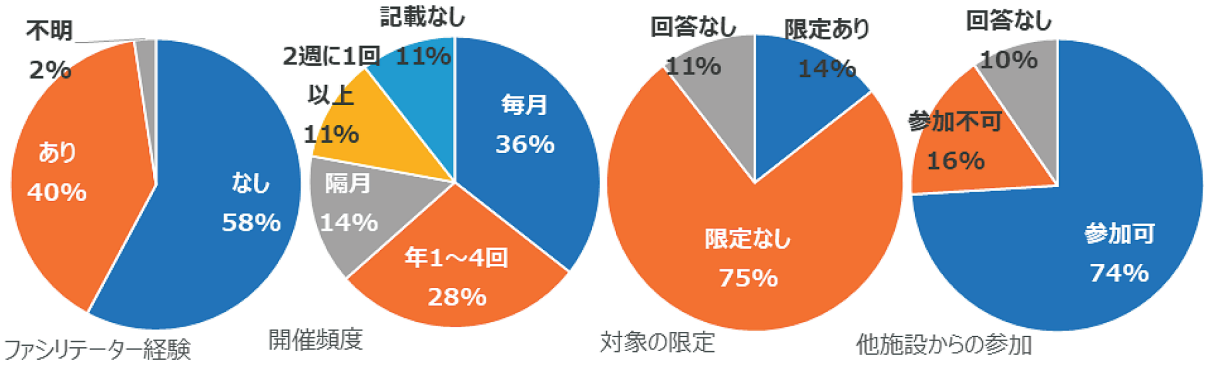
開催頻度	グループ	開催頻度	グループ
2週に1回以上	12	年1～4回	29
毎月	37	記載なし	11
隔月	15		

2．年齢層や疾患・病気の限定

あり　15グループ　なし　78グループ　記載なし11

3．他施設からの参加

可　77グループ　不可　17グループ　記載なし10



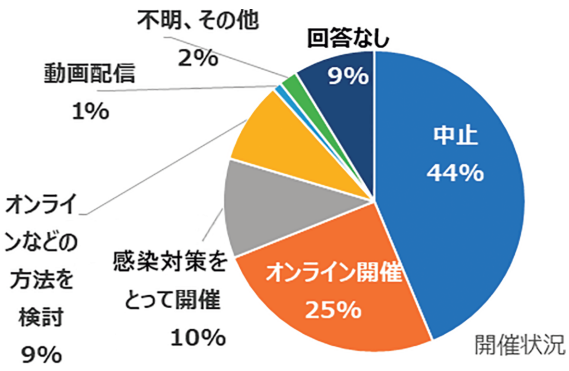
図表 5　研修会受講者の背景（2022 年 2 月 11 日）

4. 1施設の開催プログラム数 (n=83)

1グループ　61名　2グループ　7名
3グループ　4名　4グループ　2名
回答なし　9名

※同施設者からの参加があるため、あくまでも人数でのカウント

5. 平均参加人数　8.2名



6. コロナ禍での開催状況 (n=104)

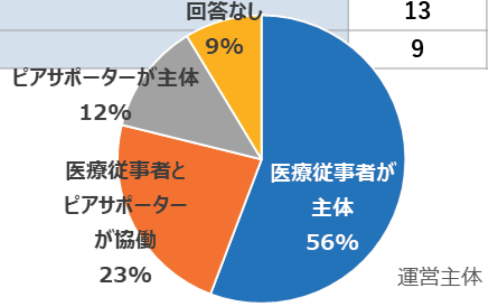
コロナ禍の開催状況	グループ
新型コロナウイルス感染症予防のため中止した状態である	45
上記のためオンライン開催で実施している	26
上記のため人数制限、3密を避けるなど感染対策をとって実施(もしくは再開)している	11
上記のためオンライン開催などの方法を検討している	9
上記のためミニ講座の動画配信をしている	1
不明、その他	2
回答なし	9

※コロナ禍が続く中の工夫として、オンライン開催に加えニューズレターを発行するなど、IT弱者への配慮をする会もあった

図表 6　研修会受講者の背景（2022 年 2 月 11 日）

7. 運営主体と開催内容（n=104）

運営主体と開催内容（各上位３位まで）		グループ
医療従事者が主体で開催		58
講演会・セミナー（がん教室等）、患者交流会（家族含む）	26	
患者交流会（家族の参加も含む）	14	
講演会・セミナー（がん教室等）、患者交流会（家族含む）、テーマを決めた体験共有やディスカッション	6	
医療従事者が主体でピアサポーターと共同で開催		24
患者交流会（家族の参加も含む）	8	
患者交流会（家族の参加も含む）、医療従事者によるセミナーとピアサポーターによる体験共有を行う会	6	
医療従事者によるセミナーとピアサポーターによる体験共有を行う会	5	
ピアサポーターが主体で開催		13
回答なし		9



図表 7　サポートグループ運営に関する自己評価に基づくレベル分けとクラスター分析結果

※個人の能力評価ではなく自施設のサポートグループの目標レベルの評価

2021年11月3日開催

レベル	Cluster	人数	特徴
Ⅰ 34名	2	12	ビギナー（院内以外課題あり）
	5	22	モデル、ニーズ、ピア、院内に課題あり
Ⅱ 35名	1	14	安全、情緒、モデル、ニーズ、院内に課題あり
	3	21	ピアに課題あり
Ⅲ 13名	4	13	エキスパート

2022年2月11日開催

レベル	Cluster	人数	特徴
Ⅰ 37名	5	14	総じて得点が低い（レベル評価の無記入者含む）
	2	23	5よりも全体の得点が高い
Ⅱ 24名	4	14	5よりも安全、情緒的サポート、ロールモデル高め
	3	10	4より多様なニーズ、院内のサポート高め、1よりピア低い
Ⅲ 18名	1	18	総じて得点が高い

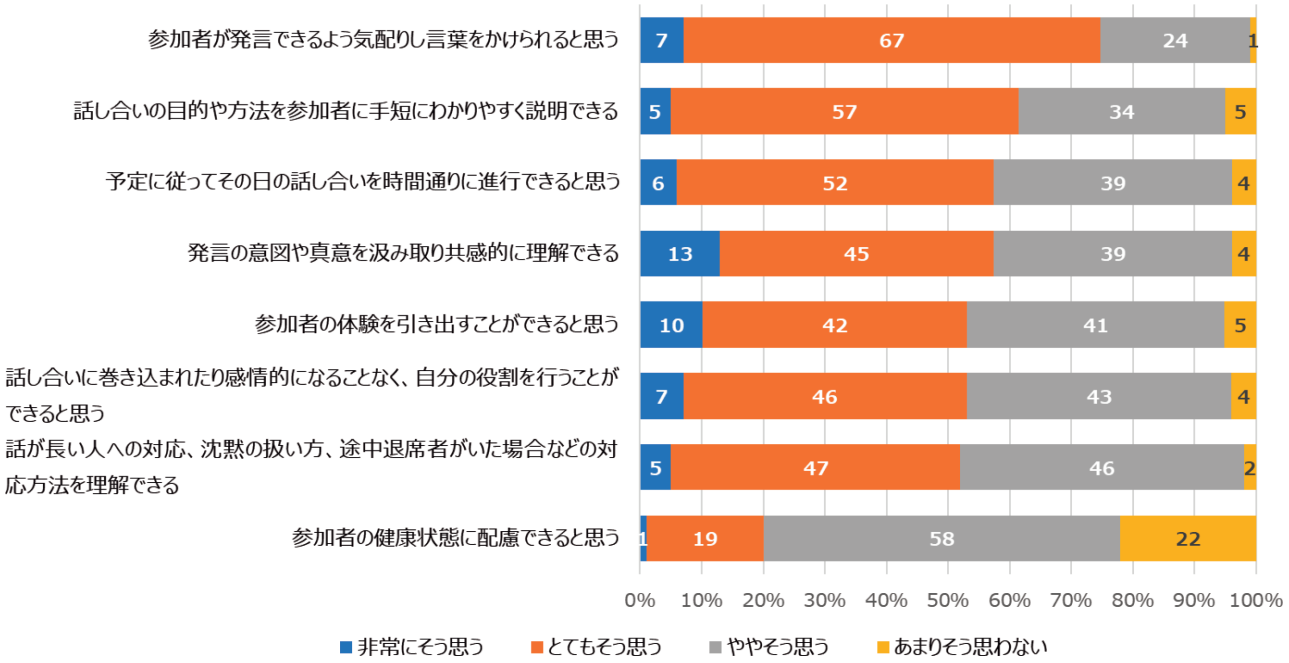
図表８　サポートグループ運営に関する自己評価に基づくレベル分けとクラスター分析結果

2021年11月3日開催　(n=82)	研修前 平均値	研修前 標準偏差	研修後 平均値	研修後 標準偏差	*t*値 (df=81)	*p*※	*d* 効果量
サポートグループの必要性を理解している	4.00	0.75	4.55	0.57	-6.31	0.00	0.73
サポートグループの効果を理解している	3.80	0.78	4.55	0.52	-8.13	0.00	0.96
ファシリテーターの役割を理解している	3.35	0.74	4.46	0.53	-11.13	0.00	1.49
ピアサポーターが参加することの重要性を理解している	3.89	0.83	4.48	0.53	-6.27	0.00	0.70
サポートグループの運営に積極的に関わりたい	3.82	0.88	4.30	0.68	-6.25	0.00	0.56
医療者とピアサポーターが協働する方法について理解している	2.98	0.85	4.12	0.69	-11.15	0.00	1.36
自施設でピアサポーターと積極的に協働したいと思う	3.78	0.88	4.23	0.79	-4.82	0.00	0.52
自施設のサポートグループの課題改善のために取り組みたい	4.01	0.81	4.38	0.68	-4.90	0.00	0.45
自施設の他部門との連携のためにサポートグループ活動を発信したい	3.73	0.94	4.27	0.70	-5.93	0.00	0.57
サポートグループを自信を持って運営できる	2.39	0.86	3.41	0.83	-9.98	0.00	1.20

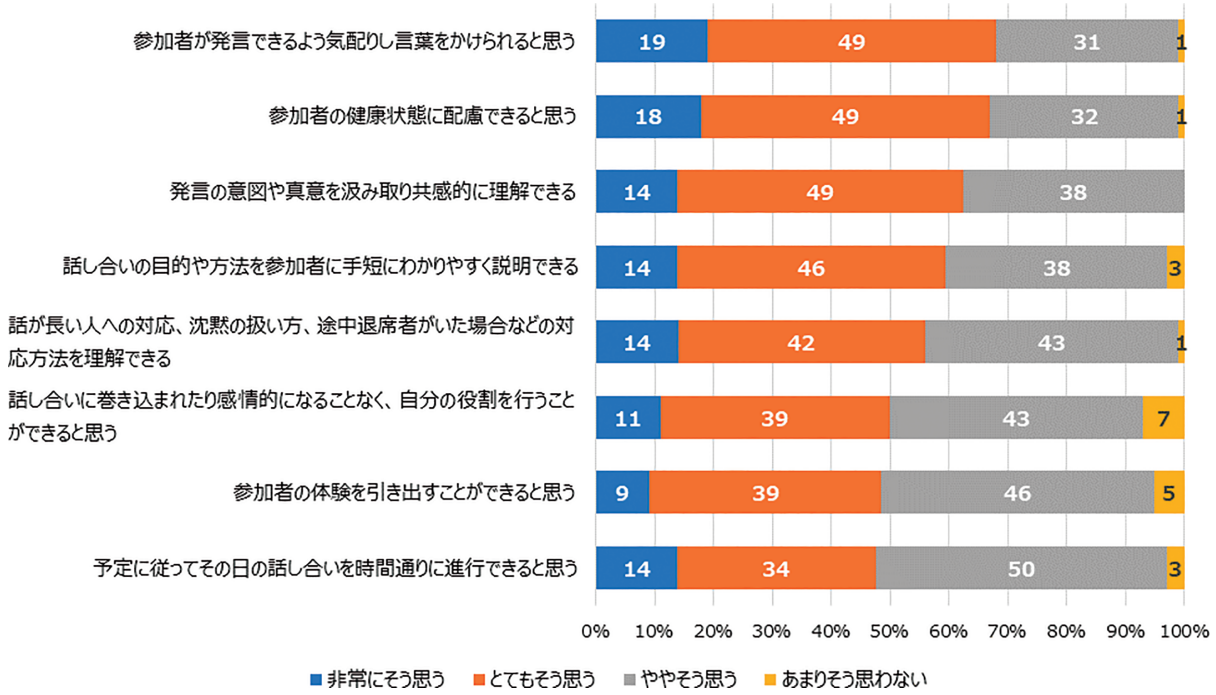
2022年2月11日開催　(n=74)	研修前 平均値	研修前 標準偏差	研修後 平均値	研修後 標準偏差	t値 (df=73)	*p*※	d 効果量
サポートグループの必要性を理解している	3.91	0.85	4.65	0.48	-8.04	.000	0.88
サポートグループの効果を理解している	3.68	0.83	4.48	0.56	-7.84	.000	0.96
ファシリテーターの役割を理解している	3.31	0.86	4.53	0.58	-13.10	.000	1.42
ピアサポーターが参加することの重要性を理解している	3.86	0.82	4.59	0.52	-7.86	.000	0.89
サポートグループの運営に積極的に関わりたい	3.86	0.75	4.30	0.74	-4.49	.000	0.58
医療者とピアサポーターが協働する方法について理解している	2.93	0.80	4.20	0.64	-12.87	.000	1.59
自施設でピアサポーターと積極的に協働したいと思う	3.74	0.72	4.22	0.63	-5.34	.000	0.65
自施設のサポートグループの課題改善のために取り組みたい	3.95	0.70	4.30	0.66	-4.04	.000	0.50
自施設の他部門との連携のためにサポートグループ活動を発信したい	3.62	0.73	4.03	0.78	-3.73	.000	0.55
サポートグループを自信を持って運営できる	2.30	0.74	3.30	0.75	-10.39	.000	1.36

※Paired-samples t-test

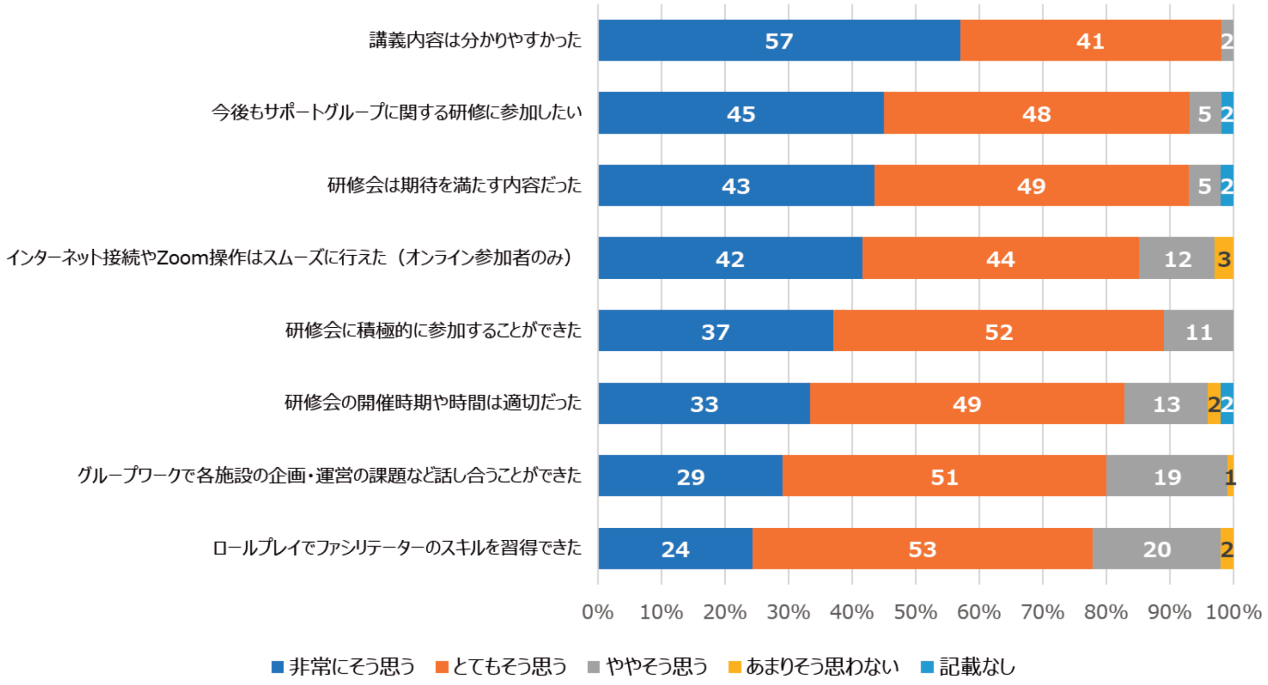
図表９　サポートグループ運営に関する自己評価に基づくレベル分けとクラスター分析結果



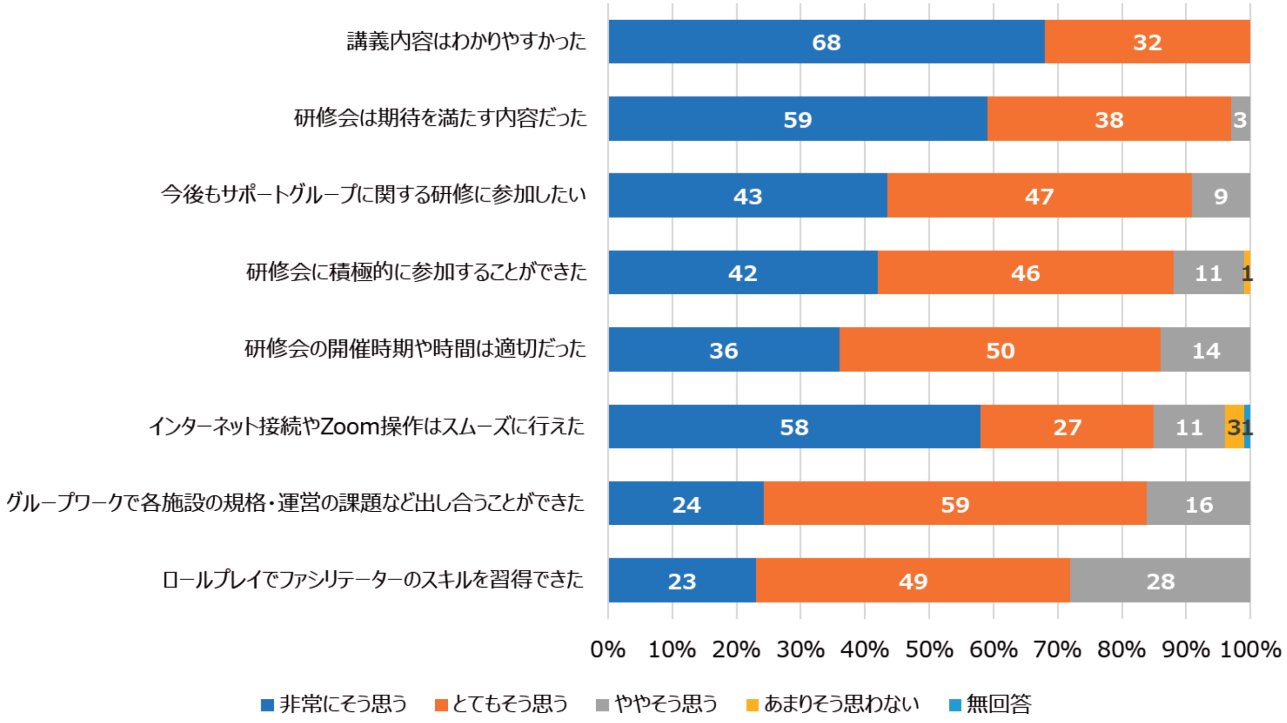
図表 10　ファシリテーションの評価（2021 年 11 月 3 日）



図表 11　ファシリテーションの評価（2022 年 2 月 11 日）



図表 12　研修会全体の評価（2021 年 11 月 3 日）



図表 13　研修会全体の評価（2022 年 2 月 11 日）

令和３年度厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業
短期サポートグループワーキンググループ　会議報告

第１回 WG 会議

日時：令和３年６月８日

議事：(1) 事業内容の確認

(2) ワーキングの方向性の検討

(3) 今後の予定の確認

第２回 WG 会議

日時：令和３年６月 26 日

議事：(1) 研修会概要決定（研修会日時、それに向けたスケジュール）

(2) 役割分担の確認

第３回 WG 会議

日時：令和３年９月 14 日

議事：(1) 研修会準備状況の共有、スケジュールの確認

(2) 研修会受講者（令和２年２月 11 日実施）　半年後追跡アンケートの結果共有

(3) オンラインサポートグループ実施の際の留意点についての検討

第４回 WG 会議

日時：令和３年 10 月 25 日

議事：11 月３日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

第５回 WG 会議

日時：令和４年１月 14 日

議事：２月 11 日実施の研修会に向けた役割分担、講義スライドの最終確認、事務連絡

第６回 WG 会議（予定）

日時：令和４年３月

議事：研修会反省、年度内の総括

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会（令和３年度第１回）

日時：令和３年 11 月２日（前日打合せ 18：00～19：00）

令和３年 11 月３日

（直前打合せ 8：30～9：00、研修会 10：00～17：00、反省会 17：00～18：00）

会場（配信拠点）：富士ソフトアキバプラザ（東京都千代田区神田練堀町 3）

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会（令和３年度第２回）

日時：令和４年２月 10 日（前日打合せ 18：00～19：00）

令和４年２月 11 日

（直前打合せ 8：30～9：00、研修会 10：00～17：00、反省会 17：00～18：00）

会場（配信拠点）：AP 大阪茶屋町（大阪府大阪市北区茶屋町 1-27）

Ⅳ．都道府県への支援

1. ピア・サポーター向け研修会の実施

1）山形県 ピア・サポーターフォローアップ研修会

実施日：令和 3 年 11 月 14 日　10：00～15：00　開催形式：ハイブリッド

参加者：ピア・サポーター 22 名、山形県がん診療連携拠点病院等の医療従事者 8 名

2）長崎県がん診療連携協議会　相談支援 WG 研修会・ピア・サポーターフォローアップ研修会

実施日：令和 4 年 1 月 29 日（土）13：00～17：00　開催形式：WEB（配信拠点：出島メッセ長崎）

参加者：ピア・サポーター 14 名、長崎県がん診療連携拠点病院等の医療従事者 15 名、長崎県医療政策課 5 名

時間	分	分	内容	担当
長崎県がん診療連携協議会　相談支援WG研修会　（主催：長崎県がん診療連携協議会　相談支援WG）				
10：00～11：30	90		がん相談員に求められるピア・サポート活動の支援 ～千葉県のピア・サポート活動について学ぶ～	
フォローアップ研修会　（主催：長崎県、日本サイコオンコロジー学会）				
研修会開始～基礎知識復習				
13:00～13:30	30	5	開会あいさつ、オリエンテーション	吉田
		25	ピア・サポート基礎知識の復習	倉田
事例検討				
13:30～15:20	110	10	説明＆グループへ移動	齋藤
		5	アイスブレーク	グループごと
		20	グループごと：1例目検討	グループごと
		15	全体：1例目振り返り(4グループ×3分)	齋藤
		5	休憩	
		30	グループごと：2例目検討	グループごと
		30	全体：2例目振り返り(4グループ×7分)	齋藤
15:25～15:35	10	10	休憩	
テーマを決めた「自分の体験を語る」				
15:35～16:45	70	10	説明、デモンストレーション	野田、桜井
		30	1回目	
		30	2回目	
16:45～16:55	10	10	閉会あいさつ	長崎県、秋月

3）栃木県 がんのピア・サポート基礎研修

実施日：令和 4 年 2 月 12 日（土）13：30～15：30　開催形式：WEB

参加者：がん体験者・家族 28 名、栃木県がん診療連携拠点病院等の医療従事者・県市町行政担当者 35 名

タイムテーブル	内容	担当
13:30～13:35	開会挨拶	栃木県
13:35～13:40	栃木の取組について	栃木県
13:40～13:50	ピア・サポーター養成研修会・ がんサポートグループ企画運営者のための研修会紹介	齋藤
13:50～14:25	ピア・サポートの基本	桜井、齋藤、野田
14:25～14:50	先行事例の紹介	吉田
14:50～15:00	質疑応答	
15:00～15:05	休憩	
15:05～15:25	座談会	栃木県&講師
15:25～15:30	閉会あいさつ	栃木県

4）石川県 ピア・サポーターフォローアップ研修会

実施日：令和 4 年 2 月 26 日（土）　10：00～15：00　開催形式：WEB

参加者：18 名、拠点病院サロン担当者 2 名、県庁担当課保健師 1 名、県がん安心生活サポートハウス所長、スタッフ各 1 名

研修会次第

1. 開会
2. ブレイクアウトセッション①：アイスブレーク（近況報告など）
3. 講演「ピア・サポートについて」 小川 朝生 先生（国立がん研究センター先端医療開発センター）
4. ブレイクアウトセッション②：講演の感想、詳しく聴きたいところなどを共有
5. 全体共有、質疑など
6. 閉会

2. 都道府県との意見交換会、打合せ

1）栃木県 意見交換会

実施日：令和 2 年 8 月 10 日（火）13：00～16：30

参加者：栃木県保健福祉部健康増進課 2 名

主な議題：

1. 栃木県から現在の取組について説明
2. ピア・サポーター養成に向けた今後の取組方針等の意見交換

2）高知県 意見交換会

実施日：令和 3 年 8 月 11 日（水）15：00～16：30

参加者：高知県健康政策部健康対策課 2 名

主な議題：

1. 委託事業からピア・サポートの概要について説明
2. 高知県から現在の取組について説明
3. 意見交換

3）長崎県 意見交換会

実施日：令和 3 年 10 月 15 日（金）14：00～15：00

参加者：17 名（長崎県医療政策課 2 名、がん診療連携拠点病院の相談支援センター職員 6 施設 15 名）

主な議題：

1. ピア・サポーターフォローアップ研修についての相談支援部門からの要望
2. 日本サイコオンコロジー学会から研修会内容、役割分担等の提案
3. 長崎県医療政策課から日程、場所の提案
4. フォローアップ研修プログラムについて意見交換

4）沖縄県 意見交換会

実施日：令和 4 年 1 月 28 日（金）13：30～15：30

参加者：23 名（沖縄県庁 2 名、沖縄県地域統括相談支援センター職員 4 名、沖縄県がん診療連携拠点病院等の医療従事者 11 名、患者会代表 6 名）

主な議題：

1. 委託事業からピア・サポートの概要について説明
2. 意見交換

議題 1　医療者のピア・サポートに対する認知度について

議題 2　ピア・サポーターの確保について

議題 3　オンラインでのがんサロン開催について

議題 4　チャット、メール、SNS 使用したピア・サポートについて

議題 5　希少がんの方へのピア・サポートについて

3. 都道府県 行政・医療者向け研修会

1）福岡県 がん患者に対するピア・サポート勉強会

実施日：令和 3 年 7 月 28 日

参加者：29 名

（福岡県がん感染症疾病対策課 4 名、委託先団体 8 名、がん診療連携拠点病院の相談支援センター職員 10 施設 19 名）

研修会次第：

1 開会

2 講義

(1)「ピア・サポートとは、行政の役割」

若尾文彦先生（国立がん研究センターがん対策情報センター）

(2)「医療機関の役割」

佐々木治一郎先生（北里大学病院　集学的がん診療センター）

3 意見交換、情報交換

4 閉会

2）香川県 がんピア・サポート医療従事者向け研修会

実施日：令和 3 年 11 月 16 日 13：30～16：00

参加者：12 名

（香川県庁 3 名、がん診療連携拠点病院の相談支援センター職員等 5 施設 9 名）

研修会次第：

1 開会

2 情報提供　本県のこれまでのピア・サポートにおける取組みについて

3 講演・質疑応答

(1)「ピア・サポートについて」

小川 朝生 先生（国立がん研究センター先端医療開発センター）

(2)「ピア・サポートの現状と課題～患者団体の立場より～」

松本 陽子 先生（NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会）

(3)「がん診療連携拠点病院でのピア･サポーター活動事例報告、ピア･サポートの推進における医療機関の役割等」

佐々木 治一郎 先生（北里大学病院集学的がん診療センター）

4 情報交換

5 閉会

3）栃木県 ピア・サポーター養成に係る医療従事者・行政担当者研修会

実施日：令和 3 年 12 月 7 日（火） 18：00～19：30

栃木県からの参加者：66 名（栃木県 2 名、がん診療連携拠点病院等の職員 13 施設 59 名、市町村担当者 5 名）

研修会次第：

1 開会

2 講義

(1) ピア・サポートについて

小川 朝生 先生（国立がん研究センター先端医療開発センター）

(2) 国の動向、行政の役割、医療機関の役割

若尾 文彦 先生（国立がん研究センターがん対策研究所）

(3) 医療者とピア・サポーターとの関わり方・取組事例

佐々木 治一郎 先生（北里大学病院集学的がん診療センター）

3 意見交換

4 閉会

4. ピア・サポーター養成研修のための資材提供、情報提供

委託事業事務局に問い合わせのあった都道府県や都道府県が委託しピア・サポーター養成等を行う団体、また資材に興味を持っていただいた団体や個人へ資材の送付・提供を行った。また、都道府県行政とピア・サポート事業に係る各種相談対応、情報交換を行った。

テキスト、資材提供の内容

・ピア・サポーター養成テキスト 2020 年度版

・がんサポートプログラム企画の手引き　2020 年度版

・自治体/がん診療連携拠点病院向け　ピア・サポートを推進するための手引き

・ピア・サポーター養成研修で用いる講義動画（DVD）

各種相談対応、情報交換

・医療者との連携について協議の場の設置の助言、提案

・養成研修会・フォローアップ研修実施、講師派遣の相談

・養成研修プログラムの相談

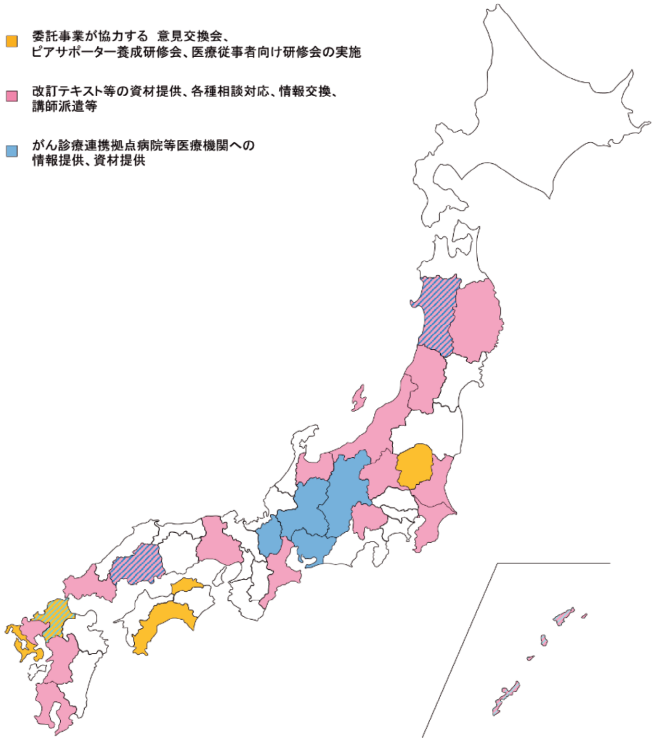
・フォローアップ研修の取り組みについての情報交換

・フォローアップ研修の他都道府県の取り組みの紹介

5. 令和３年度に行った支援内容・支援先の一覧

支援内容	都道府県
ピア・サポート基礎研修の実施	栃木
ピア・サポーターフォローアップ研修会の実施	長崎、山形
行政・医療従事者向け研修会の実施	栃木、香川、福岡
意見交換会の実施	栃木、高知、長崎、沖縄
テキスト、講義動画等の資材提供、各種相談対応、情報交換	都道府県 岩手、宮城、秋田、茨城、群馬、新潟、富山、山梨、三重、兵庫、広島、福岡、佐賀、熊本、鹿児島、沖縄 地域統括相談支援センター 千葉、富山、佐賀
がん診療連携拠点病院、患者会・個人への相談対応、情報交換、資材提供	がん診療連携拠点病院等 秋田、長野、岐阜、滋賀、愛知、山口、福岡 患者会、個人

R3年度の支援状況



6. 委託事業の3か年の支援（令和元年度～令和3年度）

ピア・サポーター養成研修、フォローアップ研修開催の支援		
養成研修未実施だったが研修会実施に至った。または研修前段階の講演を開いた。	2	(R1) (R2)長崎 (R3)栃木
研修が中断していたところ養成の再開、標準プログラムでの研修実施に至った	3	(R1)三重、奈良 (R2) (R3)福岡
フォローアップ研修会未実施だったところ研修会実施に至った	1	(R1) (R2) (R3)長崎
運営協力を行った(研修プログラムの相談、フォローアップ研修会への講師参加)	7	(R1)奈良、宮城、熊本、群馬 (R2) (R3)兵庫、山形、石川
標準プログラムの送付を行い、養成研修を支援 (テキストの送付、動画提供)	16	(R1) (R2) 秋田、山形、群馬、富山、愛媛、広島、佐賀、長崎、熊本、鹿児島、沖縄、 (R3) 千葉、兵庫、佐賀、熊本、沖縄
医療者との連携・構築支援 県に対して医療者との連携の必要性、研修会を設けることを助言。拠点病院内の相談員、サロン関係者を招集し、講義のみではなく、病院間の情報交換の時間も併せて設けるよう助言した。		
医療者向けの研修、行政・医療者を含めた意見交換会を実施した	12	(R1) 岩手、山口、沖縄、長崎、群馬、熊本 (R2) 宮城 (R3) 福岡、香川、栃木、長崎、沖縄
行政への施策の助言 各自治体の個別の問題に対しての助言。（ピア・サポート事業がほとんど進んでいない県に対しては何から取り組み始めるべきかを提案。すでにピア・サポート事業が行われている県に対しては、医療者との関わりがない県も多く運営体制の見直しなどを助言）		
行政との意見交換会を実施した	9	(R1)福岡、山梨、埼玉、高知、香川、島根、鹿児島 (R2) (R3)高知、栃木
各種相談対応(委託先、患者団体との対応を含む。3年間の集計)		
・意見交換会等の開催提案、助言 ・他都道府県での取り組みの紹介 ・テキスト等資材の送付 ・情報交換		都道府県庁・地域統括相談支援センター 青森、岩手、宮城、山形、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、富山、石川、山梨、三重、兵庫、奈良、島根、広島、山口、香川、愛媛、高知、福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄 がん診療連携拠点病院等医療機関への資材送付 秋田、長野、岐阜、滋賀、愛知、山口、福岡、大阪 患者会、個人

V．がん患者に対するピア・サポート体制に関する都道府県調査

改訂委員会委員長　小川　朝生
国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基礎的な心理社会的な支援の一形式である。

がん対策推進基本計画（第 3 期）において、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが個別目標に掲げられている。

本事業では、上記の課題に対応するために、研修プログラムの改訂をおこない、各都道府県への情報提供等を進めてきた。

各都道府県におけるピア・サポート研修の実施状況や行政と医療機関との協力体制に関する現状を把握することを目的に、厚生労働省健康局がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県に対してアンケート調査を実施した。

B. 経過

全都道府県のがん対策の担当部署を対象に、ピア・サポートに関する取組み状況についての自記式アンケート調査を実施した。

実施時期は 2021 年 5 月 25 日～6 月 25 日でおこない、47 の全都道府県担当部署より回答を得た。

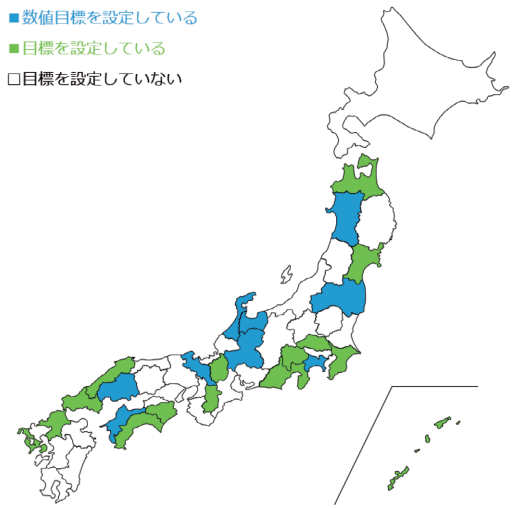
2）回答結果

アンケートの各項目の結果は以下の通りであった。

(1) 都道府県がん対策推進基本計画におけるピア・サポートに関する目標の設定

47 都道府県のうち、何らかの目標を設定している県は 24 県あり、特に数値目標まで掲げた県は 9 県であった。

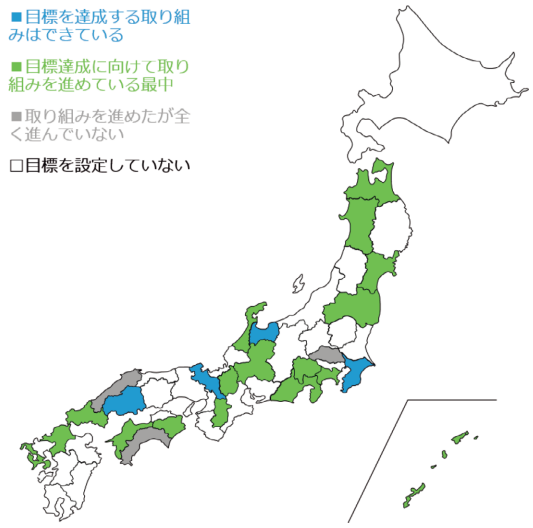
(1)都道府県がん対策推進基本計画におけるピアサポートに関する項目について、目標もしくは数値目標を設定していますか。	県	割合
数値目標を設定している	9	19.1%
目標を設定している	15	31.9%
目標(数値目標)を設定していない	23	48.9%
総計	**47**	**100.0%**



(2) 目標達成に向けた取り組みについて

目標を設定した県のうち、何らかの取組みを進めているのは 21 県であり、目標を達成できている県は 4 県であった。

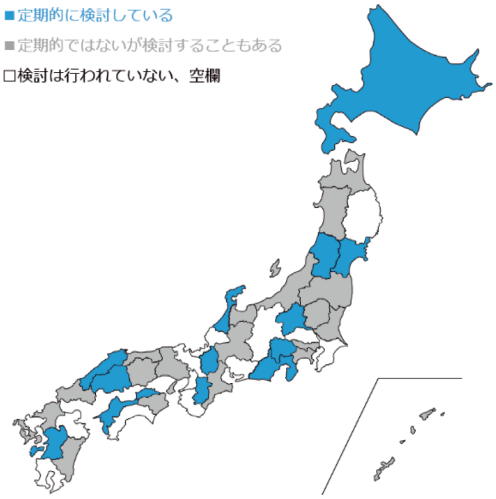
(2) (1)で目標、数値目標を設定していると答えた自治体にお尋ねいたします。目標、数値目標達成に向けた取り組みはどこまで進んでいますか。	県	割合
目標を達成する取り組みはできている	4	8.5%
目標達成に向けて取り組みを進めている最中	17	36.2%
取り組みを始めたが全く進んでいない	3	6.4%
目標(数値目標)を設定していない	23	48.9%
総計	**47**	**100.0%**



(3) 都道府県がん診療連携協議会、部会等のピア・サポートについて検討する枠組みの有無。定期的な検討の実施

47 都道府県のうち、都道府県のがん診療連携協議会等の場で、ピア・サポートについてなんらかの検討を実施している県は 34 県であった。定期的に実施している県が 14 県あった一方、検討の枠組みのない県も 12 県あった。

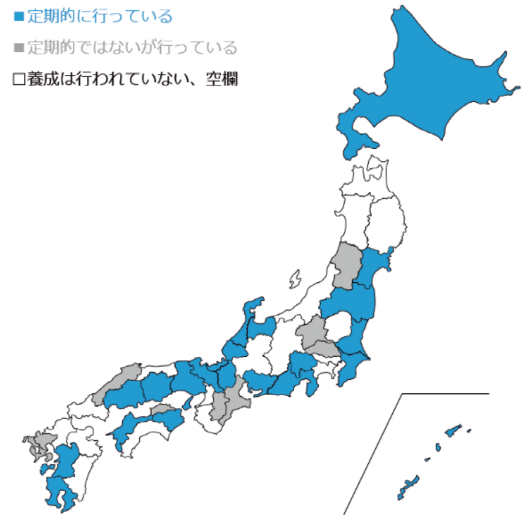
(3)都道府県がん診療連携協議会、部会等でピアサポートについて検討する枠組みはお持ちですか。また定期的な検討は行われていますか。	県	割合
定期的に検討している	14	29.8%
定期的でないが検討することもある	20	42.6%
検討は行われていない	12	25.5%
空欄	1	2.1%
総計	**47**	**100.0%**



(4) ピア・サポーター養成研修会の定期的な開催状況

都道府県によるピア・サポーターの養成を目的とした研修会を定期・不定期で開催している県は 30 県あった一方、行っていない県も 16 県あった。

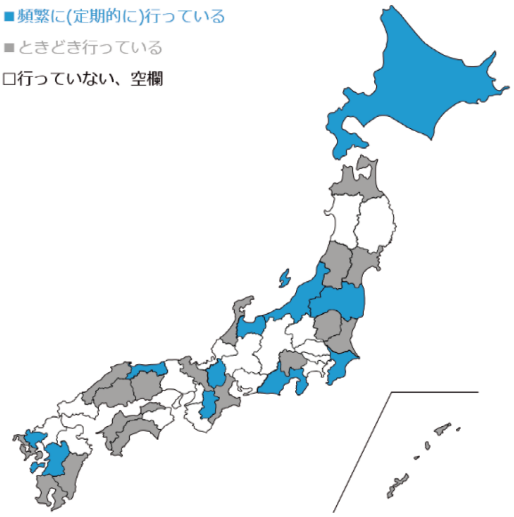
(4)ピアサポーター養成研修会を定期的に(毎年、2年に1回など)行っていますか。	県数	割合
定期的に行っている	21	44.7%
定期的ではないが行っている	9	19.1%
行っていない	16	34.0%
空欄	1	2.1%
総計	**47**	**100.0%**



(5) がんサロン同士の連携や情報共有

定期・不定期で癌サロン同士の連携の場や情報共有を行っている県は 30 県あった。

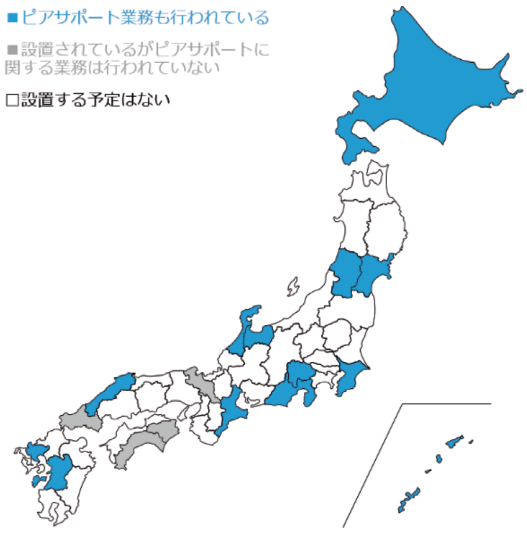
(5)がんサロン同士の連携や情報共有は行っていますか。	県数	割合
頻繁に（または定期的に）行っている	11	23.4%
ときどき行っている	19	40.4%
行っていない	16	34.0%
空欄	1	2.1%
総計	**47**	**100.0%**



(6) 地域統括相談支援センターを設置する予定

ピア・サポーターの養成等マネジメントを担ううえで活用の望まれる地域統括相談支援センター等について、なんらか設置している県は 17 県あり、そのうちの 13 県はピア・サポートに関する業務も行っていた。一方、29 の県は設置する予定はなかった。

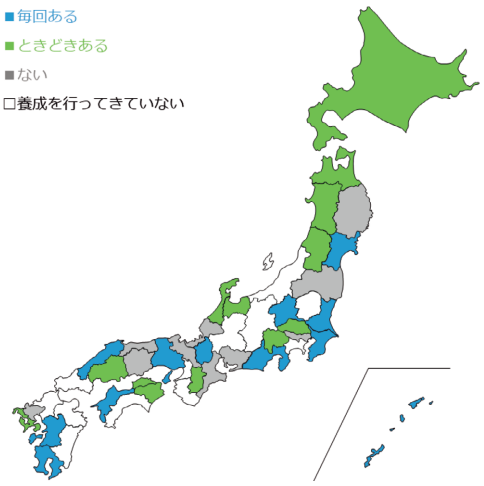
(6)地域統括相談支援センターを設置する予定はありますか。	県数	割合
すでに設置されており、ピアサポートに関する業務も行っている。	13	27.7%
すでに設置されているが、ピアサポートに関する業務は行われていない。	4	8.5%
設置する予定はない	29	61.7%
空欄	1	2.1%
総計	**47**	**100.0%**



(7) ピア・サポーター養成研修会の内容について、がん診療連携拠点病院と検討する機会をお持ちですか。

ピア・サポーターの養成研修会のプログラム等について、がん診療連携拠点病棟の医療者と検討する場を設置している県は 25 県であった。養成をしていない、あるいは検討の場のない県は 22 県であった。

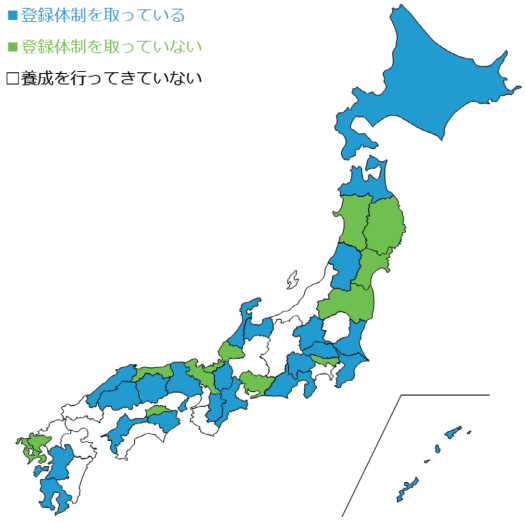
(7)ピアサポーター養成研修会の内容について、がん診療連携拠点病院と検討する機会をお持ちですか。	県数	割合
毎回ある	12	34.3%
ときどきある	13	37.1%
ない	10	28.6%
総計	**35**	**100.0%**



(8) ピア・サポーターを養成した後、登録体制をとっていますか。

ピア・サポーターの養成後のマネジメントとなる登録体制をもつ県は 23 県であった。

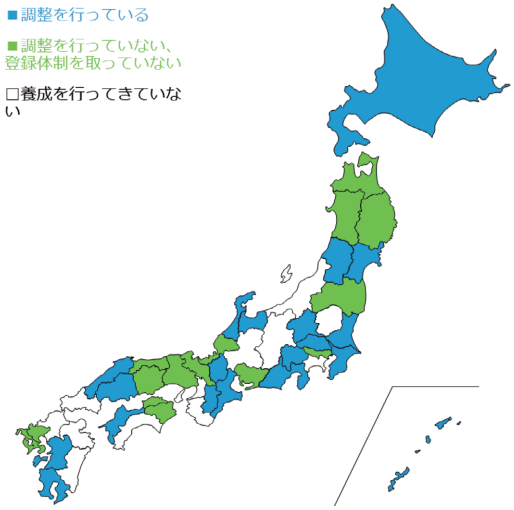
(8)ピアサポーターを養成した後、登録体制をとっていますか。	県数	割合
登録体制をとっている	23	65.7%
登録体制をとっていない	12	34.3%
	35	**100.0%**



(9) 登録されたピア・サポーターに活動の場を提供するための調整は行っていますか（例：がんサロンへの派遣、紹介など）。

養成したピア・サポーターをがん診療連携拠点病院等へ派遣する等のマネジメントを行っていた県は 20 県であった。

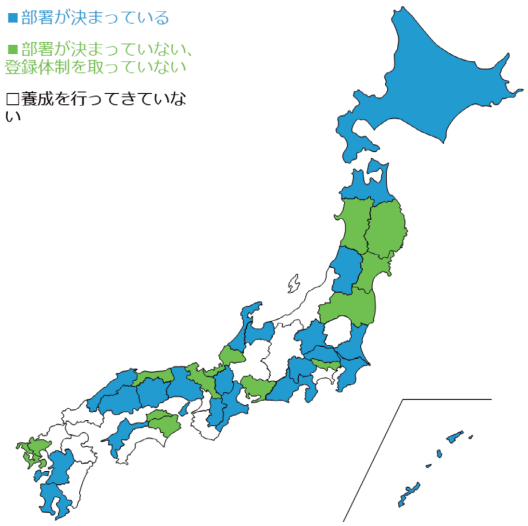
(9)登録されたピアサポーターに活動の場を提供するための調整は行っていますか(例：がんサロンへの派遣、紹介など)。	県数	割合
調整を行っている	20	57.1%
調整を行っていない	15	42.9%
総計	**35**	**100.0%**



（10）登録されたピア・サポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署・担当者（もしくは行政以外の他機関）は定まっていますか。

ピア・サポーターの養成から活用までの担う部署を定めている県は22県であった。

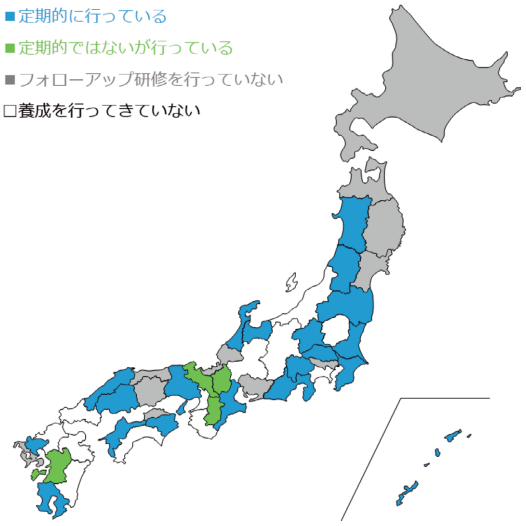
(10)登録されたピアサポーターの教育、管理などのマネジメントを全般的に行う部署・担当者(もしくは行政以外の他機関)は定まっていますか。	県数	割合
決まっている	22	62.9%
決まっていない・登録体制を取っていない	13	37.1%
総計	**35**	**100.0%**



（11）フォローアップ研修会は定期的に行っていますか。

ピア・サポートの質を担保するために重要となるフォローアップ研修を行っている県は24県であり、そのうち定期的に実施している県は20県であった。

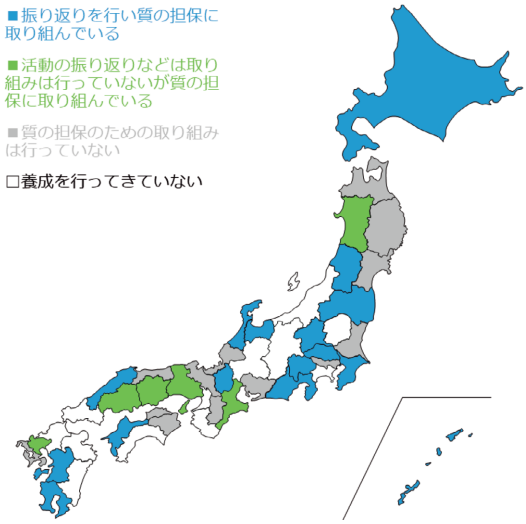
(11)フォローアップ研修会は定期的に行っていますか。	県数	割合
定期的に行っている	20	57.1%
定期的ではないが行っている	4	11.4%
行っていない	11	31.4%
総計	**35**	**100.0%**



（12）活動の振り返りなどを行い、ピア・サポーターの質の担保に取り組んでいますか。

同じく、ピア・サポートの質を維持・向上させる上で、ふり返りの機会を作ることは重要である。何らかの質の担保に取り組んでいる県は22県あり、そのうち、活動のふり返りを行っている県は16県であった。

(12)活動の振り返りなどを行い、ピアサポーターの質の担保に取り組んでいますか。	県数	割合
活動の振り返りを行い質の担保に取り組んでいる	16	45.7%
活動の振り返りは行っていないが、質の担保に取り組んでいる	6	17.1%
活動の振り返りなど、質の担保のための取り組みは行っていない	13	37.1%
	35	100.0%



C. 考察

今回、都道府県のがん対策担当部署を対象に、ピア・サポートに関する各県の取組みの実態調査をおこない、全都道府県より回答を得た。わが国におけるがん領域のピア・サポートの実態が初めて明らかとなった。

結果の主要なまとめは以下の通りである。

- 都道府県がん対策推進基本計画でピア・サポートに関して目標を設置しているのは24都道府県（51.0%）であった。数値目標を設定しているのは9都道府県（19.1%）であった。
- 都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは14都道府県（29.7%）であった。また、養成研修の内容をがん診療連携拠点病院と定期的に検討する機会を設定しているのは12都道府県（25.5%）であった。
- がん診療連携拠点病院内のがんサロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは11都道府県（23.4%）であった。
- ピア・サポーター養成研修会が定期的に開催されているのは21都道府県（44.7%）であった。
- ピア・サポーターを養成している都道府県のうち、養成した後登録制度を取っているのは23都道府県（65.7%）、派遣等のピア・サポーター活動の調整を行っているのは20都道府県（51.7%）、登録されたピア・サポーターのマネジメントを行う部署等が決まっているのは22都道府県（62.9%）、フォローアップ研修を定期的に開催しているのは20都道府県（57.1%）、活動ごとに振り返りを行っているのは16都道府県（45.7%）であった。

国のがん対策推進基本計画を受けて、都道府県ごとにがん対策に関する計画を立案する。そのなかで、ピア・サポートに関する目標を設定した県がおよそ半数であった。特に数値目標の設定は9県にとどまっており、ピア・サポートに関する取組みやモニタリングの難しさを示している。

特にピア・サポートは、がん患者・家族への心理社会的支援の基盤を成す活動である。そのため、行政と医療機関とが継続して活動

を育む必要がある。しかし、行政と拠点病院がピア・サポートについて検討する場を持っている都道府県は4分の1にとどまっていることが明らかとなった。今後、ピア・サポートの養成・活用を進めるうえで、都道府県ごとに行政担当者と医療従事者の理解を深めると共に、行政と医療機関が県内でどのように育成するかを一緒に検討する場を設けるよう進めていくことがまず求められる。

また、県内のがん診療連携拠点病院等のがんサロンやピア・サポートに関する情報共有が行われている県は11県であった。これは、ピア・サポートの養成に行政のみで関わっている形式や、医療機関内で閉じていることが多いことを示している。実際には、ピア・サポートのような基本的な心理社会的支援は、患者・家族のニーズに応じて使い分けていくことが大事である。その点で、がん患者・家族が、アクセス可能なピア・サポートに関する情報に接することができるよう促す仕組み作りも重要である。

今回明らかとなった各種の取組みの実態は、ピア・サポートを各都道府県で実施する上でのプロセスを反映している。同じ指標を用いて継続的に評価することにより、ピア・サポートに関する施策の進捗を管理することが可能となる。

Ⅵ. 資料集

1. 意見交換会、医療従事者向け研修会

令和３年度香川県がんピア・サポート医療従事者向け研修会

日時：令和３年 11 月 16 日（火）13:30～16：00

１　開会

２　情報提供（13:35～13:45）

本県のこれまでのピア・サポートにおける取組みについて・・・資料１

３　講演・質疑応答（13:45～15:15）

（１）「ピア・サポートについて」・・・資料２

講師：国立がん研究センター東病院　小川　朝生　先生

（２）「ピア・サポートの現状と課題～患者団体の立場より～」・・・資料３

講師：NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会　松本　陽子　先生

（３）「がん診療連携拠点病院でのピア・サポーター活動事例報告、ピア・サポートの推進における医療機関の役割等」・・・資料４

講師：北里大学病院集学的がん診療センター　佐々木　治一郎　先生

― 休憩 ―

４　情報交換（15:25～15:55）・・・資料５

５　閉会

本県のピア・サポートにおける取組みと現状について

香川県健康福祉総務課
がん対策グループ

これまでの取組み

ピアカウンセリング研修（平成22年度、23年度）

・対象者：県内のがん患者団体に加入し、「ピア（仲間）カウンセリング」を実施もしくは予定している者　等
・内　容：医師、臨床心理士、認定看護師等による講演とグループワーク（３回コース）
・修了者：13人（平成22年度）
　　24人（平成23年度）

ピア・ポートセミナー（平成30年度、令和元年度）

・対象者：香川県内がん患者会会員等
・内　容：臨床心理士、がん患者会代表者による講演とグループワーク
・参加者：32人（平成30年度）
　　42人（令和元年度）

ピア・サポートの位置づけ

第３期がん対策推進基本計画

がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験を共有できる場の存在は重要であり、ピア・サポートに取り組んでいく

第３次香川県がん対策推進計画

○がんに関する相談支援や情報提供体制の充実
【取り組むべき施策】
拠点病院や患者会における相談支援等の取組みを支援するとともに、関係者と協力して、ピア・サポート研修を実施し、サポーターの養成や技量の向上を図るとともに、ピア・サポーターの活用を促進するなど、充実したピア・サポートが行われる環境づくりに努める

がんピア・サポート養成研修に係る行政支援情報交換会（令和元年度）

・がん総合相談に携わる者に対する研修事業（一般社団法人日本サイコロジー学会委託）を活用し、実施
・本県の現状を共有し、今後の方向性について検討を行った
⇒**令和３年度がんピア・サポート医療従事者向け研修会の開催**

【がん総合相談支援に携わる者に対する研修事業】
日本サイコロジー学会が患者団体等と連携し、ピア・サポートの実態を調査し研修プログラムの改訂や研修会の開催を通して、がん患者さんに対して提供されるピア・サポート体制の普及・強化を図ることを目指している

がん患者会ネットワーク香川（平成27年設立）

【活動内容】

県内10のがん患者団体が、それぞれの設立の趣旨や目的を超えてお互いに連携・協働して活動することで、患者会活動の円滑な推進と関係機関との連携を図る。

社会貢献活動を通して、**がん患者が生きる意味や自らの価値を再認識**でき、**自分らしく安心して暮らせる社会の実現**を目指す。

今年度よりホームページを開設。
・各患者会の紹介やイベントの周知
・web上での相談受付　　等

https://gannet-kagawa.com/

がん患者相談支援事業（患者会委託）

【内容】

がん患者やその家族（以下「がん患者等）」）が抱える悩み等に対して、がん患者等と同じ立場の者による相談の機会を設けることにより、がん患者等の療養生活等における支援を行う

電話（LINE）相談、交流会、専門家（医師、看護師、社会福祉士等）による相談会の開催等

今年度は５つの患者団体へ委託し、相談支援を実施

実績	委託団体数	電話相談業務（件）	交流会等の相談業務（参加者数）	専門家等による相談業務（参加者数）
H30	3		92	173
R 1	3		204	145
R 2	3	162	181	143

ピアサポーター養成に係る医療従事者・行政担当者研修会　次第

日時：令和３(2021)年 12 月７日（火）18:00～19:30

１　開　会

２　講　義

（１）ピアサポートについて

小川 朝生 先生（国立がん研究センター先端医療開発センター）

（２）国の動向、行政の役割、医療機関の役割

若尾 文彦 先生（国立がん研究センターがん対策研究所）

（３）医療者とピアサポーターとの関わり方・取組事例

佐々木 治一郎 先生（北里大学医学部新世紀医療開発センター）

３　意見交換

４　閉　会

≪配布資料≫

資料１　　ピアサポートについて

資料２　　国の動向、行政の役割、医療機関の役割

資料３　　医療者とピアサポーターとの関わり方・取組事例

ピアサポーター養成に係る
医療従事者・行政担当者研修会

県では、がんの診断を受けた患者の精神的苦痛を緩和するため、がん経験者等がその治療体験等を活かし患者の悩みや不安を傾聴し共感的に受け止め課題解決を図るピアサポーターの養成に向けて取組を進めています。

今回は、ピアサポーターへの理解を深めるため、医療従事者及び行政担当者に向けの研修会を開催いたします。

研修会について

【対 象 者】　医療従事者及び市町行政担当者

【日　　時】　令和３(2021)年１２月７日（火）
１８：００～１９：３０（９０分間）

【開催方法】　ｗｅｂ開催
※アカウントについては、申込み後、参加者あて別途お知らせします。

【申込方法】　裏面をご確認下さい。

【申込締切】　令和３(2021)年１１月２６日（金）

【内　　容】　講　　演
〇小川 朝生 先生（国立がん研究センター先端医療開発センター）
ピアサポーターの基本事項
〇若尾 文彦 先生（国立がん研究センターがん対策研究所）
国の動向、行政・医療機関の役割
〇佐々木 治一郎 先生（北里大学病院集学的がん診療センター）
医療者のピアサポーターとの関わり方（取組事例等）

※講演後、意見交換等を実施します。

裏面：参加申込み書

ピアサポーター養成に係る医療従事者・行政担当者研修会　参加申込み書

☆【申込締切】　令和３(2021)年１１月２６日（金）

担当者

所属団体・機関	部　署	役　職	氏　名	備　考
	メールアドレス			

※担当者の出欠については、欠席する場合のみ、備考欄に欠席とご記入下さい。

参加者

	部　署	役　職	氏　名	備　考
1				
2				
3				
4				
5				

※５名以上の参加の場合は、欄を追加してご記入下さい。

＜メールでお申込みの場合＞

件名を【ピアサポーター研修申込み】とし、担当者については、所属団体・機関、部署、役職、氏名、電話番号、メールアドレス、各参加者については、所属、役職、氏名をご記入いただき、下記の岩崎メールアドレスに送信ください。

＜FAX でお申込みの場合＞

メールでのお申し込みと同じく、申込書をご記入いただき、028-623-3920 に送信してください。

＜送信先＞
栃木県保健福祉部健康増進課がん・生活習慣病担当　：　岩崎
ＴＥＬ：０２８－６２３－３０９６
ＦＡＸ：０２８－６２３－３９２０
E-mail：iwasakih03@pref.tochigi.lg.jp

令和３年度　がんピアサポートに関する意見交換会

次　第

日　時：令和４年１月28日（金）
　　午後13時30分～15時30分
場　所：Web開催
司　会：健康長寿課　がん対策班　小波津

１．開会

２．開会の挨拶　　沖縄県健康長寿課がん対策班長　沖山

３．講演
「ピアサポートについて」
講演者：
一般社団法人　日本サイコオンコロジー学会
委託事業委員長　小川　朝生

４．意見交換　　（事前ｱﾝｹｰﾄNo.）
議題１　医療者のピアサポートに対する認知度について　（問１）
議題２　ピアサポーターの確保について　（問２）
議題３　オンラインでのがんサロン開催について　（問５）
議題４　チャット、メール、SNS使用したピアサポートについて（問３）
議題５　希少がんの方へのピアサポートについて　（問４）

５．閉会

【配布資料】
１　会次第
２　資料１　「ピアサポートについて」
３　資料２　事前アンケート（とりまとめ）
４　資料３　参加者名簿

がんのピアサポート基礎研修会　次第

日時：令和４(2022)年２月 12 日（土）13:30～15:30

開催方法：ｗｅｂ開催（ｚｏｏｍ）

１　開　会

２　栃木県の取り組みについて

岩﨑 宏貴（栃木県保健福祉部健康増進課がん生活習慣病担当）

３　講　義

（１）ピアサポーター養成研修会・がんサポートグループ企画運営のための研修会 紹介

齋藤　円　氏（市立ひらかた病院精神科）

（２）ピアサポートの基本

桜井 なおみ 氏（一般社団法人ＣＳＲプロジェクト）

野田　真由美　氏（ＮＰＯ法人支えあう会「α」）

齋藤　円　氏（市立ひらかた病院精神科）

（３）先行好事例の紹介

吉田　稔　氏（日本赤十字社熊本健康管理センター）

４　座談会

５　閉　会

≪配布資料≫

資料１　　がん患者支援事業について

資料２　　ピアサポーター養成研修会・がんサポートグループ企画運営のための研修会 紹介

資料３　　ピアサポートの基本

資料４　　先行好事例の紹介

がんのピアサポート基礎研修会

あなたの体験を同じがんに悩む方への支援に活かしてみませんか。

＊＊＊＊＊　＊＊＊＊＊

栃木県では、自身の体験を活かし、がんに罹患した方の悩みや不安を聞くことや理解することで不安を和らげる「ピアサポーター」の養成研修会を開催します。

※今後、ピアサポーターの養成に向けて、随時、研修会を実施していきます。

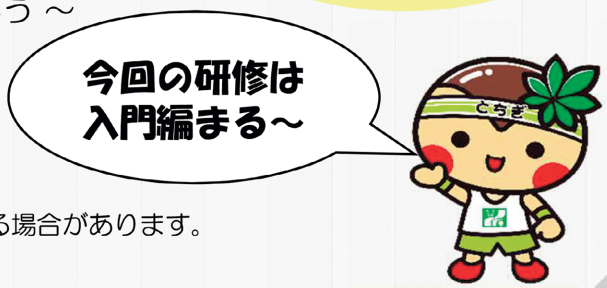
日時　令和４(2022)年２月１２日(土) １３時３０分～15時30分

開催方法　web開催（zoom使用）
※県庁内でのweb受講もできます。裏面をご覧いただき、お申し込みください。

対象
がんを経験された方
ご家族のがんを経験された方
がんのピアサポートに関心がある方

内容
～ ピアサポートについて知ろう ～
・ピアサポーターとは
・ピアサポーターの役割
・活動事例など
※研修項目については、変更になる場合があります。

ピアサポートとは？
同じ体験をした仲間（ピア）が相互に助け合う（サポート）ことです。がんのピアサポートとは、がんの体験をした本人や家族の支え合いです。



申込方法
詳細は、裏面を御覧いただき、メールまたは裏面のFAX申込書により栃木県健康増進課までお申し込みください。
ご参加お待ちしています。

締め切り　令和４(2022)年１月２１日(金)

申込方法

◆メールでお申込みの場合

件名を【がんピアサポート研修会申込み】とし、**氏名、年齢、性別、電話番号、県庁内受講希望の有無**をご記入の上、（kenko-zoshin@pref.tochigi.lg.jp）に送信してください。

◆FAXでお申込みの場合

下記の申込書を記入し、028-623-3920に送信してください。

お申込みを確認し、3日前までに当日の資料・webアカウントについてご連絡します。

ピアサポートに興味・関心があれば、是非、参加してほしいまる～

がんのピアサポート基礎研修会　申込書

参加者氏名	年齢	性別	電話番号	メールアドレス	県庁内受講

参加にあたり、事前に確認したいことなどがありましたら、ご記入ください。

お問合せ先

栃木県　保健福祉部　健康増進課　がん・生活習慣病担当

TEL 028-623-3096　FAX 028-623-3920

E-mail kenko-zoshin@pref.tochigi.lg.jp

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がん相談支援に携わる医療者必見

がんサポートグループ 企画・運営者のための研修会

参加費 無料

現在、がん診療連携拠点病院では、医療者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援が求められ、すでにさまざまな取り組みがされています。それらが施設のがん患者とその家族のニーズに適した支援となっているよう、質の向上を図ることが重要です。

本研修は、がんサポートグループの基本的な知識や技術を講義や動画、ロールプレイを通して実践的に学習できます。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるためのより最適で効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

申込期間 9/6(月) ～ 9/30(木) 17：00

－ 日時 －

2021年

11月3日

（水・祝）

10：00～17：00

定員：90名

（会場＋Web）

応募者多数の場合は選考

開催方法

Web・会場のハイブリッド開催

―申込時に参加形式をお選びください―

【Web】 Zoom Meeting

【会場】富士ソフトアキバプラザ

（東京都千代田区神田練塀町３）

対象

がん診療連携拠点病院等で

がん相談支援に携わる医療者

看護師、MSW、心理職、医師、薬剤師等

講義・実践編の両方参加できる方および事前評価アンケートを提出できる方

10：00～17：00　参加受付 9：40～

講義編
10：00～12：00

●がん患者の心理社会的支援　●がんサポートグループとは
●がんサポートグループの方法：形態や目的、ファシリテーションの基本スキル
●多様なニーズへの対応（起こり得る事例）　●ピアサポーターとの協働　等

実践編
13：00～17：00

●基本的なコミュニケーションスキル　●動画で学ぶファシリテーションの実際
●ロールプレイ（ファシリテーター体験）　●企画・運営に関するグループワーク 等

～次回予告～

2022年2月11日（金・祝）

大阪にて開催予定

開催方法	Web・会場のハイブリッド開催
会場	Zoom Meeting ＆大阪近郊
プログラム	上記と同じものです
申込期間	2021年12月上旬～2022年1月中旬

※募集が始まりましたら委託事業HPでご案内いたします。https://www.peer-spt.org/

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会

参加費無料

申込方法　**申込期間**　2021年9月6日(月) ～ 2021年9月30日(木) 17：00

- インターネットでの申込をお願いいたします。以下URLまたはQRコードから お申込みください。
  https://ws.formzu.net/dist/S60979704/
- 申込後、受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが info@peer-spt.sakura.ne.jp にご連絡ください。

留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので@east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いいたします。
- 修了証を全員に発行いたします(会場での出席・Zoomの視聴記録から、講義編・実践編(ロールプレイ)両方の出席が確認できた方に限ります)。
- **新型コロナウイルスの感染拡大の状況等により開催形式の変更の可能性があります。**
- ご登録いただきました個人情報は本研修会のみに使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

WEB参加希望の方へ

- 研修会当日はご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態で参加されることを推奨します。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 機器の貸出等は行っておりません。ご自身でのご準備をお願いいたします。

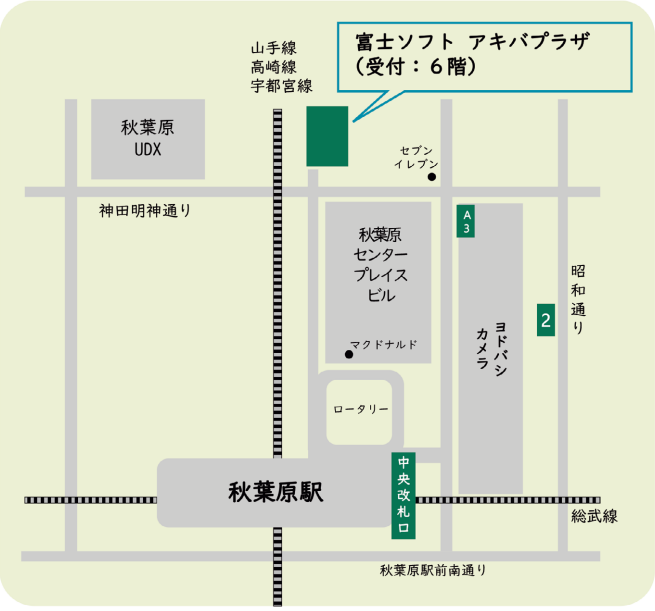
現地参加希望の方へ

- 会場では、マスク着用･手指消毒の上、他の参加者との会話は控えめにお願いいたします。また風邪等の症状がある方は参加をお控えください。

富士ソフトアキバプラザへのアクセス

https://www.fsi.co.jp/akibaplaza/map.html

- JR秋葉原駅　中央改札口より徒歩2分
- つくばエクスプレス線秋葉原駅
  A3出口より徒歩1分
- 東京メトロ日比谷線秋葉原駅
  2番出口より徒歩3分



お問い合わせ先

厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会
委託事業事務局
TEL｜04-7134-6986
URL｜https://www.peer-spt.org/
MAIL｜info@peer-spt.sakura.ne.jp

厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がん相談支援に携わる医療者必見

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会

参加費無料

現在、がん診療連携拠点病院では、医療者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援が求められ、すでにさまざまな取り組みがされています。それらが施設のがん患者とその家族のニーズに適した支援となっているよう、質の向上を図ることが重要です。

本研修は、がんサポートグループの基本的な知識や技術を講義や動画、ロールプレイを通して実践的に学習できます。またグループワークでは、各施設のサポートグループの課題を共有し、解決策を検討します。がん患者と家族が自分らしく暮らせるためのより最適で効果的なサポートグループの企画・運営をめざしましょう。

2022年 2月11日 金・祝

10：00～17：00
定員：90名
（会場＋Web）
応募者多数の場合は選考

申込期間　2021.12月6日(月) ～ 2022.1月3日(月) 17：00

開催方法

Web・会場のハイブリッド開催
―申込時に参加形式をお選びください―

【Web】Zoom Meeting
【会場】 AP大阪茶屋町
（大阪梅田駅、大阪駅、梅田駅から徒歩3分）

対象

がん診療連携拠点病院、地域統括相談支援センター等で
がん相談支援に携わる医療者
看護師、MSW、心理職、医師、薬剤師等

講義・実践編の両方参加できる方および事前評価アンケートを提出できる方

プログラム　10：00～17：00　参加受付 9：40～

講義編 10:00～12:00
●がん患者の心理社会的支援　●がんサポートグループとは　●がんサポートグループの方法：形態や目的、ファシリテーションの基本スキル　●多様なニーズへの対応（起こり得る事例）　●ピアサポーターとの協働等

実践編 13:00～17:00
●基本的なコミュニケーションスキル　●動画で学ぶファシリテーションの実際　●ロールプレイ（ファシリテーター体験）　●企画・運営に関するグループワーク 等

お申込みはこちらから

主催：日本サイコオンコロジー学会
（厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業受託）

厚生労働省委託事業 がん総合相談に携わる者に対する研修事業

がんサポートグループ企画・運営者のための研修会

参加費
無料

申込期間 2021.12月6日(月)～2022.1月3日(月) 17:00

- インターネットでの申込をお願いいたします。下記URLまたはQRコードから お申込みください。
  https://ws.formzu.net/dist/S17050588/
- 申込後、受付完了メールが届かない場合は、お手数ですが info@peer-spt.org にご連絡ください。

留意事項

- 応募者多数の場合は選考を行います。申込時のメールアドレス宛に選考結果を連絡しますので、@east.ncc.go.jp からのメールが受け取れるように設定をお願いいたします。
- 下記3点の要件を満たした方に修了証を発行いたします。
  1.事前評価アンケートへの回答　2.研修会全日の参加　3.事後評価アンケートへの回答
- **新型コロナウイルスの感染拡大の状況等により開催形式の変更の可能性があります。**
- ご登録いただきました個人情報は本研修会のみに使用し、それ以外の目的には使用いたしません。

WEB参加希望の方へ

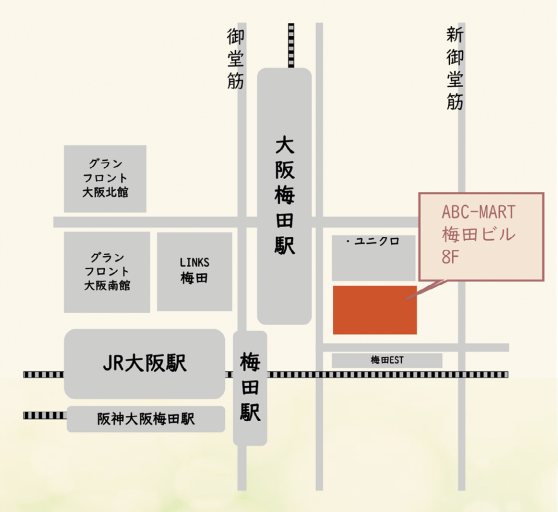
- 研修会当日はご自身でインターネット・Zoomにお繋ぎください。接続に関するサポートは行いませんので予めご了承ください。
- インターネットの接続環境が安定した状態で参加されることを推奨します。
- 同一施設から複数人で申し込まれた場合、1人ずつの申込、当日は1人1端末での参加をお願いいたします。
- 機器の貸出等は行っておりません。ご自身でのご準備をお願いいたします。

現地参加希望の方へ

- 会場では、マスク着用・手指消毒の上、他の参加者との会話は控えめにお願いいたします。また風邪等の症状がある方は参加をお控えください。

AP大阪梅田茶屋町へのアクセス

＜JR「大阪駅」をご利用の場合＞
御堂筋北口より徒歩約3分
＜阪急電車をご利用の場合＞
大阪梅田駅　2F中央改札口より徒歩約1分
＜地下鉄御堂筋線をご利用の場合＞
梅田駅　北改札より徒歩約3分
＜地下鉄谷町線をご利用の場合＞
東梅田駅　北東・北西改札より徒歩約5分
＜阪神電車をご利用の場合＞
大阪梅田駅　東改札口より徒歩約5分



お問い合わせ先 厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業
日本サイコオンコロジー学会　委託事業事務局
TEL｜04-7134-6986　URL｜https://www.peer-spt.org　MAIL｜info@peer-spt.org

令和３年度　厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業

自治体／がん診療連携拠点病院等向け

ピア・サポートを推進するための手引き

～はじめに～

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式です。

わが国のがん対策においては、がん患者・家族の不安や悩みを軽減するために、体験者によるピア・サポートを進めてきました。平成23-25年度に実施されました厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」では、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを作成し、説明会の開催やホームページ等を通して公開されました。

しかし、「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書（平成28年9月　総務省）」では、一部の都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況が指摘されました。進んでいない理由には、活動が活発でない地域があることや各患者会の特性をいかした患者支援を行うため研修の実施を必要としないと都道府県が認識していること、医療機関側の問題として、ピア・サポーターの相談対応力に懸念があること、患者とのトラブルへの対応方針ができていないことなどがあげられています。地域の主体性を重視するあまりに、逆にピア・サポートの普及が阻害されている側面が考えられ、ピア・サポートの研修の質を担保するために、研修開催指針の策定などが提案されました。

これらの経緯を元に、がん対策推進基本計画（第3期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれました。

本事業では、上記計画を受けて、ピア・サポーター養成研修プログラムや研修テキストを改定するとともに、各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指して、都道府県の取組みを支援し、担当部署との意見交換や研修講師の紹介、研修プログラム・研修テキストの提供を進めてきました。2020年より、16の県に改訂委員会委員が出向き、都道府県担当の方やがん診療連携拠点病院等の方と、現状や課題について意見交換を行い課題を共有すると共に、3つの県では行政とがん診療連携拠点病院の医療従事者がピア・サポート活動について一緒に検討する場を設けてきました。

ここでは、上記の意見交換の中で比較的多くいただいた質問をもとに、行政の担当者の方やがん診療連携拠点病院の医療従事者の方が、ピア・サポーターの養成や活用に取り組むためにどのようなことができるのかをまとめ、活用しやすいよう整理いたしました。地域特性に合ったピア・サポート活動を検討する際の一助となりましたら幸いです。

令和3年度がん総合相談に携わる者に対する研修事業

小川朝生

目　次

自治体・がん診療連携拠点病院等共通 …… 54

どうしてピア・サポートが必要なのか …… 54
ピア・サポートとは …… 54
ピア・サポートの形式 …… 55
ピア・サポートの役割 …… 56
支援の中での位置づけ（専門職とピア・サポートの違い） …… 56
がん診療連携拠点病院等のがんサロンのなかでピア・サポート活動を行う必要性 …… 56
ピア・サポーター養成の必要性について（トレーニングの必要性） …… 57
継続した研修の必要性について …… 57
ピア・サポーター養成～維持の仕組み …… 58

自治体向け …… 59

自治体はどのような点で働きかけるか …… 59
国の施策との関連 …… 60
予算の確保 …… 60
ピア・サポートの養成、継続研修、活用を担当する部会を明確にする …… 60
ピア・サポーターの養成研修会の実施 …… 61
ピア・サポーター養成後のマネジメント体制 …… 61
ピア・サポートに関する情報を収集、発信する …… 62
都道府県がん対策推進基本計画への記載 …… 62
自治体の取り組み …… 63
　群馬県の取り組み …… 63
　千葉県の取り組み …… 66
　石川県の取り組み …… 67
　三重県の取り組み …… 70
　奈良県の取り組み …… 71
　熊本県の取り組み …… 72
　長崎県の取り組み …… 74

がん診療連携拠点病院等向け …… 75

行政との協力の必要性について …… 75
養成したピア・サポーターの積極的な活用 …… 75
ピア・サポーターと協働したがんサロン運営のヒント …… 76
「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」への参加 …… 77
地域での取組み …… 78

※この手引きの中で紹介している
『ピア・サポーター養成テキスト』『がんサポートプログラム企画の手引き』は当委託事業HP
http://www.peer-spt.org/内の資料集（http://www.peer-spt.org/document.html）から閲覧・ダウンロードができます。

自治体・がん診療連携拠点病院等共通

●どうしてピア・サポートが必要なのか

がん治療の進歩により、がん患者で長期生存が図れる患者数が増加してきました。今では、がんは慢性疾患の様相をもち、日常生活を送りながら治療を受ける、まさに共生する時代に入っています。

あわせて、がんサバイバー（がんの経験者）という言葉が徐々に知られるようになってきてきました。がんサバイバーとは、「ひどく耐えがたい命に関わるような病気の中にあっても、また病気を克服した後になっても生き続け、かつその人らしく生き続けている人」を指します（National Cancer Instituteの定義）。がんの領域であれば、がんの診断を受けたことのある人であればどなたもがサバイバーであると言われます。

ピア・サポートとは、サバイバーなど、同じ問題や状況を持つ人が、情緒的に支えあい、その問題に適切に対応するための知識や情報を共有していく取組みをさします。ピア・サポートは、その支援が「医療サービスを現在あるいは過去に利用していた個人により提供されること」を最小限の特徴とし、その活動形態は非常に多様です。その効果は、

① 情緒的なサポート：体験を語ることにより乗り越えてきた姿を示す

② 情報提供：医療機関や制度の利用の仕方を活きた形で示す

ことにあります。ピア・サポートは、心理社会的支援の基盤として位置づけられます行政と医療機関が連携して、地域の支援体制の一環として整備していくことが望まれます。

しばしば、ピア・サポートを相談として受け取られることがあります。しかし、ピア・サポートの本来の役割は上記のとおり情緒的サポートと情報提供であり、指示や助言を与える場ではありません。日本においては、活動になじみがないこともあり、しばしば誤解されていることがあります。

●ピア・サポートとは

ピア・サポートとは、同じ問題や体験を持つ人が、情緒的に支え合い、その問題に適切に対応するための知識や情報を共有していく関係を指します。

医療においては、主に慢性疾患や精神障害の方の基本的な心理社会的な支援として行われています。

ピア・サポート活動は、海外ではNPOとして腫瘍ごとや、あるいはがん腫をまたいだ総合的な支援組織として構成され、あらゆる診断やステージを対象に組織されています。またピア・サポートは、患者・家族へのインフォーマルで、フリーな支援として定着するに至っています。

◎**こちらもチェック➡**『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅰ章　ピア・サポートとは　p.10～16

●ピア・サポートの形式

運営主体、参加人数など多様な活動形態があります。

ピア・サポートはもともと自発的に始まる要素も大きく、その活動や内容は幅広くあります。

がんの領域では、主に複数名の参加者とファシリテーターで構成する対面のグループ形式が主流です。その他に、1対1や1対2（複数のピア・サポーター）の対面もあります。

活動する場所も様々あり、対面を中心に、電話やWEB上での活動も行われます。

支援と関連して、医療者が関与する場合、関与しない場合もあります。たとえば、院内で開催する場合には、医療者が治療に関連した教育プログラムを提供したり、グループディスカッションを安全に進めるために看護師や医療ソーシャル・ワーカーがファシリテーターとして参加するサポートグループが行われます。

また、最近では、医療職向けの教育研修（たとえば、緩和ケア研修会）やがん教育の中で、体験の語り手として活動することもあります。

形態	特徴
人数	•利用者１人対ピア・サポーター１人 •利用者１人対複数のピア・サポーター •数人のグループ
コミュニケーション方法	コミュニケーション方法 対面 電話 インターネット上の交流
運営主体	患者団体など 病院 自治体
スケジュール	不定期開催 定期開催 期間を区切った定期開催
場所	病院 公共スペース
医療者の役割	関わらない 運営役として関わる ファシリテーターとして関わる
対象者	誰でも参加できる 登録した人のみ参加できる 特定の条件（がん腫、治療内容、世代など）の人のみ参加できる
費用	無料 有料 保険診療として行う
形式	講義、体操などの体験、レクリエーション

◎こちらもチェック➡

『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』Ⅰ.ピア・サポートとは　p.10～11

『がんサポートプログラム企画の手引き2020年度版』Ⅱ章B.がんサポートグループの形態　p.20～23

●ピア・サポートの役割

ピア・サポートの役割は、体験や情報を共有する（病気とどのように向き合ってきたか、病院やさまざまな支援をどのように利用したか）ことを通して、ヘルス・リテラシーの向上を図ることです。

特に、体験者がどのように過ごしたのか、治療を選択したのか、実体験を聞き、自分自身の経験と照らし合わせながら、生活や治療との向き合い方を考えることにつながります。

- 病気に対して、向き合い方を身につける
- 様々な支援を利用する
- 医療との協力体制を作る
- 自分自身の生活を積極的に選択していく

これらの変化を通して、がん体験者のもつ最も深刻な心理社会的ストレスである、孤立感を軽減し、自己コントロール感の回復につながります。

◎こちらもチェック➡
『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』Ⅰ章　B. ピア・サポートの意義　p.11～13

●支援の中での位置づけ（専門職とピア・サポートの違い）

ピア・サポートの立ち位置が独特であることから、しばしば誤解されがちです。

ピア・サポートの立ち位置は、基本的に「体験の語り手」です。そのため、ピア・サポートの役割は、「情報の提供」にあり、指示や助言をすることにはありません。何か問題を扱ったり、解決法を提供したりするような相談支援の役割とは異なります。特に、医療に関する情報には関与をしないことを原則とします。

なお、ピア・サポーターは特定の資格や職種を示すものではありません。

◎こちらもチェック➡『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅰ章　B.2. ピア・サポートと医療者の違い　p.14～15

●がん診療連携拠点病院等のがんサロンのなかでピア・サポート活動を行う必要性

がんサロンのようなサポートグループなどの活動は、がん診療連携拠点病院等に限らず、地域でも行われます。その中でも、がん診療連携拠点病院等でピア・サポート活動が行われる理由には、

①がん患者さんの多くは、がん診療連携拠点病院で治療を受けており、診療の機会にあわせて、がんに関連した情報やサポートを受ける機会をもつことが重要である点

②特に、体験者の経験を知りたいというニーズは、診断から治療の初期の段階にかけて多い点があげられます。がん診療連携拠点病院等の整備指針（厚生労働省健康局通知）では、がん相談支援センターに必要な機能として「医療関係者と患者会が共同で運営するサポート活動や患者サロン定期開催等の患者活動に対する支援」が求められています。

◎こちらもチェック➡

『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』p.96～99

『がんサポートプログラム企画の手引き 2020年度版』

はじめに、Ⅰ章A.がんサポートプログラムの必要性p.8

Ⅱ章A.がんサポートグループの必要性p.18～20

●ピア・サポーター養成の必要性について（トレーニングの必要性）

ピア・サポーターは、「体験の専門家」として、自身の貴重な体験を、他の人が活かせる形で提供することを通して、患者さんやご家族の情緒的な支援やリテラシーの向上に貢献する役割があります。しかし、ピア・サポーターが、自身の体験をそのまま語るだけでは、他の人がその内容を受け取り、活かすことは必ずしもできません。たとえば、「他の人の役に立ちたい」という想いがあったとしても、話しすぎてしまったとしたら、受け手はいっぱいいっぱいになってしまうこともあります。「相手の励ましたい」という想いも、「自慢している」ように捉えられてしまうこともあるかもしれません。

いつ、どのように体験を伝えるのか、個人的な経験を相手の人が受け止め、考える機会として活用してもらうのか、伝え方を含めトレーニングを積むことが必要になります。また、体験を開示することで、自分自身が傷ついてしまう危険もあります。自分で話してもよい範囲を知っておくことも、ピア・サポートを続ける上で大事です。

ほかにも、医療に関する内容に踏み込まないといった基本的なルールについても知っておくことが必要になります。

◎こちらもチェック➡

『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』Ⅱ.ピア・サポーターの役割と活動指針p.18～34

●継続した研修の必要性について

ピア・サポーターが活動するためには、養成研修に加えて、その後の継続的な研修、フォローアップが重要になります。

がん診療連携拠点病院等の比較的フォーマルな形で支援を行うためには、ピア・サポートに関する基本的な知識やルールをおさえるだけではなく、病院で活動する上でのルールやスキルについても知ることが大事です。そのため、継続した研修の場を確保する必要があります。

実際には、ピア・サポート活動を行った後に、振り返りの場を持ち、やりとりや流れを確認しながら、より良い方法や、他の方法がないか、などを検討することが重要です。また、都道府県によっては、ピア・サポーターが集まり、それぞれの対応場面を持ち寄って意見交換をしたり（事例検討）、専門家を交えて検討する（スーパーバイズ）場を定期的に持つこともします。

これらの振り返りの場を持つことは、ピア・サポート活動の質を担保する上で重要であり、また、ピア・サポーターの燃え尽きを予防するうえでも大事な活動になります。

◎こちらもチェック➡
『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』Ⅱ章．C振り返りをするp.27～34

●ピア・サポーター養成～維持の仕組み

ピア・サポーターは一度養成をすれば事足りる、というものではありません。

まず、上でも触れましたとおり、養成研修はあくまでも最低限度の知識を共有することを目的としています。実際に、質の担保されたピア・サポート活動を展開するためには、継続研修の機会を作る必要があり、そのためには、各医療機関の医療者（相談支援センターや緩和ケアチームなど）との連携が欠かせません。

また、ピア・サポート活動へのニーズは幅広くあります。そのなかには、特定のがん腫やステージ、年代にあわせた支援を求めるものもあります。ニーズをカバーするためには、一つの医療機関だけで整備することは難しく、複数の医療機関の連携が求められます。そのため、行政と医療機関が協働して、ピア・サポートを育てていく体制を作る必要があります。

がん治療は急速に進歩をし、治療内容も数年で大きく変わります。そのため、語り手として体験を共有する上で、体験が共有できるのは、治療から5-7年が一つの目安と考えられます。「体験の語り手」としての活動には、ある程度の年限があることからも、地域で継続的に養成する必要があります。

（その年限を越えて活動をする場合には、ピア・サポーターではなく、専門の支援者として活動することが望まれます）

◎こちらもチェック➡『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅶ章　ピア・サポート活動のために医療者ができることp.86～93
Ⅷ章　自治体単位で行うことp.99～102

自治体向け

●自治体はどのような点で働きかけるか

自治体が行う支援には直接的な支援と、がん診療連携拠点病院等を介して普及を支援する間接的な支援があります。自治体が直接行うと良いと考えられる支援は以下の通りです。

A.　ピア・サポート活動の広報を各種通達を利用して行う。

B.　ピア・サポートの養成研修計画を立てる。

自治体の担当者は、がん診療拠点病院等の相談支援センター相談員に加え、病院内で患者支援や心理社会的支援を担っている緩和ケアチームとも協力して以下のことを行う。

○がん診療連携協議会やその部会で、医療従事者と行政が協力して、ピア・サポートを養成する計画を立案する。

○養成研修を企画・開催する。

○がんサロン開催後の振り返りの場を作る。

○継続研修を企画・開催する。

○定期的な更新制度を用意する。

C.　がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターと連携して、ピア・サポートと連携したがんサロン活動を各拠点病院が展開できるように支援する

①がん診療連携拠点病院のがん相談員と協力して企画・開催する。

②研修会等の広報を各種通達を利用して行い参加者を募集する。

③がん診療連携拠点病院の責任者に研修会への参加を促す。

D.　同意を得て研修会の参加者の名簿を作成する（ピア、医療者）。

可能であればネットワークの構築を支援する。研修会や名簿を活用し、「がんサロン」等の世話人を求めているがん診療連携拠点病院の関係者と研修会を修了したピア・サポーターをつなぐ。

E.　がん診療連携拠点病院外での「がんサロン」等の開設を支援する。

これらと併せて、がん診療連携拠点病院等と協力しスキルアップの機会を作ったり、地域のリソースとピア・サポートの情報をまとめたものを各所に配布したり、HPで情報提供するとさらに良いでしょう。

地域統括相談支援センターを開き、ピア・サポート活動に関する拠点とするのも一つの運用方法になります。

◎こちらもチェック➡『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅷ章　自治体単位で行うことp.99～102

●国の施策との関連

ピア・サポートに関する施策は、第1期がん対策推進基本計画の時より行われておりました。しかし、平成28年に総務省が実施したがん対策に関する行政評価・監視結果報告において、17都道府県におけるピア・サポート研修の実施状況及び51のがん診療連携拠点病院におけるピア・サポートの活動状況について調査した結果、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況、ピア・サポート研修は実施されているものの、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況が指摘されました。

その結果、第3期がん対策推進基本計画において、がん患者にとって、同じような経験を持つ者による相談支援や情報提供及び患者同士の体験共有できる場の存在は重要であり、ピア・サポートについて取り組んでいくことが掲げられました。具体的には、ピア・サポートが普及しない原因を分析した上で、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが取り上げられ、個別目標に「国は、ピア・サポートの実態調査、効果検証を行った上で、3年以内に研修内容を見直し、ピア・サポートの普及に取り組む」ことが示されています。

◎こちらもチェック➡『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅷ章A.ピア・サポートをめぐる背景　p.96～99

●予算の確保

都道府県でピア・サポート活動を推進する上でのハードルの一つに、予算の問題を指摘する意見もあります。予算に関しては、健康対策推進事業にある地域統括相談支援センターを活用している都道府県が複数あります。地域統括相談支援センターは、その都道府県のニーズに応じて柔軟に設置・運用ができる枠組みであることから、ピア・サポートのマネジメント体制を担う一つの解決策になり得ます。

●ピア・サポートの養成、継続研修、活用を担当する部会を明確にする

ピア・サポートは地域の医療資源の一つである側面があります。ピア・サポートを養成し、活用するためには、地域内でのまとまった活動が重要であり、そのためには行政と医療職との連携が欠かせません。

今まで、

①ピア・サポートが活動する上で、医療者を含めたトレーニングの必要性が認知されていなかったこと

②医療者側がピア・サポートの活用を知らなかったこと

から、地域において具体的な検討が進まなかった面があります。

ピア・サポートはがんサロン等がん診療連携拠点病院内で活動することが想定されており、その教育・研修にあたり行政と医療従事者とが協働して養成と活用を進める必要があります。その場合、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報の扱い、ピア・サポートの燃え尽きを予防するための知識・対応等についても確認する必要があり、教育・研修は必須です。

今後、ピア・サポートを推進するにあたり、都道府県において、自治体と医療従事者が計画を策定し、その進捗を議論する場を確保することがまず求められます。その場としては、がん診療連携協議会の相談支援部会や緩和ケア部会等、患者支援や精神心理的支援を担当する部署がなじみやすいと言えます。

●ピア・サポーターの養成研修会の実施

ピア・サポーターが活動をするうえで、相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要です。特に医療機関と連携してピア・サポート活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報の扱い、自殺の危険性などの緊急時の対応等についても確認する必要があり、教育・研修は必須です。

ピア・サポーターの活動に関しては、治療中やサバイバーでも体調が安定しない場合が多いこと、全体的に年齢が高く体力的な限界もあることから、海外でも継続して活動できる人をいかに確保するかが課題としてあがっています。加えて、がんのピア・サポートの場合、治療を終えてから年限が経つと、がん治療の内容自体が大きく変わることから、海外では体験を共有するうえでピアとしての活動の上限を設定しているところもあります。

各地域のがん診療連携拠点病院等で安定してピア・サポート活動を行うためには、計画的に養成し、活動できるピア・サポーターを一定程度確保する必要があります。その点でも、都道府県や地方ブロック単位で、マネジメントを行う体制作りは重要です。

●ピア・サポーター養成後のマネジメント体制

ピア・サポートは、主たる役割が自らの体験を語ることを通して、情緒的なサポートや情報を提供する点にあります。そのことからも、ピア・サポートに参加するにあたりまず求められることは、秘密の保持等最低限に留まります。

その特性を踏まえると、ピア・サポートの質を担保するためには、養成を終えたあとの継続的な研修が重要です。そのために、ピア・サポーターの登録・更新の制度を作り、フォローアップ研修等と組み合わせたマネジメント体制を作る必要があります。

一般に必要となるマネジメント体制は、以下のようなものがあがります。

- ピア・サポートの登録制度を作る
- 定期的にフォローアップ研修会を開催し、受講を更新の条件とする（1年ないし2年）
- フォローアップ研修会では、ピア・サポート活動に必要な重要な約束事の確認のほか、事例

検討と専門家によるスーパーバイズ等を組み入れる

- がん診療連携拠点病院等で活動を行った後には、医療職との振り返りの時間を設け、活動内容が適切であったかどうかを検討するのとあわせ、ピア・サポーターの心理的な負担の軽減を図る
- がん診療連携拠点病院等を中心に活動の場を確保する。あわせて、交通費の支給やボランティア保険、賃金等の取り決めを行う
- マネジメントを専属で担当する者を配置する

●ピア・サポートに関する情報を収集、発信する

ピア・サポートは、基本的な心理社会的支援を提供する場であることから、ニーズに応じて多様な活動があります。一般には、一施設内でも疾病の部位や病期、年代、社会的背景により異なるニーズに応じて複数のピア・サポートが提供される必要があります。その点でも、多様なピア・サポーターを養成し、ニーズに応じたマッチングが可能な体制を構築することが望まれます。

また、がん診療連携拠点病院外にもNPO等が地域で多様なサポートプログラムを提供しているところもあります。都道府県内のサポートプログラムを把握し、希望する患者・家族がニーズに応じた支援プログラムにたどりつけるよう情報の収集・公開することも重要です。

情報の発信には、以下のような取組み例があります。

- 都道府県の広報を通した発信
- 都道府県が発行するがん患者向けの情報冊子にがんサロンやサポートグループに関する情報を掲載する
- がんサロンのネットワークを都道府県単位で構築し、開催日や場所等の情報をメーリングリストを通して配信する

●都道府県がん対策推進基本計画への記載

都道府県のがん対策推進基本計画に、ピア・サポートに関する項目を記載しているかどうかは、自治体によってさまざまであり、数値目標を設定している自治体もあれば、触れるに留めている自治体もあります。

基本計画への記載に幅がある背景には、計画に挙げたとしてもどのように具体化させるかがイメージしにくく、そのため自治体として推進しにくいことが考えられます。ピア・サポートは、がん診療における基本的な心理社会的支援の一環として提供されるものであり、がん診療連携拠点病院等を中心にニーズは定常的にあります。がん診療連携拠点病院や地域統括相談支援センターでの相談支援や緩和ケアの中に位置づけていくことが望まれます。

●自治体の取り組み

群馬県の取り組み

1　現在の県施策としての位置づけ

【群馬県がん対策推進計画（第3期）】平成30年度～令和5年度

「がんになっても安心して暮らせる地域社会の構築」のため取り組むべき施策として、がん分野におけるピア・サポート活動の実施状況を見ながら、ピア・サポーターの養成、質の向上及び活動支援に努めることとしている。

2　ピア・サポーターの養成

1）実施に至る経緯

県が運営するがん対策推進協議会（委員構成はがん患者、公募委員、医療関係者等）において、委員よりピア・サポーター養成についての要望があった。がんサロン等で活動しているがん患者からも、研修の必要性を求める声があった。

2）ピア・サポーター養成研修会の開催

- 県が主催
- 平成24年、25年、29年、30年に実施。計128名養成。
- 募集方法：患者会を通じた団体推薦、病院からの推薦、ホームページ等からの公募、その他希望者。
- 対象者：がん経験者、がん患者の家族および遺族等とし、上記方法で推薦及び希望のあった者の中から、書類審査により適任者を選定する。
- 研修内容例（平成30年度実施）

表1　ピアサポーター養成研修（平成30年度実施例）

1日目		
ピアサポートとは何か	看護大学教員	45分
ピアサポート活動の実際	県ピアサポーター	15分
がん患者さんの就労支援について	社会保険労務士	30分
より良いコミュニケーションのために	看護大学教員	45分
患者さんが抱えやすい不安について	がん看護専門看護師	40分
傾聴について（演習）	看護大学教員等	80分
緩和ケアについて／心のケアについて	看護大学教員	45分
群馬県がんピアサポーター派遣事業について	健康づくり財団（委託先）	10分

2日目 ※フォローアップ研修を兼ねる		
群馬県におけるがんピアサポートの実態	看護大学教員	90分
がんの基礎知識と最近の治療について	臨床専門医	60分
SNSを利用した支援のルール	看護大学教員	40分
地域で活躍していただけるために	看護大学教員	60分

＊研修を終えた者には修了証書を授与する。

3) 今後の養成について

登録人数や活動可能な人数は充足していたとしても、過去に養成したピア・サポーターの高齢化、ネットメディアの普及によるピア・サポートの多様化等から、今後も継続して養成をしていく必要がある。養成済みピア・サポーターの年齢構成等の特性と社会情勢、実際の利用者ニーズ等を踏まえ、養成研修の開催を検討していく。

3　ピア・サポーターの質の維持・向上

1) フォローアップ研修会の開催（毎年）

県が主催

フォローアップ研修を毎年開催し、フォローアップ対象者にも修了証書を交付。

養成研修会を開催する年には、2日目にフォローアップ研修を兼ねて実施する。

令和2年度はコロナ禍のため、会場参加型の研修を実施せず、家庭学習とした。多様な年齢層に対応するため、完全オンラインとはせず、研修資料は登録中の全ピア・サポーターに郵送し、同時にWEBページで資料および日本サイコオンコロジー学会作成の研修動画を公開した。各自が自分に合った方法で学習し、成果としてワークシートを完成させ県に郵送またはメールで提出。県はワークシートの提出をもって修了を判断。研修内容にはピア・サポーターに関する基本的な学習に加え、自己の体験を語るための演習、感染対策やオンラインシステムの導入に関する情報提供とした。

2) ピア・サポーターへの情報提供

電子メール利用可能なピア・サポーターには、セミナー情報等を適宜情報提供する。

4　群馬県がんピア・サポーターの活動

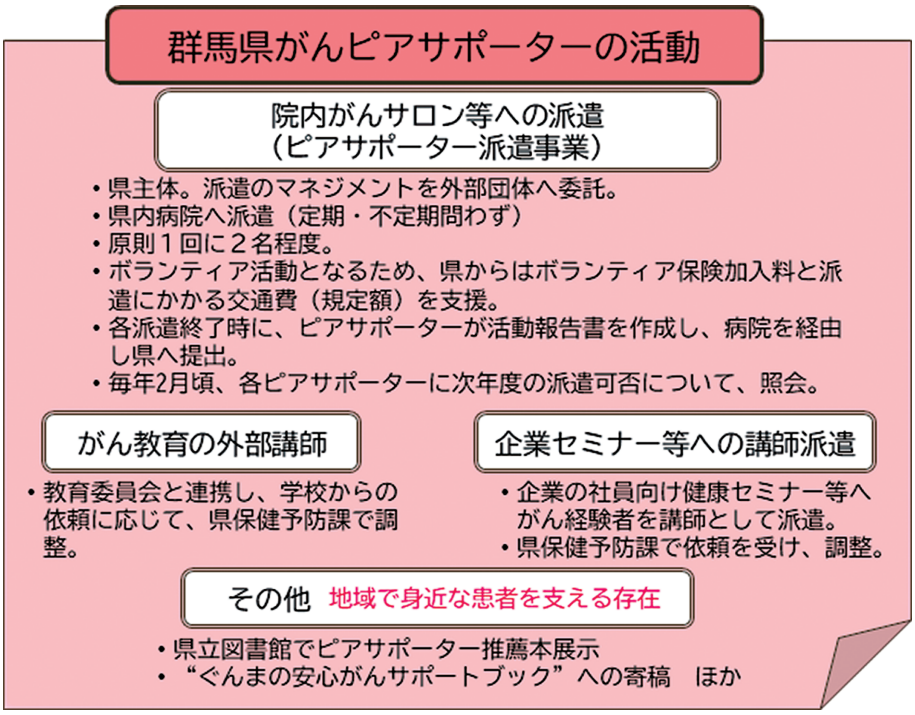


図１　群馬県がんピアサポーターの活動

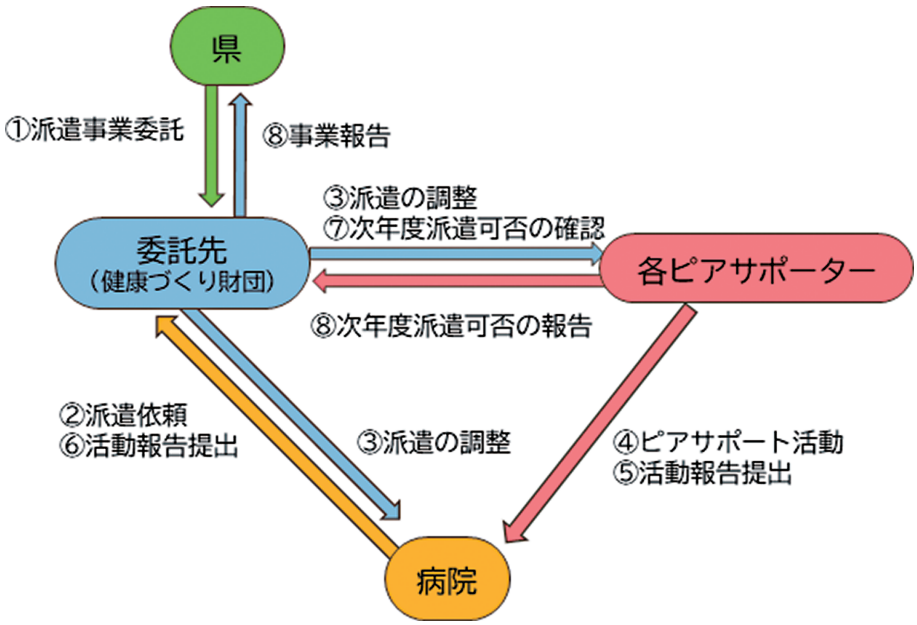


図2　ピアサポーター派遣事業の流れ

5　患者会との関係

- 養成の際は団体推薦いただく。
- 県が作成する“ぐんまの安心がんサポートブック”に患者会情報を掲載。掲載にあたり、要件を設定。
- 群馬県が運営するがん対策推進協議会に委員として出席。

6　医療従事者との連携

- 院内がんサロン実施時に同席し、ピア・サポートフォローと活動のフィードバック。
- 群馬県が運営するがん対策推進協議会において医師や看護師、相談員等、委員として出席しており、適宜協議を行う。
- 拠点病院が運営するがん診療連携協議会に県も委員として出席。過去にこの場で好事例を共有し、県下でピア・サポーターの受け入れが拡大した。

千葉県の取り組み

◎『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅷ章　D.具体的な導入事例　2.千葉県ピア・サポート事業　p.104～107より紹介

千葉県では、千葉県がんセンター内に設置されている千葉県地域統括相談支援センターがピア・サポート事業の運営母体として養成研修、フォローアップ研修を実施し、さらには、活動の場を構築しています。

養成研修の修了者は「千葉県がんピア・サポーター」としてがん診療連携拠点病院やがん診療連携協力病院で開催される「ピア・サポーターズサロンちば」で継続的に活動しています。

「ピア・サポーターズサロンちば」は、各病院のがんサロンとは異なり、千葉県地域統括相談支援センターからピア・サポーターが派遣される形で開かれます。「ピア・サポーターズサロンちば」は、特徴的な仕組みで構築されています。開催時は、ピア・サポーター7～8名が、スーパーバイザーと呼ばれる千葉県がんセンターのがん専門相談員と共に開催病院を訪れます。

10時から15時まで3つのテーブルを設置し、サロンを訪れる利用者にテーブルごとに2～3名で対応します。利用者は、自由に出入りができることから、病院での待ち時間など自分のタイミングでサロンを利用することができます。基本的には、利用者ごとの個別対応なので、じっくりと自分の話ができると好評です。一方、ピア・サポーターは一人ではなく必ず複数名で対応することが決められており、サポーター同士が助け合って利用者の対応に当たります。一対一での深入りを避けられること、また、ピア・サポーター個々の負担感を小さくできるという利点があります。サロンに同行している千葉県がん専門相談員はスーパーバイザーとしてピア・サポーターの活動を見守っています。個別の振り返りやサロン終了後の全体振り返りでピア・サポーターがスーパーバイザーから助言や指導を受けることができます。

千葉県がんピア・サポート事業の特色は、ひと（サポーターやスーパーバイザー）、もの（サロンで使用するグッズ類）、形式（どの病院でも同じ形式で開催）をパッケージ化していることです。開催病院には場所の確保と広報のみを依頼することで担当者の作業や負担感を減らし、開催場所の拡大に成功しています。千葉県がんピア・サポート事業は、患者・家族とピア・サポーターを自治体と医療機関がサポートする体制づくりが成功の鍵となりました。

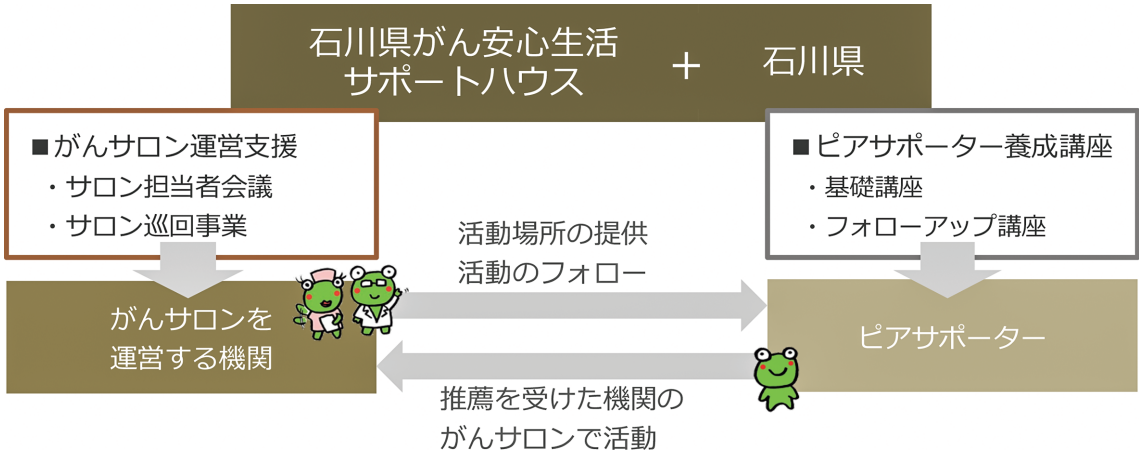
石川県の取り組み

石川県におけるピアサポーターの養成

平成25年に石川県がん安心生活サポートハウス（石川県が石川県済生会金沢病院へ委託）を設置し、がん患者や家族の交流や相談の場を提供するとともに、各地域の病院内外に設置されたがん患者サロンの相談支援体制の構築などを行っている。

平成25年度からは、がん患者や家族の方々が仲間としてともに考え支え合う人材の育成のため、石川県がん安心生活サポートハウスと石川県が共催で、ピアサポーター養成基礎講座、フォローアップ講座を開催している。

ただし令和2年度、3年度は新型コロナウイルスの流行に配慮し、養成基礎講座とサロン巡回事業は中止し、ピアサポーターのモチベーション維持のため、フォローアップ講座のみ開催した。



特徴

1 活動について

・基礎講座を受講するため、活動予定のがんサロンのある医療機関や患者会などからの推薦が必要。活動上のルールを基礎講座で学んだ上で、活動するがんサロンのルール従う。

・登録や更新も各活動場所で管理する。

・活動場所は推薦元の医療機関の院内がんサロン、患者会など

2 医療機関、医療従事者との連携について

・サロン担当者会議やサロン巡回事業で課題や好事例を共有し運営を支援している。

3 地域、患者会との連携について

ピアサポーター養成基礎講座のお知らせやいしかわのがんサポートBOOK（県および県がん診療連携協議会が発行）への情報掲載。

4 その他

・「がんサロン担当者とピアサポーターの活動を考えている方のためのピアサポートガイドBOOK」を作成し、関係者へ配布。当サポートハウスのホームページでも公開している。

・ピアサポーターを選出できない医療機関もあり、推薦元のサロン以外に派遣を行うなどの検討が必要。

ピアサポーター養成基礎講座

◎基礎講座実施要項

［目的］

がん患者またはその家族などがピアサポーターとして活動する際に必要な技術を習得するための講座を実施し、より身近な環境で患者を支える拠点となるがん患者サロンの運営に携わる人材の養成を図る

［受講対象者］

受講者は下記の条件をすべて満たす者とする

1）がん患者またはその家族

2）推薦を受けたがんサロンでボランティアとして活動する意思のある者

3）がんサロン実施機関などの代表者から推薦があった者

4）3日間の日程すべてに参加できるもの

［推薦にあたっての留意事項］

1）受講対象者と事前に面談し、心身の状態がある程度落ち着いていることを確認する

2）推薦施設のサロンでのみ活動することを伝え、了承を得ること

3）活動に際してはサポーターの心身のフォローをすること

◎基礎講座プログラム

日時	プログラム	形式	担当	目的
第1週 10：00～ 16：00	オリエンテーション ピアサポートとは	講義	看護師	ピアサポーターの役割を理解する ボランティア活動のルールを理解する
	がんという病気について	講義	医師	基本的ながん医療の知識を身につける
	経験を語る・聴く	ワークショップ	臨床心理士	体験を語る・聴くことで自分の体験を整理する
第2週 10：00～ 16：00	緩和ケアについて	講義	看護師	基本的な緩和ケアの知識を身につける
	専門職とのかかわりを知る	講義	ソーシャルワーカー	どのような時にどの部署、専門職を頼ればよいか理解する
	経験を語る・聴く	ワークショップ	臨床心理士	がんサロンでのピアサポートの利点を実体験する
第3週 10：00～ 16：00	コミュニケーションスキル ファシリテーションスキル	ワークショップ	コーチング講師	相手の話を聴くことができる グループでの会話を促進できる
	振り返り 修了証書授与		県健康推進課	

■毎年6～7月の日曜日（または祝日）に3週続けて開催。

■年度によって、プログラムの入れ替わり、開始・終了時間の変更などあり。

■会場は石川県がん安心生活サポートハウス（石川県社会福祉会館内）。

■平成25年度～令和元年度の受講は67名

フォローアップ講座

◎フォローアップ講座実施要項

［目的］

ピアサポーターとして活動していく中での悩み、課題などについて、情報交換を図り、理解を深めることで患者サロンの運営に携わる人材のレベルアップを図る

［対象者］

今年度までのピアサポーター養成基礎講座受講者で1年以内に活動実績のある者

これまで開催した内容		形式	講師
H26年度（2014年）	事例検討	ワークショップ	支援団体
H27年度（2015年）	事例検討、経験を語る・聴く	ワークショップ	臨床心理士
	コミュニケーション・ファシリテーションスキル	ワークショップ	コーチ
H28年度（2016年）	寄り添う、向き合う、今ここにあなたがいてほしいわけ	講義	哲学者
	良いがんサロンってどんな感じ？ ピアサポーターのクレド5か条をつくろう！	ワークショップ	コーチ
H29年度（2017年）	事例検討	ワークショップ	臨床心理士
	個人情報の取り扱いについて	講義	支援団体
H30年度（2018年）	事例検討	ワークショップ	臨床心理士
	自分の気持ちに意識を向けよう	ワークショップ	臨床心理士
R元年度（2019年）	患者の力	講義	医師
	ファシリテート実践	ワークショップ	コーチ

◎ピアサポーターの声

［基礎講座について］

・意識したことのない考え方を知ることができた

・受講を通して仲間に出会えたことがよかった

・3週続けて同じメンバーで受講する意味を実感した

［フォローアップ講座について］

・活動する上での問題に気づく機会になる

・話すことと聴くことはピアサポーターとして一番大事なことなので役立った

・他のピアサポーターとの交流、情報交換の場になっている

［ピアサポーターの活動を考えている方へのメッセージ］

・出会うことのない人々に出会い、さまざまな生き方を学ぶことができました

・自分の経験を同じ悩みを抱える人の力にすることができます

・サロンを利用してくださる方との会話は自分自身の勉強にもなります。

以上「石川県のがんサロン担当者とピアサポーターの活動を考えている方のためのピアサポートガイドブック2020年度版」より

https ://saiseikaikanazawa.jp/hanaume/pdf/book.pdf

三重県の取り組み

三重県がん相談支援センターは、三重県が公益財団法人三重県健康管理事業センター（日本対がん協会三重県支部）に運営を委託し、平成20年1月に地域統括相談支援センターとして病院外に開設されました。

当センターでは従来から、ボランティアとして様々な事業に協力していただくサポーター（がん体験者、家族、医療関係者等）の養成に取り組んできました。特に「がん患者・家族のおしゃべりサロン（以下、おしゃべりサロンという。）」は、サポーターが中心となって運営し、集団におけるピア・サポートを行っています。また、がん診療連携拠点病院等の医療関係者にも協力を依頼し、連携を図っています。

しかし、おしゃべりサロンの場だけでは個別のピア・サポートとして限界があり、より個々の状況に応じたピア・サポートの必要性を感じていたところ、日本サイコオンコロジー学会様から研修会の情報をいただきました。

県内初のピア・サポーター養成研修は、厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」の委託先である日本サイコオンコロジー学会主催、当センター共催のモデル事業として令和2年2月に2日間の日程で開催しました。

当センターに登録しているサポーターのなかから、がん体験者を対象に受講希望者を募り、2日間でがん体験者延べ38名、行政・医療関係者延べ14名が参加しました。

さらに、今回の研修では、別室で行政・医療関係者がピア・サポートの実施について意見交換を行う場が設けられ、行政の取組、医療機関におけるピア・サポートに関する理解の促進、受け入れ病院の調整に加え、当センターを中心としたピア・サポーターへの支援、連絡調整、継続研修、三重県がん相談支援部会における検討等様々な意見が出されました。

これらをふまえ、当センターでは相談事業やおしゃべりサロンにおいて個別のピア・サポートを実践して事例を積み上げ、その効果や課題を検証しつつ医療機関での実施につなげていきたいと考えました。

令和2年度はまず、令和元年度にピア・サポーター養成研修を受講された方々に対してピア・サポーターの登録の意向を確認し、11名の方々にご登録いただきました。登録者は全員、すでに当センターのサポーターとして活動経験がある方々でした。また、フォローアップ研修として、当センターのサポーターと合同で研修会を開催しました。

実際のピア・サポート活動は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、おしゃべりサロンの開催や面談も制限されるなど困難な状況でしたが、相談電話において「人と会って話す機会がなくなった」、「家に一人でいるとふさぎ込んでくる」、「気持ちを分かってくれる人と話したい」などの内容があったことから、ピア・サポートを案内し、感染対策を講じたうえで実施しました。相談のなかには当センターが遠方のため、出向くのが不安との理由により、ピア・サポートを実施することができなかった事例もありました。今まで県内各地域において定期的に開催していたおしゃべりサロンが休止となっているコロナ禍の今だからこそ、がんと向き合う患者の不安な気持ちに寄り添うことができるピア・サポーターの存在は重要であると感じています。

今後はオンラインによるピア・サポートや研修の仕組みを整える等、活動が制限されるなかにおいても、より効果的なサポートができるよう検討していきたいと考えています。

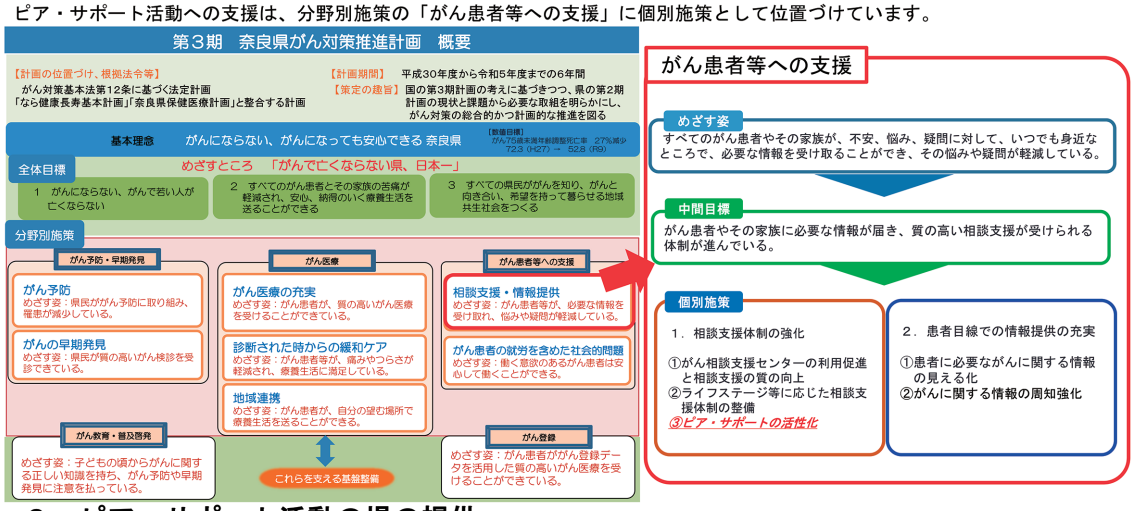
奈良県の取り組み

ピア・サポート活動への支援について

奈良県福祉医療部
医療政策局疾病対策課

1．第３期奈良県がん対策推進計画におけるピア・サポート活動支援の位置づけ

奈良県では、第3期奈良県がん対策推進計画に基づき、「がんで亡くならない県、日本一」を目指してがん対策を推進しています。
ピア・サポート活動への支援は、分野別施策の「がん患者等への支援」に個別施策として位置づけています。



2．ピア・サポート活動の場の提供

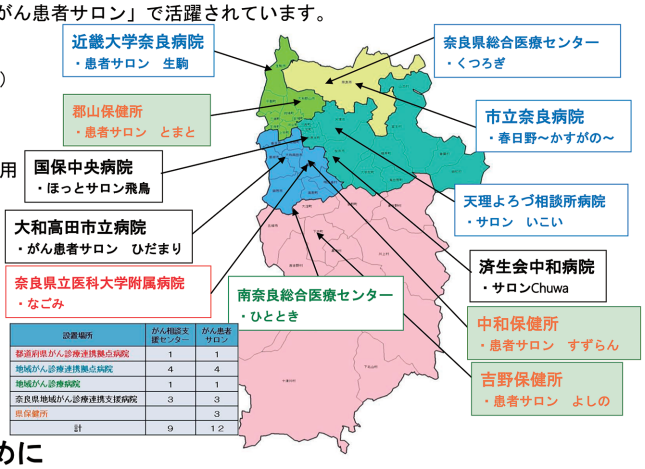
ピア・サポーターは主に、県内各地で開催している「がん患者サロン」で活躍されています。

■県内全医療圏で「がん患者サロン」を開催

・拠点病院、支援病院のがん相談支援センター（９か所）
　県保健所（３か所）

計12か所で実施

・上記サロンでは、県が養成したピア・サポーターを活用
・病院等がピア・サポーターと連携したサロン運営



設置場所	がん相談支援センター	がん患者サロン
都道府県がん診療連携拠点病院	1	1
地域がん診療連携拠点病院	4	4
地域がん診療病院	1	1
奈良県地域がん診療連携支援病院	3	3
県保健所		3
計	9	12

3．ピア・サポート活動活性化のために

ピア・サポート活動の活性化を目指し、以下の取り組みを行っています。

■サロン運営者会議（年1回）

県内で開催する「がん患者サロン」の運営担当者間で現状や課題について共有する。
【出席者】　病院・保健所サロン担当者
【主な内容】取り組み報告・計画の共有
　　サロン運営、周知等などの課題への検討

■会議での情報共有

・奈良県がん対策推進協議会、がん相談支援部会での情報共有（奈良県主催）
・奈良県がん診療連携協議会、がん相談支援分科会での情報共有（奈良県立医科大学附属病院主催）

■がんピア・サポーター養成研修会（R2.1.25-26）

本県におけるがん医療に関する相談支援体制を強化し、患者及び家族の療養生活の質の維持向上を図ることを目的にピア・サポートを行える人材を育成する。

【ピア・サポーター養成者数】
H21年度：11名
H23年度：22名
H25年度：15名
R1年度：17名

日本サイコオンコロジー学会の助言を得ながら、カリキュラムを見直しました

熊本県の取り組み

◎『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅷ章　D.具体的な導入事例　1.熊本県ピア・サポート事業　p.102～104より紹介

熊本県では、ピア・サポーターの支援として、行政：熊本県健康づくり推進課「がん相談員サポートセンター」、医療：熊本県がん診療連携協議会幹事会 相談支援・情報連携部会 下部組織「がん専門相談員WG」、患者家族：「がんサロンネットワーク熊本」が協同してピア活動を支援しています。

育成事業としては、年2回「がんピア・サポートセミナー」を開催しています。熊本県健康づくり推進課の主催で、「がん相談員サポートセンター」、「がん専門相談員WG」が実務を行っています。

県では、がんサロンの新規開催の要望があれば、「がん相談員サポートセンター」が支援を行っており、実際に開催し軌道に乗るまでお世話をしています。今後は世話人の人選を「がんサロンネットワーク熊本」に依頼していきたいと考えております。

ピア・サポーターの活動の場としては「がんサロン」、「がんピアおしゃべり相談室」、「がん相談ホットライン」があります。

「がんサロン」は県内に28箇所あり、そのうちがん診療連携拠点病院（国・県指定）で開催されている所は19箇所、そのほとんどは「がんサロンネットワーク熊本」に参加しています。ネットワークでは月1回の理事会で情報共有と、年に数回ピアレビューを行っています。またSNSで情報を発信しています。熊本での「がんサロン」の特徴としては、参加することへの敷居が低く複数のサロンに顔を出される方も多くいらっしゃることです。

がん診療連携拠点病院では患者さん・ご家族へ開催されている「がんサロン」の情報提供を行って参加を促しています。「がんサロン」の世話人と病院職員との間では情報交換が行われています。多くの病院では担当部署はがん相談支援センターや緩和ケアチームです。病院側の支援としては以下の項目が挙げられます。

- なじめていない参加者への声かけ
- 難しい問題をかかえた参加者への声かけ
- 身体的・精神的問題が発生した時の対応
- 参加者からの質問への回答（限定的）
- がんサロンの設営（場所、茶菓）
- がんサロンの広報・案内
- がんサロン主催のイベントへの支援
- 世話人が不在のサロンでは世話人のかわりの役割
- ミニ講座、レクチャー、学習会

定期的に開催されるサロン以外、年1回開催されるリレーフォーライフの中でピア・サポー

ターと医療関係者との懇談会を開催したり、図書館や保健所で一般の方もオープンに参加できる「がんサロン」を開催したりすることもあります。「がん相談員サポートセンター」と「がん相談員ワーキンググループ」と「がんサロンネットワーク熊本」が情報共有を行いこれらの事業の支援を行っています。

県の事業としてピアカウンセリング事業「がんピアおしゃべり相談室」が3つの拠点病院で開催されています。月に1回、行政、医療者、ピア・サポーターが集まりピアレビューを行っています。

熊本市の事業として「がん相談ホットライン」が保健所に設置され、経験を積んだピア・サポーターが対応しています。サポーターと職員の間で情報共有とレビューが行われています。

ピア・サポーターからの希望のひとつとしてスーパーバイザーの存在が挙げられます。医療者やほかの県の先輩ピア・サポーターから話を聞ける機会を「がんピア・サポートセミナー」などで提供しています。

がん相談支援センター、ピアサポート活動の詳細はHP

https://www2.kuh.kumamoto-u.ac.jp/Canconsultation/index.html

を参照ください。

長崎県の取り組み

長崎県がん診療連携協議会では平成19年4月に6部門のワーキンググループ（WG）が設置されましたが、その一つに相談支援WGがあります。相談支援WGの構成メンバーは、国指定の6つの長崎県がん診療連携拠点病院と長崎県指定の2つのがん診療連携推進病院の相談支援実務者ならびに長崎県行政担当者も含まれています。年1回開催される実務者会議では、各WGの実務者が参集して現状と課題を共有、改善策を検討し、その内容を全体会で共有しています。しかしながら年1回の実務者会議だけではWGの機能が果たせないため、相談支援WGではメーリングリストを開設して日頃から情報共有を行うようにしています。また相談支援WGの業務である「相談支援研修企画」「広報とサポートブック更新」「相談支援共通マニュアル作成」についてそれぞれサブWGを立ち上げています。さらに長崎県で普及しているあじさいネットのTV会議システムを活用して年4回WG会議やサブWG会議も行っています。2020年からはZOOMを用いた研修会等も開催しています。このように相談支援に関わる実務者と県行政担当者が頻繁に顔の見える会議を開催していることが長崎県の特徴といえます。

しかしながら、ピア・サポーターの養成については、以前から何かしらの行動に移さなければという課題意識は共有されていたものの、開催に向けての意見交換では、「ピア・サポートそのものがイメージできない。」「協働の仕方やピア・サポーターへどのような支援が必要なのかわからない。」「サロンとの違いがよくわからない。」等々の数多くの意見が出され、ピア・サポーター研修のノウハウもなく、焦燥感がつのっていたところ、令和2年11月、国の「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」のご支援を受け、念願のピア・サポーター養成研修会が長崎県でも開催される運びとなりました。

本研修会では、新型コロナ感染症の感染拡大予防の観点から基本的な知識はオンラインによる事前学習で行い、グループワークは対面式で実施する効果的な研修であったと思います。本研修会には、15名のピア・サポーター受講者と18名のがん相談実務者（医療従事者）が参加しましたが、両者が一緒に課題を議論することで、互いに相手のことを理解することができたことで関係性がより深まり、今後の活動の道筋も見えてきたようです。

本県のピア・サポートは、まだスタートラインに立ったばかりで、これからが本番となりますが、これまでのようにみんなで顔を突き合わせて一つひとつの課題を解消し、長崎県に住んで良かったと思えるような長崎県らしい支援が実現できるよう取り組んでいきたいと考えています。このような機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。

がん診療連携拠点病院等向け

◎こちらもチェック➡『ピア・サポーター養成テキスト2020年度版』
Ⅶ章　ピア・サポート活動のために医療者ができることp.86～93
Ⅷ章　自治体単位で行うこと　p.96～107

●行政との協力の必要性について

がん診療連携拠点病院におけるがんサロンの活動について、都道府県内で情報共有の機会が少ないのが現状です。いくつかの県では、ピア・サポーターの養成とがん診療連携拠点病院のがんサロンの活動が連携しておらず、養成したピア・サポーターが活用されていない実態があります。がんサロンの運用について、拠点病院間での情報共有を進めるためにも、取りまとめ役である都道府県を中心に協力体制を作る必要があります。

特にピア・サポーターの養成・維持は、一施設でできるものではありません。各医療機関の負担を軽減するためにも、地域で養成し活用するネットワーク作りが欠かせません。

●養成したピア・サポーターの積極的な活用

がん診療連携拠点病院等の整備指針には、「体験を語り合う場」の設置が義務づけられています。「体験を語り合う場」については、セルフヘルプグループやサポートグループを想定していると考えられます。しかし、日本ではサポートグループ等の認知が進んでいないことから、患者向けのイベントのみが行われるなど、本来の主旨が十分に周知されていない現状があります。また、ピア・サポートは相談であり、がんサロンとは異なるなど、支援者とピア・サポーターの混同も見受けられます。

がん診療連携拠点病院で提供されるピア・サポートのひとつの枠組みとして以下のことが考えられます。

①研修を修了したピア・サポートと協働したサポートグループの運営
②活動後の振り返りの場の提供
③医療者（特に相談員）との顔の見える関係の構築

がん診療連携拠点病院で活動を行う条件としてはピア・サポーター研修を修了していること、自治体単位のネットワークに参加することを要件とするのもよいでしょう。

●ピア・サポーターと協働したがんサロン運営のヒント

施設内におけるピア・サポートを推進する部署・担当者を決める

ピア・サポート活動を継続していくためには、実際の活動をサポートする担当職員だけで運営を行うのは限界があります。院内にしっかりと根づかせ、継続させていくためには、診療部門を始めとした医療機関内の各部門の協力が欠かせません。ぜひ、活動を運営、推進する組織をつくり、その中で活動のルールやピア・サポーターへの協力体制など運営について協議ができるようにしましょう。

また以下のような取り組みも考えられます。

- がん相談支援センターに対する支援強化
- がん診療連携拠点病院運営委員会の下部組織としてピア・サポート活動運営委員会を設置する

予算の確保

ピア・サポート活動の運営について、がん診療連携拠点病院としての事業の計画に上げる事業計画に上げるといった取り組みが挙げられます。

ピア・サポーターへの報酬、ピア・サポーターへの交通費、広報のためのポスターなどの印刷費備品（パソコンや文房具など）

活動の約束を決める

目的や活動内容、院内でのルール（患者さんや家族の個人情報は守る、医療相談は対応しない、特定の治療を勧めないなど）、記録の取り扱いのほか、報酬（交通費や日当など）、活動の責任の所在などを医療機関とピア・サポーター、自治体担当者とで話し合い、内規などの文面にしておくとよいでしょう。医療機関によっては、ボランティア保険加入を必須としている所もあります。病院外部の協力者への対応について、既存の対応例がある場合は、それらを参考にするとよいでしょう。

広報、普及

サポートグループ、サロン、ピア・サポートを利用したいかもしれない患者やご家族に情報提供します。院外からも参加できる場合は、市民への広報も役に立ちます。ピア・サポートはあまり一般になじみのない概念なので、活動内容を分かりやすく伝える工夫が必要です。

院内の職員への周知も大切です。新しくピア・サポート活動を始めるためには、ひとつの部

門や少数の職員だけでは、活動を支える地盤づくりは難しいでしょう。ぜひがん診療に関わる医療者を含めて、院内の理解者、協力者をつのり、仲間を増やしましょう。

●「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」への参加

厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」(受託：日本サイコオンコロジー学会)では主にがん診療連携拠点病院の医療者を対象にした「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」を令和2年度から実施しています。

サポートグループを企画・運営していくために必要な知識やスキルを学べ、サポートグループやピア・サポーターと協働したサロン企画運営を考えるヒントになると思います。ぜひご参加ください。

●地域での取組み

『地域での取り組み　～愛媛での取り組み例～』

NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会
松本陽子

愛媛県では、2009年からがん対策事業の一環としてピア・サポーター養成と、拠点病院等でのがんサロンへのピア・サポーター派遣事業が始まり、いずれもNPO法人愛媛がんサポートおれんじの会（以下、おれんじの会）が委託を受けて取り組んでいます。その活動の中で、拠点病院の中での月1回程度の限られた時間だけではなく、気軽に立ち寄れる場所で常設の語り合いの場を求める声が寄せられるようになり、2012年に地域でのピア・サポート活動の場として、松山市中心部に『がんと向き合う人のための町なかサロン』（以下、町なかサロン）が開設されました。こちらは、愛媛県からの補助金を活用しておれんじの会が運営しています。

町なかサロンは、文字通り利便性のよい“町のなか”、交通の拠点にあたる場所から徒歩5分に位置しています。近くには拠点病院があり通院する患者さんやご家族の通り道に面しています。平日は午前10時から午後3時まで開いていて、火曜を除く毎日ピア・サポーターが待機しています。「きょう検査結果が出て再発を知らされた。病院に泣ける場所はない。このまま家には帰れない」と言ってしばらく泣いて帰った方や、治療の後の休憩場所として利用する方、また復職したものの職場で思うように仕事ができず、悔しいと駆け込んでくる方もあります。ピア・サポーターはじっと話を聴かせていただきます。「いましんどい、きょう話がしたい」という思いに応えられる場所としての役割を担っています。

毎週金曜に医師または看護師による医療相談を行っていますが、それ以外はすべてピア・サポーターだけで運営しています。同じような経験をしている者だからこそできることと、限界があることをしっかり理解することが重要であると考え、拠点病院のがん相談支援センターや公的機関との連携を心掛けています。必要に応じて直接紹介をさせていただく場合もあります。

がん治療は外来中心となり、また支持療法の向上によって仕事との両立、社会生活との両立も可能になりましたが、その分医療機関で過ごす時間は短く、医療者との関わりは以前と比べて希薄になっているかもしれません。地域社会の中で暮らしていく患者・経験者、その家族を支える場が地域の中にあることが望まれます。物理的な場なのか、オンライン上なのか、別の新しい形があるのか、地域の実情に応じたあり方を行政や医療関係者、当事者が共に考えていくことが必要だと感じています。

令和３年度　厚生労働省委託事業
がん総合相談に携わる者に対する研修事業　ピア・サポートを推進するための手引き

［発行］　2022年3月25日
［発行元］一般社団法人日本サイコオンコロジー学会
がん総合相談に携わる者に対する研修事業　担当事務局
〒277-8577　千葉県柏市柏の葉6-5-1
国立研究開発法人　国立がん研究センター　先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野
TEL：04-7134-6986　FAX：04-7134-7026

［製作者］　株式会社 青海社
［DTP/印刷］　株式会社 真興社

令和３年度厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業

ピアサポーター養成研修会
開催マニュアル

日時：　　年　　月　　日（　　）、　月　　日（　　）

会場：

主催：

共催：

目次

参加者名簿　ピアサポーター 82
参加者名簿　行政・医療従事者 83
講師・運営スタッフ名簿 83
タイムテーブル 85
《事前の準備》 87
参加者 申込用紙のフォーマット 90
オンラインで実施する際の留意点 92
前日ミーティング 94
当日直前ミーティング 94
受　付 95
●開会あいさつ・オリエンテーション 96
●アイスブレイク 97
●ピアサポートとは 99
●ピアサポーターの役割と活動指針 100
●相手を大切にすること、自分を大切にすること 101
●自分の体験を語る 102
●行政や医療機関が支援できること、Q&A 104
●がん診療の基礎知識と情報提供の注意点 105
●1 日目のまとめ 106
1 日目の振り返り 107
2 日目直前ミーティング 107
2 日目受付 107
●2 日目オリエンテーション 108
●よりよいコミュニケーションのために 109
●ロールプレイ 111
●ピアサポートを実装するためには（グループワーク）、Q&A 116
●グループファシリテートのために（代替：〇〇県でピアサポートを実践するために） 117
●行政や医療機関の役割について学ぼう 118
●2 日間のまとめ、質疑応答 119
●まとめ、閉会のあいさつ 120
ロールプレイシナリオ【ロールプレイ実演】 121
■行政・医療関係者の方々へ 123

参加者名簿　ピアサポーター

No	名前	ふりがな	立場 （がん経験者、家族など）	ピア経験の有無	ロールプレイグループ
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

参加者名簿　行政・医療従事者

No	名前	ふりがな	所属施設	グループ
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

講師・運営スタッフ名簿

氏名	ふりがな	所属	役割	グループ

【セッションの担当】

開会のあいさつ・オリエンテーション　＿＿＿＿＿＿＿＿
アイスブレイク　＿＿＿＿＿＿＿＿
ピアサポートとは　＿＿＿＿＿＿＿＿
ピアサポーターの役割と活動指針　＿＿＿＿＿＿＿＿
相手を大切にすること、自分を大切にすること　＿＿＿＿＿＿＿＿
自分の体験を語る　＿＿＿＿＿＿＿＿
行政や医療機関が支援できること　＿＿＿＿＿＿＿＿
がん診療の基礎知識と情報提供の注意点　＿＿＿＿＿＿＿＿
よりよいコミュニケーションのために　＿＿＿＿＿＿＿＿
ロールプレイ　全体進行：＿＿＿＿＿
　　ファシリテーター：＿＿＿＿＿＿＿＿
ピアサポートを実装するためには　（グループワーク）＿＿＿＿＿＿＿＿
グループファシリテートのために　＿＿＿＿＿＿＿＿
行政や医療機関の役割について学ぼう　＿＿＿＿＿＿＿＿
2 日間のまとめ、質疑応答　＿＿＿＿＿＿＿＿
閉会のあいさつ　＿＿＿＿＿＿＿＿

タイムテーブル

タイムテーブル（　　月　　日　1 日目）

開始	終了	所要時間（分）	ピア（全体進行：　　）全体会場：	行政・医療者（全体進行：　）別会場：
9:30	9:40	10	開会のあいさつ オリエンテーション　【スライド 0】	
9:40	9:50	10	アイスブレイク　【スライド 1】	
9:50	10:20	30	ピアサポートとは　【スライド 2】	
10:20	10:30	10	〔休　憩〕	
10:30	11:30	60	ピアサポーターの役割と活動指針　【スライド 3】 （A）ピアサポートを行うこと （B）守るべきこと （C）活動を振り返り、報告する	
11:30	12:10	40	相手を大切にすること、自分を大切にすること　【スライド 3-2】 （D）バウンダリーについて （E）ピアサポーターが知っておくと良い情報	
12:10	13:10	60	〔昼休憩〕	
13:10	14:10	60	自分の体験を語る（10 人） 【スライド 4】	行政や医療機関が支援できること、Q&A　【スライド 5】
14:10	14:20	10	〔休　憩〕	
14:20	15:20	60	自分の体験を語る（10 人）	行政や医療機関が支援できること
15:20	15:30	10	〔休　憩〕	
15:30	16:20	50	がん診療の基礎知識と情報提供の注意点　【スライド 6】	
16:20	16:30	10	1 日目のまとめ（質疑応答）	

タイムテーブル（　　月　　日　2 日目）

開始	終了	所要時間（分）	**ピア** **（全体進行:　）** **全体会場:**	**行政・医療者** **（全体進行:　　）** **別会場:**
9:30	9:40	10	オリエンテーション	
9:40	10:20	40	よりよいコミュニケーションのために【スライド 7】	
10:20	10:30	10	〔休　憩〕	
10:30	12:00	90	オリエンテーション 【スライド 8】 ロールプレイ（4 人組）	ピアサポートを実装するためには （グループワーク）【スライド 9】
12:00	13:00	60	〔昼休憩〕	
13:00	14:30	90	ロールプレイ（4 人組）	ピアサポートを実装するためには （グループワーク）
14:30	14:40	10	〔休　憩〕	
14:40	15:20	40	グループファシリテートのために【スライド 10】 （代替：○○県でピアサポートを実践するために）	
15:20	16:00	40	行政や医療機関の役割について学ぼう【スライド 11】	
16:00	16:20	20	2 日目のまとめ／ 質疑応答	
16:20	16:30	10	まとめ ／ 閉会あいさつ	

《事前の準備》

【研修会までの主な流れ】

時期	項目	注意点・備考
研修会半年～3 カ月前、もしくは年度はじめ	予算見積を行う	どこから出費するか考える。 ・【研修会にかかる主な費用】を参照。
研修会半年～3 カ月前	開催形式の検討	・対面で行うか、WEB で行うか。 ・動画等での事前学習を取り入れるか。
	講師依頼	・2 日目「ロールプレイ」では各グループにファシリテーターが必要となる。
	日程調整	・講師との日程、会場を使えるかどうか、参加者が集まりやすい日程かどうかなど考慮する。
	会場の手配	・会場によって、1 年前からの予約可能、3 カ月前からの予約可能など予約可能な時期が異なるため、講師依頼（日程調整）との兼ね合いを考慮する。 ・広さの目安は【会場例】を参照。 ・車いすの利用が可能かも確認をしておく。
	参加者募集方法	・どのような媒体で周知するかを検討する（HP への掲載、市町村広報誌への掲載、ポスターやチラシの掲示、配布など）。 ・参加受付をどのように行うかを決める（メール申し込み、FAX 申し込みなど）。
	参加者の人数設定	・会場の広さ、ファシリテーターとなる方の人数などの兼ね合いを考え設定する。
研修会 3 カ月～1 カ月前	参加者の募集、医療者への声掛け	・応募締め切りをいつにするかを検討する（研修会 1 カ月～1 カ月半前ぐらいが一つの目安）。 ・参加者多数の場合の対応（キャンセル待ちをするか）なども検討しておく。
	受講票の発行	・申し込みがあった人に発行するもの。日時、持参するもの、注意事項などを記載する。 ・当日の連絡先を記しておくとよい。
	修了証の発行	・修了証を発行するかどうか、発行する場合はどの部署の名前で発行するかなどを検討する。
1 カ月前～直前まで	参加者（行政・医療者）のグループ分け	・確定した参加者に基づき、1 日目の「行政や医療機関が支援できること」、2 日目の「ピアサポートを

		実装するためには Q&A（グループワーク）」を 1 グループで行うか 2 グループで行うかを決める。
	資料配布の準備	・「ピアサポーター養成テキスト」、スライドを印刷し収納したファイル、名札などを必要部数準備する。
	グループワーク用資材の準備（付箋、サインペン、模造紙など）	・2 日目 行政・医療従事者向け講義「ピアサポートを実装するためには」で使用。グループワークが進めやすくなるよう準備する。
	開催マニュアル（本冊子）への書き込み	・参加者名簿、日付、講師名など空欄になっている箇所に、決定した項目を書き込む。 ・前日ミーティング、当日直前ミーティングは開催マニュアルを確認しながら行う。
会場にて	PC,プロジェクター,レーザーポインターなど機器の動作チェック	・電源の延長コードや長めのプロジェクター接続ケーブルを用意しておくと会場設営が楽になる。

【研修会にかかる主な費用】

項目		注意点・備考
会場費	メイン会場	・会場の広さは【会場例】の項目を参照。 ・予約時期、支払時期などにも注意。
	サブ会場	
	控室	
備品	メイン会場	スクリーン プロジェクター マイク レーザーポインター
	サブ会場	スクリーン プロジェクター マイク レーザーポインター
	控室	
講師旅費		
講師謝金		
事務員（お手伝い）給与		・2 部屋にまたがって講義を行う場合は、各部屋に 1 人以上のお手伝いがいることが理想的。
お弁当、お茶		・民間の会議室などは飲食物持ち込み不可の会場もある。しかし参加者（がん患者さん）の中には副作用などがあり持ち込みを希望される方もいるの

		で、会場と交渉するのもよい。 ・登壇を依頼した方には人数分を用意しておくとよい。
事務諸経費	テキスト印刷代	・「ピアサポーター養成テキスト」を印刷（製本）する。HP から PDF をダウンロードし、印刷・製本を行う。
	資料印刷代、資料用ファイル代、名札、受講票、修了証	研修会で使うスライドを印刷し、ファイルに収納し配布。
	付箋、サインペン、模造紙	・2 日目　行政・医療従事者向け講義「ピアサポートを実装するためには」で使用。グループワークが進めやすくなるよう、適宜用意する。
	その他	・チラシやポスターなどを印刷した場合は、印刷費用やデザイン費用も検討する。また、ホームページの運営を外注している場合には、その費用も考慮する。

【会場の例】

	全体会場	別会場	講師控室
事前打合せ			48 ㎡、16 人 18:00～20:00
1 日目	230 ㎡、105 名 9:00～17:00	70 ㎡,30 名 12:00～16:00	48 ㎡、16 人 9:00～18:00
2 日目	230 ㎡,105 名 9:00～17:00	48 ㎡,24 名 13:00～16:30	48 ㎡、16 人 9:00～18:00

※（広さ、レンタルの時間帯）　※参加人数計 30～40 名ほどの場合
※上記のメイン会場は、部屋後方に 2 日目で行うロールプレイのグループをつくっているため、
広めの会場になっている。

【備考】

- 全体会場　は、スクール形式（机と椅子を配置）、シアター形式（椅子のみ配置）・グループ形式（ロールプレイは椅子のみの島、グループワークは椅子と机の島）に机・椅子の配置を変更するため、2 部屋以上確保するか、もしくは配置変更のゆとりのある広めの会場を選定するとよい（机や椅子が固定式の場合、ロールプレイの場所は別途確保したほうが好ましい）。
- サブ会場は両日とも、使用時間＋前後 1 時間程度を確保されているとよい。

・　遠方からの参加者が多い場合、別途キャリーケースなどの荷物置き場も必要。なお、貴重品は参加者が自分で管理してもらうようにアナウンスをする。

参加者　申込用紙のフォーマット

・　委託事業で作成したプログラムでピアサポーター養成研修会を行う際の申込書のフォーマットです。
・　この研修では、「自分の体験を語る」「ロールプレイ」において、自己を追体験するセッションがあります。治療中の方や、ロールプレイのシナリオが重層経験となられる方にとって、辛いお気持ちとなられる可能性がございます。もちろん、このような方々の受講を排除するものではございませんが、あらかじめ守秘義務に配慮しながら講師・ファシリテーターの方々と情報共有ができるとよいでしょう。
・　「*必須項目」は、研修会を円滑に行うためにあるとよい情報です。ロールプレイの際には「ピアサポート、患者会、がんサロンの参加・経験の有無」「診断年・がん種・部位」を参考にグループ分けできるのが望ましいです。申し込み時点で、これらの情報を伺うことを推奨します。
・　各自治体などで必要に応じて質問を追加したり、申し込み用紙をデザインしたりするなどしてお使いください。

申込書　（*必須項目）

（*必須項目）

フリガナ* 名　前*	
生年月*	西暦　　年　　月　（　　歳）
メールアドレス	
ご住所	〒　　－
電話番号	
お立場*	がん患者・ご家族・ご遺族・医療従事者・行政関係者 「がん患者」と回答された方へ 診断された年*　（　　年） がんの種類・部位*　（　　）
ピアサポートの経験はございますか*	ある　・　なし
患者会での活動経験はありますか*	スタッフとして活動・参加者として利用・なし
がんサロンなどへの参加経験はございますか*	ある　・　なし
本研修会を受講しようと思ったきっかけや、ピアサポートに対する思いなどがございましたらご記入ください。	
研修会に参加するにあたり、配慮してほしいことがありましたらお書きください。	

※本研修は、ご自身ががんの体験があること、もしくは、ご家族や近しい方のがんを共に体験した方であれば、ご家族やご遺族の立場でも受講することができます。治療が終わった方だけでなく、治療中であっても症状が安定し、研修を無理のない範囲で受講できる方であれば、受けていただくことができます。

※研修では、ご自身の体験を語っていただくなど、思い出したり、言葉にしたりことが辛いとお感じなることがあるかもしれませんが、スタッフや講師陣もサポートしますので、ご安心ください。

※個人情報につきましては、当研修会以外では使用いたしません。適正管理のもと、研修終了後は破棄いたします。

オンラインで実施する際の留意点

これらの研修会をオンラインで開催する際の留意点を紹介します。また、各セクションでも留意点を挙げていますので、併せてご確認ください。

【事前準備】 特にオンライン機器・環境の準備が必要になります。

■受講者側

- 受講環境、機器（パソコン、カメラ、イヤホン・マイク）の準備
- WEB 会議システムのアプリケーションの準備（アプリケーションのインストール、アップデート）
- 1 人につき 1 デバイスを推奨します。1 デバイスから複数人で参加する場合は、参加する人に名札を付けてもらうといった工夫が必要です。
- アプリケーションソフトが最新のものになっているかを確認しましょう。
- 研修中は、個室をつかったりイヤホンを使ったりして、受講者以外に不用意に受講内容を公開しないように注意しましょう。受講者同士の個人情報を守ることにつながります。

■講師・運営側

〈受講者への案内〉

- 受講者には、WEB 会議システムの使い方などを案内しましょう。その際、研修会ルールも併せてご案内しましょう（質問があるときにチャット使うかどうか、研修会当日の緊急連絡先など）。
- 研修前に事前接続テストを行い、そこで受講者のカメラ・マイクの確認をしておくことをお勧めします。
- 当日に使う資料は、運営側で印刷し、受講者へ郵送しておくとさらに親切です。

〈WEB 環境〉

- 可能であれば、受講者、講師・運営共にパソコンで参加することを推奨します。
- 特にスマートフォンでは、1 画面に映る人数に限界があります。運営側であらかじめ WEB 会議ツールを実際に使ってみてから、受講人数の決定をしましょう。
- 講師・運営はヘッドセットを使用することを推奨します。講義中に施設や自宅の環境音などが入らないように工夫しましょう。
- 講師・運営は、講義用のパソコン以外に、補助用に２台目のパソコン、タブレットがあると安心です。
- 研修会直前には、講師・スタッフの接続確認を行うことが必須です。

〈WEB 会議ツールの設定・利用〉

- WEB 会議システムの設定に専従できるよう、十分な人数を確保しておきましょう。
- 講師・運営は、共同ホストに設定しておきましょう。
- 講師・スタッフは、WEB 会議システム以外で連絡手段をもっておくことが大切です（たとえば、LINE のグループや Messenger などの SNS ツール）。講師・スタッフの接続が不安定になってしまったと

き、グループワークの編成が変更になったときなどに連絡を取り合い、フォローし合える体制をつくっておきましょう。

- 研修会の最中に、気分が辛くなった受講者が入れる部屋を設け、講師・スタッフのだれが対応するか決めておきましょう。Zoom では、ブレークアウト機能を使って対応することができます。

〈プログラムの工夫〉

- 研修時間を早く始めて、早く終わるようにするとよいかもしれません。特に、自宅などから参加する人は家事など気になったり、自宅と受講環境が切り離せないといった課題があります。必要に応じて時間割を編成してください。
- オンライン開催では、対面開催に比べて受講者が自由に気持ちなどを話し合う時間を取ることが難しいです。オンラインで開催する際には、閉会前に受講者が気持ちや感想などをお話しできる時間を設けたり、講師・運営がリラックス方法を紹介する時間を設けたりするなどの対応をお勧めします。

【参　考】

- 委託事業では、ピアサポーター養成研修会の一部のプログラムを動画にしています。下記から視聴の申込ができます。

  https://www.peer-spt.org/activity20210228/

- 全国がん患者団体連合会「オンラインでのピアサポート留意事項の手引き」

  http://zenganren.jp/?p=2730

前日ミーティング

日時：　　月　　日（　）　　：　　～　　：　　（準備状況にもよるが 1～3 時間程度）
場所：

〔タスク〕 物品、資料、進行の確認

- 開催マニュアル（本冊子）を参考にしながら、前日にはすべての時間を追ってシミュレーションをしておくことが望ましい。主要なメンバーは出席。この時点で全ての配布資料を確認して、足りないものがないようにする。
- 受付、案内、照明係などの役割分担を決める。
- 会場の視察ができれば事前にみておくとよい（会場までの動線、案内ができているかも確認が必要。不具合があったとき当日朝では代替を準備することが難しいため、PC とプロジェクターの連動、音響、照明の動作確認をしておくことが望ましい。そのほか、トイレの位置や数なども確認）。
- ロールプレイなどの実施に際し、欠席者が生じたときの代わりになる人も決めておくとよい。

当日直前ミーティング

日時：　　月　　日（　）　　：　　～　　：　　（準備状況にもよるが 15～30 分程度）
場所：

〔タスク〕

- ファシリテーターの顔合わせ
- 最終スケジュールの確認
- 当日の欠席者、遅刻者などの確認をし、必要に応じてグループ分けなどを変更する。

受　付

日時:　　月　　日(　)　　:　～　　:
場所:会場入口・全体会場
担当:会場担当(　　)、受付担当(　　)、会場誘導担当(　　)

〔会場担当のタスク〕

- 機器動作確認　マイクの本数や音量などの確認。会場の担当者と一緒に行う。
- プロジェクター使用時など、照明の調整、調整の仕方なども複数で確認をしておく。

〔受付担当のタスク〕

- 参加者名簿のチェック、テキスト・名札・ファイル・アンケートなどの受け渡し。
- 「自分の体験を語る」順番をくじ引き。→順番を名簿に控える。くじのカードは手元に持っておいてもらう。
- 会場に入っていただく。

〔会場誘導担当のタスク〕

- 基本的には前から詰めて座っていただくようにする。
- 「アイスブレイク」の際にペア、グループがつくりやすくなるよう座席の誘導を行う。

〔留意点〕

- 1 日目終了後、紛失防止のためテキスト、名札などを回収する。座席についたらテキスト、ファイルに記名をしていただくようお願いする。

〔ファイル、名札の色分け(必要に応じて)〕

- 参加人数が多くなる場合、ファイルや名札の色を分けておくことで、一目でどの立場の参加者か把握することができる。

色分けの例	ファイル	名札のひも
ピアサポーター	ピンク	ピンク
医療従事者	青	青
見学者	緑	緑
講師・スタッフ	黄色	黄色

●開会あいさつ・オリエンテーション

日時:　　月　　日(　)　:　～　:　　(10 分)
場所:全体会場
セッティング:スクール形式
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、レーザーポインター
使用スライド:【スライド 0】オリエンテーション

【学習目標】

- ピアサポーター養成研修会の目的を明らかにする。
- 今後、参加者は各施設でのピアサポート活動のコアとなることが期待されていることを知る。

【事前準備】

- マイク、プロジェクター、音響などのチェックをしておく。

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者

【進め方】

- 配布資料を確認する。
- 最初のスライドで研修会参加の目的をあきらかにする。
- ファシリテーター、運営スタッフ、見学者(都道府県職員など)を紹介する。

【このセッションでの留意点】

- 研修会運営を円滑にするため、この研修会の目的を参加者に理解してもらう。
- 都道府県単位で**病院の中で**ピアサポートを広げることを前提とした研修プログラムである。ほとんどのプログラム内容は病院外で活動するピアサポートにも有用だが、医療従事者との情報共有など病院外でのピアサポート活動の方針に沿わない部分もあり得る。背景の違いを理解し、そのような活動を否定するものではないことを強調する。病院外での活動が長い参加者にとって違和感を覚えるかもしれない内容の講義の際に繰り返し言及しておくことが望ましい。
- 事前アンケート記入のお願いをする(アンケートを配布した場合)。
- テキストなど配布資料に名前などを書き、自分の持ち物とわかるようにしておくことを促す。

【オンラインで実施する際の留意点】

- 講義中の質問方法を周知する(Q&A 機能を使うか、チャットを使うかなど)。

●アイスブレイク

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(10 分)
場所:全体会場
セッティング:スモールグループ
担当者:メインファシリテーター(　　)
各小グループにファシリテーター1 名ずつ
実演担当者(　　)(　　)(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター、アイス・ブレイキングに使用する資材
使用スライド:【スライド 1】アイスブレイク

【実施目的】

- 参加型研修会を円滑に進められるように取り入れる。
- 多くは初対面であろうと思われる参加者間の緊張をほぐす。
- グループワークやロールプレイなどの体験学習参加に関する心理的障壁を下げる。

【事前準備】

- 事前にファシリテーター数名がアイス・ブレイキングの見本が見せられるよう、準備をしておく。
- 参加者が奇数でペアがつくれない場合に参加するファシリテーターを決めておく。

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者

【進め方】

- 他己紹介…他己紹介の進め方を説明する。 ファシリテーターが他己紹介を実演する。
  〔方法〕前後左右 4 名程度でグループをつくり、2 人のペアをつくる。ペア同士で自己紹介(2分ずつ)を行い、グループ内で順にパートナーの紹介をする(30 秒)。自己紹介は名前、所属、職種、ピアサポート活動の経験に加え、少しリラックスできるテーマ(例:「今日研修会にきてなかったら何をしていましたか?」、お国自慢など)を含めるよう促す。

【このセッションでの留意点】

- ・紹介しているプログラム以外を行ってもかまわない。ただし、身体的接触を伴うプログラムは、心理的・身体的配慮を要するため、避けたほうがよい。

【オンラインで実施する際の留意点】

- オンラインで実施する際には、身振りが伝わりにくいことから、発話だけで会話できるようなテーマを

設定する。（例）「これに参加していなかったら何をしていますか」「はまっていることは何ですか」「好きな食べ物は何ですか」などリラックスできる話題を含めた自己紹介。WEB 会議ツールに慣れていない人もいるので、簡単に取り組めるようなものにする。

・ 受講者が多くいる場合は、このセッションでアイスブレイクを行わず、ロールプレイ・グループディスカッションを始める際に各グループでアイスブレイクをする。

●ピアサポートとは

日時:　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(30 分:質疑応答を含む)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター
使用スライド:【スライド 2】 ピアサポートとは

【学習目標】
・ ピアサポーターの活動内容、形態の多様性を理解する。

【事前準備】
スライドや音声が動作することをチェックしておく。

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者

【進め方】 講義

【このセッションでの留意点】
・ 導入に相当するので、かたくならない雰囲気づくりを心掛ける。
・ 実際の事例(ピアサポートの運営方法など)を組み合わせるとさらによい。
・ この講義は動画でも見られます。下記から視聴の申込ができます。
https://www.peer-spt.org/activity20210228/

●ピアサポーターの役割と活動指針

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(60 分:質疑応答を含む)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター
使用スライド:【スライド 3】ピアサポーターの役割と活動指針

【学習目標】

- ピアサポーターの活動内容、形態の多様性を理解する。
- 守秘義務や、医療行為そのものに介入しないことなど、医療機関でピアサポートを行う際に注意すべき点を理解する。
- ピアサポート活動にあたり知っておくべき情報を理解する。
- 活動の記録やピアレビューの目的・意義、行い方を理解する。

【事前準備】

- スライドや音声が動作することをチェックしておく。

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者が参加

【進め方】 講義

【このセッションでの留意点】

- ピアサポーターの自己評価を保ち、燃え尽きを予防するために、ピアサポートの意義を強調する。
- ピアサポーターの意欲をそがないよう配慮しながら、活動上守るべきことをはっきり伝える。
- 記録の取り方などは具体例を示すとイメージがわく(テキストにサンプルを掲載、みてもらう)。
- 「医療に介入しないこと」などのルールを押しがけがましくなく受講者に理解してもらうため、ピアサポーターが講師となることが望ましい。
- 医療者が講義をする際には、ピアサポーターを実践している方に、「ピアサポーターをする際によくあること」として具体例を紹介していただくとわかりやすい。
- この講義は動画でも見られます。下記から視聴の申込ができます。
  https://www.peer-spt.org/activity20210228/

●相手を大切にすること、自分を大切にすること

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(40 分:質疑応答を含む)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター
使用スライド:【スライド 3-2】相手を大切にすること、自分を大切にすること

【学習目標】
・バウンダリーについて理解する。
・ピアサポーターが知っておくとよい情報を理解する。

【事前準備】
・ 映像や音声が動作することをチェックしておく。

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者が参加

【進め方】 講義

【このセッションでの留意点】
- バウンダリーについては、利用者とのトラブルを避けるためだけでなく、ピアサポーター自身を守るための概念であることを共有する。
- 心理支援技術の一つであり、精神心理支援に習熟したものが講師となることが望ましい。
- 医療者が講義をする際には、ピアサポーターを実践している方に、「ピアサポーターをする際によくあること」として具体例を紹介していただくとわかりやすい。
- 「知っておくとよい情報」で、地域で開催されているピアサポートの場について資料がある場合は具体的に紹介すると有用である。ただし、サロンという名前で、実態は勧誘などを行っている団体などもあるため、偏りがないように留意して紹介する必要がある。
- この講義は動画でも見られます。下記から視聴の申込ができます。
  https://www.peer-spt.org/activity20210228/

●自分の体験を語る

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(セッション所要時間 120 分)
場所:全体会場
セッティング:スモールグループでのロールプレイ
担当:ファシリテーター1 名(　　)(がん体験者が望ましい)、
サブファシリ(　　)(時間管理補助など)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター、タイマー、順番決めのくじ引き
使用スライド:【スライド 4】自分の体験を語る

【学習目標】

- 自分の体験を言葉として振り返り、必要があれば感情的な問題に気づく。
- 体験を整理しておくことの大切さを学ぶ。
- 体験の多様性に気づく。
- 一定の時間内に体験を語る経験をする。
- 仲間の体験を知る。

【事前準備】

- 事前に話す順番を決めておくことが望ましい(受け付け順、名簿順、くじ引きなど。くじ引きの場合も受付時に行うなど開始までに終わらせておくとよい)。

【座　席】

- (可能なら)机を下げ、椅子を前に出しシアター形式に変更。構造上難しければスクール形式でもよい。
- 発表は参加者が前に出て行う。

【参加者】 ピアサポーターのみ

【進め方】

- 一人 3 分で話す。
- 前半後半に分けて実施。語り終えたら進行役が必要に応じてフォローのコメントを入れる。

【このセッションでの留意点】

- タイムキーパー係を用意する。話の途中であっても 3 分で中止の合図をする。3 分で終わらせる必要はない。
- 自分の体験を語るときの時間感覚を経験することが目的。
- フォローでは学習目的を意識し、時間の感覚や感情のゆらぎ、経験の大変さを肯定的に評価し、大丈夫であると安心感を与える(保証する)。

- 参加者全体で振り返りをする時間が重要。
- 話し手も聞き手も、辛いときはいつでもストップできることを保証する。
- 「聴き手」の経験をしてもらう。2 日目に実施するロールプレイの際のピアサポーター役として「相談者の話を聴く」ことの難しさや１日目の「体験を語る」のコマでの聴き手として自分自身との対比に気づくことができると、さらに望ましい体験となる。
- ファシリテーターは、感情を抑えられない・話し過ぎてしまうなど、2 日目のロールプレイ時に配慮を要する参加者がいるかを注意して観察する。
- 少ない人数であっても、個々の体験をじっくりと大切に聞く姿勢を持つ。

【オンラインで実施する際の留意点】

- 時間に余裕がある場合には、1 周目に自分の体験を 3 分で話してもらったあと、2 周目として「1 分で話す」ことに取り組んでもよい。 たとえば、1 周目はくじ引きや指名で話してもらい、2 周目は挙手制にすると、研修会に動きが出てくる。
- 特にオンラインでは、聴講する側（特に講師・運営）はリアクションを大きく取るように心がける（大きくうなずく、大きなリアクションで拍手する）。
- 基本的には受講者は画面をオンにして参加する。気持ちがつらくなったらオフにしてもよいことを伝える。

●行政や医療機関が支援できること、Q&A

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(120 分:「体験を語る」の見学、質疑応答を含む)
場所:　別会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの:　PC、プロジェクター、ポインター
使用スライド:【スライド 5】行政や医療機関が支援できること

【学習目標】

・ ピアサポートの支援として行政、医療機関が行うべきことを理解する
・ ピアサポートと連携することへの不安を語ってもらう
・ 実施に向けた今後の方策を思考する

【事前準備】

・ 映像や音声が動作することをチェックしておく

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 医療従事者、行政担当者のみ

【進め方】

・　講義(インタラクティブ・ティーチング)

【このセッションでの留意点】

・　本セッションに参加する医療従事者・行政担当者も「自分の体験を語る」を聞く時間をとる(最初の数例のみ聞く、グループを分け前後半で「語る」の見学と講義にするなど)。
・　翌日のグループワークでの課題検討を意識していただく。
・　Q&A の候補となる疑問を拾う。
・　全体会場で行われている「自分の体験を語る」の見学も行う。

【オンラインで実施する際の留意点】

・　受講者の人数によっては、グループに分けて実施することも検討する。

●がん診療の基礎知識と情報提供の注意点

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(50 分:質疑応答を含む)
場所:　全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの:　PC、プロジェクター、ポインター
使用スライド:【スライド 6】がん診療の基礎知識と情報提供の注意点

【学習目標】

・　ピアサポート活動に際し、最低限知っておくべきがん医療情報や、学習に利用できる教育資材を理解する。

【事前準備】

・　映像や音声が動作することをチェックしておく。

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者

【進め方】 講義

【このセッションでの留意点】

・　可能なら当該地域でがん診療を行っているがん治療医が担当できることが望ましい。
・　治療方法の詳細を学ぶ場ではないので、治療の流れなど概略がつかめる程度にとどめる。
・　この講義は動画でも見られます。下記から視聴の申込ができます。
https://www.peer-spt.org/activity20210228/

●1 日目のまとめ

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(10 分:質疑応答を含む)
場所:　全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの:　PC、プロジェクター、ポインター

〔留意点〕

- ２日目もテキスト・名札を使用するため、お帰りの際回収することを連絡する (紛失、忘れ防止のため)。
- 連続した日程で、同じ会場で行う時は、机の上に置いて帰るよう指示をしてもよい。

1 日目の振り返り

日時:　　月　　日　　:　　～　　:　　（1～2 時間程度）
場所:

〔タスク〕

- プログラム運営上の問題点を確認する。
- 参加者についての情報（積極性、活動予定場所の状況、心理的配慮を要する参加者など）の確認。場合によっては 2 日目の座席の位置、ロールプレイのグループ分けを考慮する（ロールプレイの項目を参照）。
- 翌日のスケジュール確認や参加者の確認をする。

2 日目直前ミーティング

日時:　　月　　日　　:　　～　　:　　（15 分～30 分程度）
場所:

〔タスク〕

- ファシリテーターの顔合わせ
- 最終スケジュールの確認
- 2 日目から参加する人の有無を確認

2 日目受付

日時:　　月　日　　:　　～　　:
場所:会場担当（　　）、受付担当（　　）、会場誘導（　　）

〔会場担当のタスク〕

- 機器動作確認:マイクの本数、音量などの確認。会場の担当者と一緒に行う。

〔受付担当のタスク〕

- 参加者名簿（参加者・遅刻者）のチェック
- 回収したテキスト、名札などの再配布

●2 日目オリエンテーション

日時:　月　日(　)　:　～　:　　(10 分)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター

〔タスク〕

- 終了時間など事務連絡
- ファシリテーターの紹介
- スクール形式

【このセッションでの留意点】

- 研修早退の申し出があったときに、研修修了とするかの判断が必要になる。原則 2 日間参加の場合に修了とする。
- 初日の学習の概要、行ったことなどを簡単におさらい(1分以内)するとよい。

●よりよいコミュニケーションのために

日時:　　月　　日(　)　:　　～　　:　　(40 分:質疑応答を含む)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター
使用スライド:【スライド 7】よりよいコミュニケーションのために

【学習目標】

・ ピアサポーターが身に着けておくべき基本的コミュニケーションスキルを理解する

【事前準備】

・ 映像や音声が動作することをチェックしておく

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】

ピアサポーター、医療従事者、行政担当者が参加

【進め方】

・ 講義(インタラクティブ・ティーチング)
・ 実際に体験していただく時間を講義の中でもうける
　体験の例
　■座り方
　➢ 向かい合い、斜め 45 度などの座り方を参加者に実際に体験、もしくは講師が前で実際に行い提示する。
　➢ 斜め 45 度が推奨されることも多いが、人によって感じ方は違うこともあり、座り方なども含めて場の設定に配慮することが大事であるというメッセージを伝える。
　■視線
　➢ 「目を見て話す」「直視せず胸のあたりを見て話す」を隣り合った二人組で実際に体験する。

【このセッションでの留意点】

・ 講師は開かれた質問を用いて参加者の自発性を引き出し、双方向のやりとりを通して講義を行う(インタラクティブ・ティーチング)。
・ 話を聞き、体験を共有し共に考えるためにまず必要となる基本的なコミュニケーションスキルを学ぶ場であることを確認する。

- カウンセリング技術を持っていなくても、同じような体験をしている人に話を聴いてもらえるという体験がピアサポートにおいてはとても大切であることを強調する。
- 体調によって楽な姿勢が必要なピアサポーターもおり、スキルの原則に沿った行動がとれないこともあること（リンパ浮腫があるため断ったうえで足を組む、口喝で水分補給が頻繁など）を知っておく。
- 椅子が動かせる場合などは、距離感、角度などからくる印象の違いを体験してもらうとよい。
- インフルエンザや風邪などが流行しているときは、感染予防にも留意する。
- この講義は動画でも見られます。下記から視聴の申込ができます。
  https://www.peer-spt.org/activity20210228/

●ロールプレイ

日時:　　月　　日　　:　　～　　:　　（セッション所要時間 180 分）
場所:
セッティング:スモールグループでのロールプレイ
担当:全体進行 1 名（　　）
ファシリテーター:各グループに配置（　　、　　、　　、　　）
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター、タイマー、シナリオ用紙（グループの数）
使用スライド:【スライド 8】ロールプレイ

【学習目標】

- ピアサポーターの役割、活動指針、コミュニケーションの基礎など研修で学んだ事を踏まえて実際に相談対応を経験する。
- ピアサポーターと利用者という意識を持つことで、傾聴や寄り添うことの難しさも含めた気づきが得られる。
- サポーター、利用者、観察者それぞれの役割での気づきを言葉にし、振り返りの意義を感じることができる。

【事前準備】

- 可能であれば、講義を行う主会場以外にロールプレイ用の部屋を用意する。オリエンテーション、デモンストレーションは主会場スクール形式で実施（デモンストレーションに 3 名必要。本冊子 p.35～36 ロールプレイシナリオ【ロールプレイ実演】を参照）。
- 別室にグループごとに島をつくっておく。
- グループは、受講生 4 名＋ファシリテーター1 名で、事前にグループ分けを済ませておく。
- グループ分けの際、同じ患者会やグループの仲間、友人・知人などは同じグループに固まらないよう注意する。また、個性の強い（影響力のありそうな）参加者も同じグループに集中しないよう調整する。
- 参加者の背景や経験など、事前にわかる範囲で情報収集をしておく。シナリオと酷似した体験を有する参加者がいた場合は、使用シナリオを考慮する。
- 4 名の倍数にならない場合のグループ分けについて
  - ✧ 3 名のグループ分けとする、または、3 名と 4 名のグループで構成する
    3 名の場合は、4 つ目のセッションは希望を取る（もう一度チャレンジしたい人を募る）
  - ✧ 4 名以上の場合は、最大でも 8 名とする。
    4 名以上となった場合も、必ず全員がそれぞれの役割を担うよう対応表を考える。ピアサポーター役を 2 名にしたり、利用者役を複数にするなどグループ内の人数の割り振りを当日までに考えておくとよい。
- シナリオ（利用者役の相談内容）をグループの数分用意しておく。

・　全体進行、グループごとのファシリテーターのほかに、フリーのファシリテーター（スタッフ）を配置する。
・　それぞれの役柄が書かれたネームカードのようなものを用意するとよい。

【座　席】
オリエンテーション、デモンストレーション：スクール形式で行う。
グループごとに島をつくる。できるだけ間隔を空ける。

【参加者】 ピアサポーターのみ（医療従事者、行政担当者は周囲で見学）。

【進め方】
・　オリエンテーション（進め方・動機づけ）⇒ファシリテーターによる模擬演技を行う。
・　用意したシナリオを利用者役に渡し、セッションをスタートする。
・　セッションの都度、ファシリテーターを中心にグループごとに振り返りを行う。
・　2 セッション終了時に休憩を挟む（体を動かすなど必要に応じて声かけ）。時間に余裕があれば、セッションごとに休憩を挟む。
・　4 セッション終了したら、参加者からの感想やファシリテーターからの報告など、ロールプレイでの学びや気づきを全体でシェアする。
・　セッションの時間については、プログラムでの時間配分によって模擬面談の時間や振り返りの時間を調整する。

【時間配分の例①　120 分】

所要時間	形　式	内　容
20 分	全体	オリエンテーション・模擬演技。グループの発表→分かれる
20 分	グループごと	セッション 1 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	グループごと	セッション 2 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
5 分～10 分		休憩
20 分	グループごと	セッション 3 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	グループごと	セッション 4 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	全体	全体振り返り

【時間配分の例②　180 分】

所要時間	形　式	内　容
20 分	全体	オリエンテーション・模擬演技。グループの発表→分かれる
30 分	グループごと	セッション 1 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
10 分		休憩
30 分	グループごと	セッション 2 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
30 分	グループごと	セッション 3 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
10 分		休憩
30 分	グループごと	セッション 4 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
20 分	全体	全体振り返り

【このセッションでの留意点】

- あらかじめ用意したシナリオをセッションの都度、利用者役に渡す。
- 時間内に完結する必要はないこと、途中で終わってもよいことなどを伝える。
- 早く終わった場合は、静かにセッション終了の合図まで待ち、振り返りを先に始めない。
- 辛くなったら、いつでも辞めてよいことを保証する。
- ファシリテーターはよい点をほめ、建設的な指摘を行う。講義で触れたスキル（視線、距離、座る位置などの非言語的、話を聞く、自分の経験の伝え方など言語的）に基づきフィードバックする。各シナリオのねらいも意識してコメントする。
- セッションが終わったら、役を「降りる」ことを説明する。全員で体を動かすなど声かけを行う。（経験と重なり、精神的な負担になることもあるので、気持ちの転換を行うブレイクを最後に行うとよい）
- 医療者や行政などセッションに直接関わらない見学者やスタッフは、ロールプレイの妨げとならないような場所や態勢で見守ってもらうようアナウンスする。最後の全体での振り返りに感想を求めてもよい。
- 精神的に辛いときは、途中で止める、休憩をとるなどもよいことを伝える。

【オンラインで実施する際の留意点】

- 対面で行う際は、用意したシナリオをピアサポーターに紙で渡すことができるが、オンラインではそれができないので、WEB 会議システムのチャットを利用し、個別にシナリオを送るといった方法をとるとよい。
- チャットが使えない人には、事前にシナリオを郵送という方法もある。ただし、全員に全シナリオを送らないように注意する（チャット上で送り先を選択して送信をする）。

<ロールプレイのローテーション>

4 人グループ

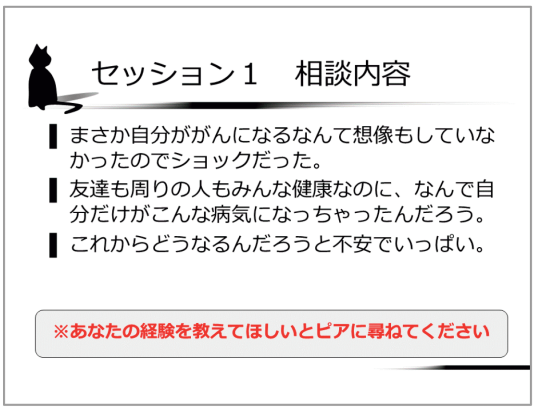
	A	B	C	D
1回目	利用者役	観察者	ピアサポーター役	観察者
2回目	観察者	利用者役	観察者	ピアサポーター役
3回目	ピアサポーター役	観察者	利用者役	観察者
4回目	観察者	ピアサポーター役	観察者	利用者役

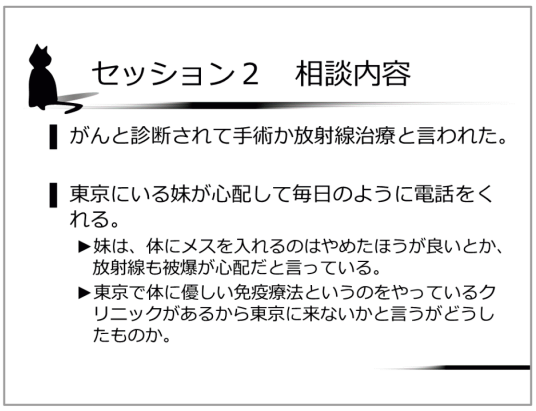
5 人グループ

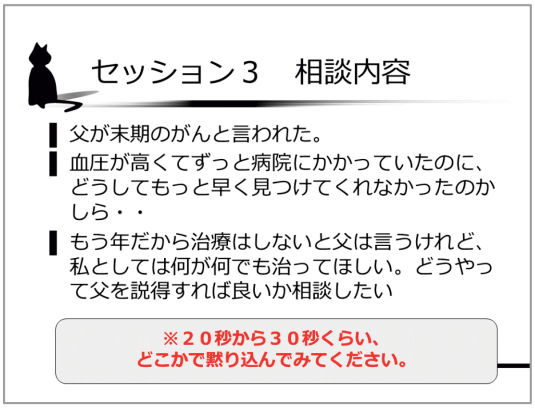
	A	B	C	D	E
1回目	利用者役	観察者	ピアサポーター役	観察者	観察者
2回目	観察者	ピアサポーター役	観察者	ピアサポーター役	利用者役
3回目	ピアサポーター役	観察者	利用者役	観察者	観察者
4回目	観察者	利用者役	観察者	利用者役	ピアサポーター役

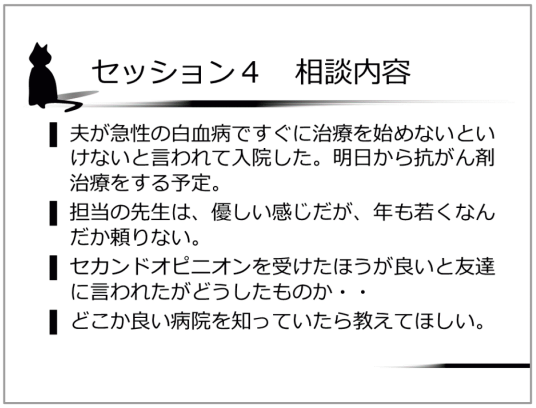
<シナリオ（相談内容）>

利用者役の相談内容。グループの数の分だけプリントしておく。事前配布せず、当日のセッションごとに、進行役（運営）が利用者役の受講生に渡し、利用者役はこの内容に沿って相談を行う。









＜シナリオ（相談内容）のねらい＞

＜シナリオ（相談内容）のねらい＞は、講師・運営のみで共有し、研修前の受講者に開示しないように注意する。

「セッション 1 相談内容」のねらい

・がんと診断されたばかりで、漠然とした不安を抱えている利用者に対して、どのような寄り添い方ができるか。
・サロンやピアサポートのこともよくわからないままなんとなく来てしまったという利用者にじっくり向き合う経験をする。
・経験を話してくれと言われたとき、相手の反応を見ながら自分の体験を話せるとよい。
・長々と自分の体験を話してしまわないよう注意して話す。

「セッション 2 相談内容」のねらい

・治療選択に迷っている利用者に対してピアとしてどのような寄り添い方ができるか。
・医療介入にならないようなアドバイスや経験を伝えることができるとよい（自分はどうやって治療を決めたか）。
・妹さんの治療に対する考えや免疫療法のクリニックなど、ピアとしては「ダメ」と言いたくなる内容の相談にどうこたえるか。
・推奨は NG だが、妹さんの気持ちはよくわかると言ってあげたい。

「セッション 3 相談内容」のねらい

・娘（息子）からの相談。家族の気持ちや思いにどう寄り添うことができるか。
・近医に対する不満に同調はせず、気持ちはわかると言えるか。
・なんとか父親を説得したいという家族に、治療は厳しく辛いことを知っている、緩和ケアの重要性も知っているというピアの立場でどのような話ができるか。
・沈黙に対してどう対応したか振り返る。

「セッション 4 相談内容」のねらい

・配偶者からの相談。あえて血液がんを取り上げたシナリオ。
・あまりにも急な展開で、家族も戸惑っていることを理解した上で、慎重な対話を進めていけるとよい。
・血液がんの場合は、時間単位、日単位で病状が推移していくことがあると知らず、「すぐに治療開始とは考えられない、セカンドオピニオンでじっくり治療を選択するのがふつう」など、固形がんの治療の時間軸での不用意なアドバイスをしないよう注意が必要。
・このシナリオで血液がんを取り上げた背景について、進行役または、ファシリテーターのうちの医療者から簡単な解説をしてもらうとよい。

●ピアサポートを実装するためには（グループワーク）、Q&A

日時：　　月　　日（　　）　　：　　～　　：　（180 分、「ロールプレイ」の見学、質疑応答を含む）
場所：別会場
セッティング：グループワーク
担当者：（　　）
用意するもの：PC、プロジェクター、ポインター、付箋、サインペン、模造紙
使用スライド：【スライド 9】「ピアサポートを実装するためには」

【学習目標】

- ピアサポートを支援する全国の行政、医療機関が抱えている問題を共有する（全国調査の QA を渡すのでもよいが、地域の課題を扱えることが望ましい）
- その地域でピアサポートを実装するための課題を共有し対象法を考える

【事前準備】

- 映像や音声が動作することをチェックしておく
- 前日の「行政や医療機関が支援できること」でのインタラクティブ・ティーチングで課題の共有を準備してもらう

【座　席】 グループワーク形式

【参加者】 医療従事者、行政担当者のみ

【進め方】

- 講義（インタラクティブ・ティーチング）Q&A スライド
- グループワーク
- ロールプレイを見学しての感想や懸念も扱う

【オンラインで実施する際の留意点】

- Word、PowerPoint、メモ帳などを画面共有し、そこに書き込みながら検討を進めると議論が深まる。あらかじめ書記を決めておく（画面共有、文字入力に慣れている人）。
- WEB 会議ツールの画面共有の権限をあらかじめ確認しておく。

●グループファシリテートのために（代替：○○県でピアサポートを実践するために）

日時：　　月　　日（　　）　　：　　～　　：　　（40 分：質疑応答を含む）
場所：全体会場
セッティング：スクール
担当者：（　　）
用意するもの： PC、プロジェクター、ポインター、DVD、DVD プレーヤー、音響設備
使用スライド：【スライド 10】グループファシリテートのために

【学習目標】

・ がんサロンなどの運営法である、ピアサポーター養成テキスト「V ピアサポートの活動と実践　グループでのピアサポート活動」と、「VI　がんサロンで起こり得る事例と対応のヒント」の内容を理解する。

【事前準備】

・ DVD 再生について動作確認を行っておく

【座　席】 スクール形式で行う

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者が参加

【進め方】 講義+DVD 視聴

【このセッションでの留意点】

・ 事例と対応のヒントのスライドと DVD 再生を交互に行う。
・ 参加者に事例の対応を考えてもらう（隣同士などで 1-2 分議論してもらい、ファシリテーターが議論結果を何名かから聞く）

※その地域のピアサポーターがサロンなどグループでの活動を予定していない場合は、このプログラムを行わない、もしくは「○○県でピアサポートを実践するために」としてその地域でピアサポートを広めていくための総合討論などを行うことができる。
※事前に地域の問題をリストアップ、提示する。
※地域のリーダーに 5～10 分程度、現在の運営課題や計画をお話しいただいたうえで、議論する。

●行政や医療機関の役割について学ぼう

日時:　　月　　日(　　)　　:　　～　　:　　(40 分:質疑応答を含む)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター
使用スライド:【スライド 11】行政や医療機関の役割について学ぼう

【学習目標】

- それぞれの地域で、ピアサポートが普及し活動するために、行政と医療機関の役割を理解し、ピアサポートが実践できるようになる
- がんのサバイバーシップとピアサポートを理解する
- 国と地域の施策を理解する(がん対策推進基本計画・都道府県がん対策推進計画)
- 医療機関が出来ることを理解する
- 行政が出来ることを理解する
- 地域でピアサポートを実践するための課題をあげ、実践を考える

【事前準備】

「【スライド 11】行政や医療機関の役割について学ぼう」12 枚目のスライドに都道府県がん対策推進計画を入れておく。

【座席】 スクール形式

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者が参加

【進め方】 講義

【このセッションでの留意点】

- スライドのノートを参考

●2 日間のまとめ、質疑応答

日時:　　月　　日(　)　　:　～　　:　　(20 分:質疑応答を含む)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター

【学習目標】

・ 今後のピアサポート活動に向けて、気がかりを解消し、モチベーションを高める。

【事前準備】

・ ピアサポーター体験者がファシリテーターとして、ピアサポートを行ってよかったことを話す準備をしておく

【座席】 スクール形式

【参加者】 ピアサポーター、医療従事者、行政担当者が参加

【進め方】

・ 質疑応答
・ 積極的に発言がない場合、ピアサポート開催予定施設の医療従事者に、「ピアサポートを開催できそうか？ 何が問題になりそうか」や、ピアサポーターに「ロールプレイのような状況など、対応に困りそうなことはありますか？」などの問いかけを行う。
・ ピアサポーター経験者が、ピアサポーターをやってよかったことを話す。また不安を和らげる言葉(「最初は心配でしたが、何とか続けられています」「困ったらピアの仲間や相談支援センターに相談することで対応できました」など)をかける。

【このセッションでの留意点】

・ ピアサポーター(受講者)の不安を高めすぎないようにする

●まとめ、閉会のあいさつ

日時:　　月　　日(　)　　:　　～　　:　　(10 分)
場所:全体会場
セッティング:スクール
担当者:(　　)
用意するもの: PC、プロジェクター、ポインター

【進め方】

- 閉会のあいさつを行う。
- 修了証の授与
- アンケートの記入にご協力いただく(アンケートを配布した場合)。
- 記念撮影

【オンラインで実施する際の留意点】

- ピアサポートについて考える非日常的な研修会から、オフラインにしたとたんに日常に戻る。背伸びや深呼吸などのリラックス動作、フリートークの時間、オンラインでの記念撮影など、変化を和らげるための時間、取り組みを導入することもよい。

ロールプレイシナリオ【ロールプレイ実演】

進行役　：　　ピアサポーター役　：
利用者役　：　　観察者役　：
※模擬で行う際は、実際にサロンへ入る時点からロールプレイを開始するとよい。

担当・役	内容・セリフ
進行役	演習開始の促し
利用者役	あの・・・、こちらで相談会をしていると伺ってきたのですが・・・
ピアサポーター役	ええ、どうぞこちらへお入りください。 こちらの椅子へおかけください。
利用者役	ありがとうございます。
ピアサポーター役	ピアサポーターの@@と申します。私自身、@年前にがんを体験した経験者です。本日は宜しくお願いします。 差し支えなければお名前をうかがってもよいですか？
利用者役	@@と言います
ピアサポーター役	@@さん、はじめまして。どうされたのですか？
利用者役	＜暗い表情で＞ 「2 年前に胃がんの手術をしたんです。先週の定期検査の結果を今日聞きにきたら、再発の可能性があるって言われたんです」
ピアサポーター役	＜心配そうに＞ 「それはびっくりしたでしょう」
利用者役	「そうなんです。先生の話の後ちょっと泣きそうになっちゃって」 「みなさんも、がんの経験者なんですか？」
ピアサポーター役	「そうですよ。私は〇〇がんをしました。でも、治療がうまくいって、今はとても元気です」
利用者役	＜悲しそうに＞ 「あなたは、治ったんですね。うらやましい・・・」 「再発してたらどうしよう・・・」
ピアサポーター役	＜少し慌てた様子で＞ 「まだ、再発と決まったわけじゃないし・・・」 「あ、でも、泣きたいときは泣いたほうがいいですよ。ここは泣いても大丈夫な場所なんですよ」
利用者役	＜ちょっと戸惑いながら＞ 「ありがとうございます・・・」
進行役	はい、終了です。ピアサポーター役の〇〇さん、いかがでしたか？

ピアサポーター役	“なんとか励ましてあげたいな”と思いました。あと、自分は辛いときにサロンで思い切り泣いたら楽になったことを思い出したので、ここは泣いてもよいところだよってことを伝えてあげたいと思いました。
進行役	では、利用者役の〇〇さん、ピアサポーターさんの対応を受けてどうでしたか？
利用者役	落ち込んでいる私を励ましたいという気持ちは感じました。ただ、泣いてもいいよと言われても、初対面の人の前ではちょっと嫌だなと感じてしまいました。
進行役	観察者役の〇〇さん、どうでしたか？
観察者役	そうですね。力になってあげたいという気持ちは、私にもよく伝わってきました。ただ、「再発と決まったわけじゃないし・・」というのは、少し無責任ななぐさめかもしれないなと感じたので、それは言わなくてよかったように思います。
進行役	ありがとうございます。こんなふうに進めていきます。

■行政・医療関係者の方々へ

【はじめに】

「ピアサポーター養成研修会」をハイブリッド型（事前の動画視聴＋集合研修）で開催される場合に、事前に情報収集・ご準備をされておかれると役に立つ点について以下に記載いたします。

【講義形式の例】

事前学習　～研修会までに DVD・インターネットで視聴～

講義動画	動画時間	主な内容 （「ピアサポーター養成テキスト」参照ページ）
ピアサポートとは	15 分	ピアサポートとは、ピアサポートの意義、ピアサポーターと医療者の違い （p.10～p.16）
ピアサポーターの役割と活動指針	44 分	ピアサポートを行うこと、守るべきこと、振り返りをする （p.18～p.35）
相手を大切にすること、自分を大切にすること・ピアサポーターが知っておくと良い情報	22 分	バウンダリーとは、バウンダリーを守るうえで必要なこと、自分自身が傷ついてしまったときには（p.36～p.41）
よりよいコミュニケーションのために	28 分	基本的なコミュニケーションスキル（p.44～p.49）
行政や医療機関が支援できること	33 分	ピアサポート活動のために医療者ができること、自治体単位で行うこと （p.86～p.107）
がん診療の基礎知識と情報提供の注意点	45 分	がん診療の基礎知識（がんと遺伝子、がん細胞の特徴、治療法）、がんに関する情報提供の注意点

・　委託事業では、上記プログラムの動画をインターネット上で視聴できます。下記から視聴の申込ができます。

https://www.peer-spt.org/activity20210228/

集合研修の時間割の例

開始	終了	時間（分）	ピアサポーター	行政・医療者
9:30	9:40	10	開会のあいさつ 、オリエンテーション	
9:40	10:20	40	事前講義の振り返り、アイスブレイク	
10:20	11:00	40	自分の体験を語る（前半）	「ピアサポートを実装するために（グループワーク）」or「自分の体験を語る」の見学
11:00	11:10	10	〔休　憩〕	
11:10	12:00	40	自分の体験を語る（後半）	「ピアサポートを実装するために（グループワーク）」or「自分の体験を語る」の見学
12:10	13:00	50	〔昼休憩〕	
13:00	14:10	70	オリエンテーション ロールプレイ（グループごとに）	※医療・行政もロールプレイの見学
14:10	14:20	10	〔休　憩〕	
14:20	15:20	60	ロールプレイ（グループごと）	※医療・行政もロールプレイの見学
15:20	15:40	20	ロールプレイのまとめ	
15:40	15:50	10	〔休　憩〕	
15:50	16:40	50	行政や医療機関の役割について学ぼう （代替：○○県でピアサポートを実践するために）	
16:40	16:55	15	まとめ/質疑応答	
16:55	17:00	5	閉会挨拶、記念撮影、アンケートの記入	

【映像による講義動画の事前視聴】

1　事前学習の支援

受講者の方にはあらかじめ DVD もしくはインターネットで講義を視聴していただきますが、それぞれの背景・知識・技能・置かれた環境に差があります。

地域で開催される場合は、あらかじめ受講者の状況に応じて支援できる体制を検討されるとよいでしょう。

例）行政や医療（がん相談支援センター）による操作説明、IT 環境の支援。スマートフォンでの視聴の仕方のレクチャー　など

2　事前講義視聴での疑問点・質問点

あらかじめ、受講者の方には講義動画を視聴された後の質問・疑問をまとめていただく様に促されるとよいでしょう。取りまとめをされてもよいかもしれません。取りまとめられた内容をあらかじめファシリテーターと共有されると、「事前講義の振り返り」の部分が深まるでしょう。

【集合研修前の準備】

1　事前情報収集と共有

この研修では、「自分の体験を語る」「ロールプレイ」において、自己を追体験するセッションがございます。治療中の方や、ロールプレイのシナリオが重層経験となられる方にとって、つらいお気持ちとなられる可能性がございます。もちろんこのような方々の受講を排除するものではございませんが、あらかじめ守秘義務に配慮しながらファシリテーターの方々と情報共有が出来るとよいでしょう（本冊子 p.11 参照）。

2　グループ分け

「自己の体験を語る」の裏で「ピアサポートを実装するために」のグループワークを行う場合、行政と医療関係者の方々は 2 グループに分かれていただきます。グループワークに参加されておられない方々は「自己の体験を語る」の見学を行って頂きます。意図を持ったグループ分けをご検討されるとよいでしょう。

- ✧ （例 1） 医療関係者と関係があるピアサポーターの方の「自己の体験を語る」の見学を優先したグループ分け。
- ✧ （例 2） ご自身と関係があるピアサポーターの方の「自己の体験を語る」の見学を遠慮したグループ分け。お知り合いが「自己の体験を語る」の見学をされるとピアサポーターの方が緊張すると予想される場合を想定しています。
- ✧ （例 3） 都道府県全体で研修会を開催される場合、二次医療圏を優先したグループ分け。

【集合研修時の動き】

前述した「自己の体験を語る」以外に、「ロールプレイ」の見学を予定しています。グループワークの際の取り決め、役割分担についてご検討されるとよいでしょう。

- ✧ 前半・後半で見学するグループをあらかじめ検討しておく。
- ✧ グループワークの際、見学に徹するのか、オブザーバーとしての機能を有するのかあらかじめ検討しておく。またタイムキーパーの役割をお願いするか。
- ✧ 実際の現場でのやり方についてご意見を求められた時の対応

＊ロールプレイは、多少現場との矛盾があっても「コミュニケーション」を学ぶ場なので、後の「行政や医療機関の役割について学ぼう」で対応することを、あらかじめお話ししておくとよいかもしれません。

＊厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修事業」では、医療関係者の方々を対象にした「がんサポートグループ企画・運営のための研修会」を開発致しましたのでご利用ください。相談員の方々がピアサポーターと協働して「がんサポートグループ」を運営するための研修会です。ファシリテート技能について学ぶことが出来ます。

令和３年度厚生労働省委託事業　がん総合相談に携わる者に対する研修事業

ピアサポーター
フォローアップ研修会
マニュアル

日時：　　年　　月　　日（　　）、　月　　日（　　）

会場：

主催：

共催：

目　次

フォローアップ研修会を行う目的 128
フォローアップ研修会プログラム 129
〈参考〉タイムテーブルの例 130
事前準備 131
受講者情報について 131
〈参考〉参加申込書（フォーマット） 132
オンラインで実施する際の留意点 133
◆ 講　義 135
◆ ロールプレイ 136
◆ 事例検討 140
◆ テーマを決めた「自分の体験を語る」 142
◆ ピアサポーター、行政・医療従事者の情報交換・意見交換 144
◆ ピアサポーターのストレスマネジメント 145
〈参考〉ロールプレイ・デモンストレーションのシナリオ 146
〈参考〉ロールプレイのシナリオ（相談内容）とねらい 148

フォローアップ研修会を行う目的

フォローアップ研修行うことは以下のような様々な意義がある。

- ピアサポート活動における困難の共有と解決
- ピアサポーターの技術の維持・向上、モチベーションの維持、燃えつき防止
- ピアサポーター同士の相互交流、顔が見える横のつながりの維持
- ピアサポーターが最新のがん医療の情報提供を受ける機会
- ピアサポーターと、行政担当者・医療従事者の相互交流の機会

ピアサポーターや医療現場の要望をきき、それぞれの地域の状況にあわせて開催頻度、内容を検討する必要がある（例：ピアサポート活動を頻繁に行う中で困りごとや問題の共有が必要になった、養成研修から時間がたった方の追加技術研修が必要、多くの地域でピアサポートが開催されておりサポーター同士の交流機会を持ちたい、ピアサポートが十分開催できないなど実践できていないサポーターがいるためモチベーション維持したい、など）。ピアサポーターのモチベーションを維持するために、開催時期を明示し、少なくとも年 1 回程度はピアサポーター同士が交流できる機会をつくることが望ましい。

また、将来的には、中心的に活動できるピアサポーター、教育的に関われるピアサポーターを養成する機会を作ることが望まれる。

フォローアップ研修会プログラム

◆講　義

ゲノム医療、コロナとがんなど時期にあった内容を医療従事者らが講義。新しい知識が増えることで、学習機会を求める参加者の満足度が高くなることが期待される。

◆ロールプレイ

可能なら模擬患者を用いて、日々の相談で困るようなシナリオのロールプレイを実施。模擬患者の手配が難しければ、相談員など医療従事者が行うこともできる。

◆事例検討

運営上検討の必要がある事例、日々の困りごと、参加者アンケートなどから事例を取り上げ、グループで議論する。

◆テーマを決めた「自分の体験を語る」

短く体験を語る練習。体験を改めて整理する。

◆ピアサポーター、行政・医療従事者の意見交換の場

ピアサポーター同士での意見交換、ピアサポーターと行政・医療従事間で意見交換や情報交換をする時間を設ける。

◆ピアサポーターのストレスマネジメント

ストレスマネジメントに関する講義、リラックス方法について心理士などの専門家から講義・紹介する。ピアサポーターのバウンダリーを守ることにつながる。

※上記の中からピアサポーターとともに研修会プログラムで取り上げる内容を検討することが望ましい。

参　考　タイムテーブルの例

【例：対面　1 日】

開　始	終　了	所要時間(分)	内　容
10:00	10:15	15	開会挨拶、オリエンテーション
10:15	11:00	45	講義
11:00	11:15	15	ピアサポーターのストレスマネジメント
11:45	12:00	45	テーマを決めた「自分の体験を語る」
12:00	13:00	60	昼休憩
13:00	16:00	180	ロールプレイ
16:00	16:10	10	休憩
16:10	16:50	40	意見交換会
16:50	17:00	10	閉会挨拶

【例：対面　半日（3 時間）】

開　始	終　了	所要時間(分)	内　容
13:30	13:40	10	開会挨拶、オリエンテーション
13:40	15:40	120	ロールプレイ
15:40	15:50	10	休憩
15:50	16:50	60	意見交換会
16:50	17:00	10	閉会挨拶

【例：オンライン　半日】

開　始	終　了	所要時間(分)	内　容
13:00	13:05	5	開会挨拶、オリエンテーション
13:05	13:30	25	講義
13:30	15:25	115	事例検討※
15:25	15:35	10	休憩
15:35	16:45	70	テーマを決めた「自分の体験を語る」
16:45	16:55	10	閉会挨拶

※ロールプレイを実施しない場合には、事例検討を実施することが望ましい。

あくまで一例ですので、実情に応じて編成してください。

事前準備

- 「ピアサポーター養成研修会　開催マニュアル」にも研修会の準備に関する項目がありますので参考にしてください。
  ここからダウンロードできます→　https://www.peer-spt.org/document/

受講者情報について

- この研修では、「自分の体験を語る」「ロールプレイ」において、自己を追体験するセッションがあります。治療中の方や、ロールプレイのシナリオが重層経験となられる方にとって、辛いお気持ちとなられる可能性がございます。もちろん、このような方々の受講を排除するものではございませんが、予め守秘義務に配慮しながら講師・ファシリテーターの方々と情報共有ができるとよいでしょう。
- 「*必須項目」は、研修会を円滑に行うためにあるとよい情報です。ロールプレイの際には「ピアサポート、患者会、がんサロンの参加・経験の有無」「診断年・がん種・部位」を参考にグループ分けできるのが望ましいです。申し込み時点で、これらの情報を伺うことを推奨します。
- 各自治体などで必要に応じて質問を追加したり、申し込み用紙をデザインしたりするなどしてお使いください。

参　考　参加申込書（フォーマット）

（*必須項目）

フリガナ* 名　前*	
生年月*	西暦　　年　　月　（　　歳）
メールアドレス	
ご住所	〒　　－
電話番号	
お立場*	がん患者・ご家族・ご遺族・医療従事者・行政関係者 「がん患者」と回答された方へ 診断された年*　（　　年） がんの種類・部位*　（　　）
ピアサポートの経験はございますか*	ある　・　なし
患者会での活動経験はありますか*	スタッフとして活動・参加者として利用・なし
がんサロンなどへの参加経験はございますか*	ある　・　なし
本研修会を受講しようと思ったきっかけや、ピアサポートに対する思いなどがございましたらご記入ください。	
研修会に参加するにあたり、配慮してほしいことがありましたらお書きください。	

※本研修は、ご自身ががんの体験があること、もしくは、ご家族や近しい方のがんを共に体験した方であれば、ご家族やご遺族の立場でも受講することができます。治療が終わった方だけでなく、治療中であっても症状が安定し、研修を無理のない範囲で受講できる方であれば、受けていただくことができます。

※研修では、ご自身の体験を語っていただくなど、思い出したり、言葉にしたりことが辛いとお感じなることがあるかもしれませんが、スタッフや講師陣もサポートしますので、ご安心ください。

※個人情報につきましては、当研修会以外では使用いたしません。適正管理のもと、研修終了後は破棄いたします。

オンラインで実施する際の留意点

これらの研修会をオンラインで開催する際の留意点を紹介します。また、各セクションでも留意点を挙げていますので、併せてご確認ください。

【事前準備】 特にオンライン機器・環境の準備が必要になります。

■受講者側

- 受講環境、機器（パソコン、カメラ、イヤホン・マイク）の準備
- WEB 会議システムのアプリケーションの準備（アプリケーションのインストール、アップデート）
- 1 人につき 1 デバイスを推奨します。1 デバイスから複数人で参加する場合は、参加する人に名札を付けてもらうといった工夫が必要です。
- アプリケーションソフトが最新のものになっているかを確認しましょう。
- 研修中は、個室をつかったりイヤホンを使ったりして、受講者以外に不用意に受講内容を公開しないように注意しましょう。受講者同士の個人情報を守ることにつながります。

■講師・運営側

〈受講者への案内〉

- 受講者には、WEB 会議システムの使い方などを案内しましょう。その際、研修会ルールも併せてご案内しましょう（質問があるときにチャット使うかどうか、研修会当日の緊急連絡先など）。
- 研修前に事前接続テストを行い、そこで受講者のカメラ・マイクの確認をしておくことをお勧めします。
- 当日に使う資料は、運営側で印刷し、受講者へ郵送しておくとさらに親切です。

〈WEB 環境〉

- 可能であれば、受講者、講師・運営共にパソコンで参加することを推奨します。
- 特にスマートフォンでは、1 画面に映る人数に限界があります。運営側であらかじめ WEB 会議ツールを実際に使ってみてから、受講人数の決定をしましょう。
- 講師・運営はヘッドセットを使用することを推奨します。講義中に施設や自宅の環境音などが入らないように工夫しましょう。
- 講師・運営は、講義用のパソコン以外に、補助用に 2 台目のパソコン、タブレットがあると安心です。
- 研修会直前には、講師・スタッフの接続確認を行うことが必須です。

〈WEB 会議ツールの設定・利用〉

- WEB 会議システムの設定に専従できるよう、十分な人数を確保しておきましょう。
- 講師・運営は、共同ホストに設定しておきましょう。
- 講師・スタッフは、WEB 会議システム以外で連絡手段をもっておくことが大切です（たとえば、LINE のグループや Messenger などの SNS ツール）。講師・スタッフの接続が不安定になってしまったとき、グループワークの編成が変更になったときなどに連絡を取り合い、フォローし合える体制をつく

っておきましょう。

- 研修会の最中に、気分がつらくなった受講者が入れる部屋を設け、講師・スタッフのだれが対応するか決めておきましょう。Zoom ではブレークアウト機能を使って対応することができます。
- 〈プログラムの工夫〉
- 研修時間を早く始めて、早く終わるようにすると良いかもしれません。特に、自宅等から参加する人は家事など気になったり、自宅と受講環境が切り離せないといった課題があります。必要に応じて時間割を編成してください。
- オンライン開催では、対面開催に比べて受講者が自由に気持ちなどを話し合う時間を取ることが難しいです。オンラインで開催する際には、閉会前に受講者が気持ちや感想などをお話しできる時間を設けたり、講師・運営がリラックス方法を紹介する時間を設けたりするなどの対応をお勧めします。

【参　考】

- 委託事業では、ピアサポーター養成研修会の一部のプログラムを動画にしています。下記から視聴の申込ができます。

  https://www.peer-spt.org/activity20210228/
- 全国がん患者団体連合会「オンラインでのピア・サポート留意事項の手引き」

  http://zenganren.jp/?p=2730

◆講　義

所用時間：30 分～1 時間程度

用意するもの： PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- がん医療は日々進歩しているので、自分の経験が過去のものになっている場合がある。知識のアップデートができ、視野を広げられるような機会にする。
- 新しい知識が増えることで、学習機会を求める参加者の満足度が高くなることが期待される。

【内容（講義の例）】

- がん医療
- 個別のがん医療トピックス
- ピアサポートに関する基本知識の復習
- その時の話題になっていること（たとえば、新型コロナウイルスとがん、ゲノム医療など）
- 地域の医療資源や条例、妊孕性温存やウィッグの助成など、地域によって異なること
- がん対策推進基本計画、がん診療連携拠点病院に関すること（がん診療連携拠点病院の指定要件）など国の施策に関すること
- 地域の患者会活動や、近隣の自治体の取り組みに関すること
- 小児、AYA 世代のがんに関すること
- 就学、就労に関すること
- 緩和ケア、ご遺族のケアに関すること

【事前準備】

- マイク、プロジェクター、音響などのチェックをしておく。

【座　席】

- スクール形式で行う。

◆ロールプレイ

所用時間：130 分～180 分程度

用意するもの： PC、プロジェクター、レーザーポインター、役割のネームプレート

【はじめに】

この「ロールプレイ」の項目は、ピアサポーター養成研修会でも実施しているプログラムです。ピアサポートに必要なスキルを守りながら、繰り返し取り組むのがよいでしょう。

【学習目標】

- ピアサポーターの役割、活動指針、コミュニケーションの基礎など研修で学んだことを踏まえて実際に相談、対応を経験する。
- ピアサポーターと利用者という意識をもつことで、傾聴や寄り添うことの難しさも含めた気づきが得られる。
- サポーター、利用者、観察者、それぞれの役割での気づきを言葉にし、振り返りの意義を感じることができる。

【事前準備】

- 可能であれば、講義を行う主会場以外にロールプレイ用の部屋を用意する。オリエンテーション、デモンストレーションは主会場スクール形式で実施（デモンストレーションに 3 名必要。本冊子 p.35～36 ロールプレイシナリオ【ロールプレイ実演】を参照）。
- 別室にグループごとに島をつくっておく。
- グループは、受講生 4 名＋ファシリテーター1 名で、事前にグループ分けを済ませておく。
- グループ分けの際、同じ患者会やグループの仲間、友人・知人などは同じグループに固まらないよう注意する。また、個性の強い（影響力のありそうな）参加者も同じグループに集中しないよう調整する。
- 参加者の背景や経験など、事前にわかる範囲で情報収集をしておく。シナリオと酷似した体験を有する参加者がいた場合は、使用シナリオを考慮する。
- 4 名の倍数にならない場合のグループ分けについて

  ①3 名のグループ分けとする、または、3 名と 4 名のグループで構成する

  3 名の場合は、4 つ目のセッションは希望を取る（もう一度チャレンジしたい人を募る）

  ②4 名以上の場合は、最大でも 8 名とする。

  4 名以上となった場合も、必ず全員がそれぞれの役割を担うよう対応表を考える。ピアサポーター役を 2 名にしたり、利用者役を複数にするなどグループ内の人数の割り振りを当日までに考えておくとよい。
- シナリオ（利用者役の相談内容）をグループの数分用意しておく。
- 全体進行、グループごとのファシリテーターのほかに、フリーのファシリテーター（スタッフ）を配置する。
- それぞれの役柄が書かれたネームカードのようなものを用意するとよい。

【座　席】

オリエンテーション、デモンストレーション：スクール形式で行う。

グループごとに島をつくる。できるだけ間隔を空ける。

【参加者】

・　ピアサポーターのみ（医療従事者、行政担当者は周囲で見学）。

【進め方】

・　オリエンテーション（進め方・動機づけ）⇒ファシリテーターによる模擬演技を行う。
・　用意したシナリオを利用者役に渡し、セッションをスタートする。
・　セッションの都度、ファシリテーターを中心にグループごとに振り返りを行う。
・　2 セッション終了時に休憩を挟む（体を動かすなど必要に応じて声かけ）。時間に余裕があれば、セッションごとに休憩を挟む。
・　4 セッション終了したら、参加者からの感想やファシリテーターからの報告など、ロールプレイでの学びや気づきを全体でシェアする。
・　セッションの時間については、プログラムでの時間配分によって模擬面談の時間や振り返りの時間を調整する。

【時間配分の例①　120 分】

所要時間	形　式	内　容
20 分	全体	オリエンテーション・模擬演技。グループの発表→分かれる
20 分	グループごと	セッション 1 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	グループごと	セッション 2 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
5 分～10 分		休憩
20 分	グループごと	セッション 3 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	グループごと	セッション 4 （役づくり 1 分⇒模擬面談 6 分⇒振り返り 13 分）
20 分	全体	全体振り返り

【時間配分の例② 180 分 （推奨） 】

所要時間	形 式	内 容
20 分	全体	オリエンテーション・模擬演技。グループの発表→分かれる
30 分	グループごと	セッション 1 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
10 分		休憩
30 分	グループごと	セッション 2 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
30 分	グループごと	セッション 3 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
10 分		休憩
30 分	グループごと	セッション 4 （役づくり 2 分⇒模擬面談 10 分⇒振り返り 18 分）
20 分	全体	全体振り返り

【このセッションでの留意点】

- あらかじめ用意したシナリオをセッションの都度、利用者役に渡す。
- 時間内に完結する必要はないこと、途中で終わってもよいことなどを伝える。
- 早く終わった場合は、静かにセッション終了の合図まで待ち、振り返りを先に始めない。
- 辛くなったら、いつでも辞めてよいことを保証する。
- ファシリテーターは良い点をほめ、建設的な指摘を行う。講義で触れたスキル（視線、距離、座る位置などの非言語的、話を聞く、自分の経験の伝え方など言語的）に基づきフィードバックする。各シナリオのねらいも意識してコメントする。
- セッションが終わったら、役を「降りる」ことを説明する。全員で体を動かすなど声かけを行う。（経験と重なり、精神的な負担になることもあるので、気持ちの転換を行うブレイクを最後に行うとよい）
- 医療者や行政などセッションに直接関わらない見学者やスタッフは、ロールプレイの妨げとならないような場所や態勢で見守ってもらうようアナウンスする。最後の全体での振り返りに感想を求めてもよい。
- 精神的に辛いときは、途中で止める、休憩をとるなどもよいことを伝える。

【オンラインで実施する際の留意点】

- 対面で行う際は、用意したシナリオをピアサポーターに紙で渡すことができるが、オンラインではそれができないので、WEB 会議システムのチャットを利用し、個別にシナリオを送るといった方法をとるとよい。
- チャットが使えない人には、事前にシナリオを郵送という方法もある。ただし、全員に全シナリオを送らないように注意する（チャット上で送り先を選択して送信をする）。

【その他】

模擬患者の活用：地域によっては、医療コミュニケーション技術研修のための模擬患者が利用できる地域もある。より緊張感をもってロールプレイに臨むには、模擬患者を活用するという方法もある。

【参考：ロールプレイのローテーション】

4 人グループ

	A	B	C	D
1 回目	利用者役	観察者	ピアサポーター役	観察者
2 回目	観察者	利用者役	観察者	ピアサポーター役
3 回目	ピアサポーター役	観察者	利用者役	観察者
4 回目	観察者	ピアサポーター役	観察者	利用者役

5 人グループ

	A	B	C	D	E
1 回目	利用者役	観察者	ピアサポーター役	観察者	観察者
2 回目	観察者	ピアサポーター役	観察者	ピアサポーター役	利用者役
3 回目	ピアサポーター役	観察者	利用者役	観察者	観察者
4 回目	観察者	利用者役	観察者	利用者役	ピアサポーター役

◆事例検討

所用時間：1～2 時間程度

用意するもの： PC、プロジェクター、レーザーポインター、ホワイトボード、模造紙、付箋

【学習目標】

困難事例の対応を学ぶ。自分の対応に自信をもてるようにする。他の人の対応を見て学ぶ。

【内容】

- 運営上、検討の必要がある事例や、参加者アンケートなどから事例を取り上げ、グループで議論する。

【事前準備】

- 各グループでどの事例を検討するか、あらかじめ決めておく。（全グループ同一の事例を検討するか、グループごとに異なった事例を検討するか。異なる事例を検討する場合には、くじ引き・指定制などどのように決定するか）
- グループ編成をあらかじめ考えておく。1 グループ 5～6 人程度までが参加しやすい。
- 事例によって検討時間、まとめの時間を増減させるとよい。

【座　席】

- オリエンテーション：スクール形式で行う。
- 事例検討：グループごとに島をつくる。できるだけ間隔を空ける。

【進め方】

- はじめ 10～15 分程度でオリエンテーション（進め方・動機づけ）を行い、グループ編成の発表、グループに分かれる。
- グループに分かれたあと、進行役、記録役、発表者役を決める。医療従事者や運営スタッフが参加する場合は進行役・記録役を担うと参加者が議論に集中しやすい。
- 事例検討が終了したら、全員で振り返りを行う。参加者からの感想やファシリテーターからの報告など、事例検討での学びや気づきを全体でシェアする。

【時間配分の例】

所要時間	形　式	内　容
10 分～15 分	全体	オリエンテーション（進め方・動機付け） グループ編成の発表、グループに分かれる
5 分	グループごと	アイスブレイク、自己紹介 発表者を決める
20 分	グループごと	事例 1 の検討 ・事例検討をする ・グループごとのまとめをする
5 分× グループ数	全体	事例 1 の全体振り返り ・グループごとにまとめを発表する
30 分	グループごと	事例 2 の検討 ・事例検討をする ・グループごとのまとめをする
7 分× グループ数	全体	事例 2 の全体振り返り ・グループごとにまとめを発表する

【このセッションでの留意点】

- ホワイトボード、模造紙、付箋などを用いることで議論が深まる。
- 唯一の正しい正解があるわけではない。

【オンラインで実施する際】

- Word、PowerPoint、メモ帳などを画面共有し、そこに書き込みながら検討を進めると議論が深まる。そのため、あらかじめ書記を決めておくとよい（画面共有、文字入力に慣れている人）。
- WEB 会議ツールの画面共有の権限をあらかじめ確認しておく。
- 検討事例は画面共有できるように用意しておく。

【事例検討の内容】

- 具体的な相談事例について考える。
  （例） 〇歳の男性、△△がん。「□□」について相談にやってきた。どのように対応するか。
- 実際の事例は使わない方がよい。実際の事例を扱う場合には、個人を特定できるような内容にならないよう慎重に配慮する。

◆テーマを決めた「自分の体験を語る」

所用時間：30 分～1 時間程度

用意するもの： PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- 自分の体験を言葉として振り返り、必要があれば感情的な問題に気づく。
- 体験を整理しておくことの大切さを学ぶ。
- 体験の多様性に気づく。
- 一定の時間内に、体験を語る経験をする。
- 仲間の体験を知る。

【事前準備】

- 事前に話す順番を決めておくことが望ましい（受け付け順、名簿順、くじ引き、ランダム、挙手制など。くじ引きの場合は、受け付け時に行うなど、このセッションの開始までに終わらせておくとよい）。

【座　席】

- （可能なら）机を下げ、椅子を前に出しシアター形式に変更する。構造上難しければ、スクール形式でもよい。
- 発表は、参加者が前に出て行う。

【進め方】

- テーマをあらかじめ 9 つほど挙げておく。
- 受講者がテーマの中から 1 つ選び、テーマに沿って 1 分で自分の体験を話す。
- 語り終えたら、進行役が必要に応じてフォローのコメントを入れる。
- 2 周目を設けてもよい。

【時間配分の例】

所用時間	内　容
10 分	進め方の説明、講師によるデモンストレーション
3 分×人数	「自分の体験を語る」1 周目 ・受講者：話すテーマを選択し、テーマに沿って 1 分で話す ・進行役：フォローやコメント、次の人へ交代（1～2 分）
3 分×人数	「自分の体験を語る」2 周目 ・受講者：話すテーマを選択し、テーマに沿って 1 分で話す ・進行役：フォローやコメント、次の人へ交代（1～2 分）

【このセッションでの留意点】

- タイムキーパー係を用意する。話の途中であっても、1 分で中止の合図をする。
- 1 分で終わらせる必要はないが、目標にはしてほしい。自分の体験を語るときの時間感覚を経験することが目的。
- フォローでは学習目的を意識する。時間の感覚や感情のゆらぎ、経験の大変さを肯定的に評価し、大丈夫であると安心感を与える（保証する）。
- 参加者全体で振り返りをする時間が重要。
- 話し手も聞き手も、辛いときはいつでもストップできることを保証する。
- 語るテーマは、その場で発表する。事前に受講者には知らせない。

【オンラインで実施する際の留意点】

- 特にオンラインでは、聴講する側はリアクションを大きく取るように心がける（大きくうなずく、大きなリアクションで拍手する）。
- 基本的には、受講者は画面をオンにして参加する。気持ちが辛くなったらオフにしてもよいことを伝える。
- 気分が辛くなった受講者が入れる部屋を設け、講師・スタッフのだれが対応するか決めておく。Zoom では、ブレークアウト機能を使って対応できる。

【語るテーマの例】

1. 家族や大事な人に何と伝えた？
2. 近所の人や周りの人には話した？
3. 治療を決めるときのエピソードは？
4. 検査や治療で辛かったことは？
5. 告知されたときどう思った？
6. 副作用や後遺症で辛かったことは？
7. 仕事や介護、子育てなどで悩んだ？
8. 不安でたまらないときどうしてる？
9. 主治医の先生って話しやすい？

◆ピアサポーター、行政・医療従事者の情報交換・意見交換

所用時間：30 分～1 時間程度

用意するもの： PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

- ピアサポート活動における困難の共有と解決、ピアサポーター同士の相互交流を図る。
- ピアサポーターと、行政担当者・医療従事者の相互交流の機会とする。

【内容（情報交換・意見交換の例）】

- ピアサポーター同士による日々の活動・運営方法に関しての意見交換・情報交換をする。
  （例）日々の活動についての困りごとについて検討する。
  （例）活動後の振り返りシートの書き方について検討する。
- ピアサポーターと医療従事者で、患者と医療従事者のコミュニケーション方法の意見交換をする。
- ピアサポーターと行政で、行政に求めることに関する意見交換をする。

【事前準備】

- 何をテーマにするか、運営側で事前に入念な検討をする。

【進め方】

- はじめ 5～10 分程度でオリエンテーション（進め方の確認）を行い、グループ編成の発表、グループに分かれる。
- グループに分かれて 20～30 分程度の情報交換・意見交換を行った後、議論を全体で共有する時間をもつ。

【このセッションでの留意点】

- 人数が多い場合には、あらかじめグループ編成を決めておく。
- ホワイトボード、模造紙、付箋などを利用すると議論が深まる。
- 必要に応じて、記録は残しておく。

【オンラインで実施する際の留意点】

- Word、PowerPoint、メモ帳などを画面共有し、そこに書き込みながら検討を進めると議論が深まる。あらかじめ書記を決めておく（画面共有、文字入力に慣れている人）。
- WEB 会議ツールの画面共有の権限をあらかじめ確認しておく。

◆ピアサポーターのストレスマネジメント

所用時間：15 分～30 分程度

用意するもの： PC、プロジェクター、レーザーポインター

【学習目標】

・ ストレスマネジメントに関する講義、リラックス方法などを取り上げ、ピアサポーターの燃えつきの防止、バウンダリーを守ることにつなげる。

【内　容】

・ 一般的なストレスマネジメントに関する講義とする（ストレスとは何か、ストレスとの付き合い方、疲れたときのリラックス方法：呼吸法やストレッチなど）

・ ピアサポーターが困ったときに相談できる環境（同じピアサポート活動を行っている医療者、心理士、精神科医など）についての情報提供ができるとよい。

【事前準備】

・ マイク、プロジェクター、音響などのチェックをしておく。

【座　席】

・ スクール形式で行う。

【留意点】

・ リラックス法の実演については好みがあるので、行うかどうかは事前に運営側で十分に相談しておく。

・ 心理士などのメンタルヘルスの専門家に講義を担当してもらえるとよい。

参　考　ロールプレイ・デモンストレーションのシナリオ

ピアサポーター養成研修会では、ロールプレイに入る前に講師・スタッフでデモンストレーションを行っています。

進行役　：　　ピアサポーター役　：
利用者役　：　　観察者役　：
※模擬で行う際は、実際にサロンへ入る時点からロールプレイを開始するとよい。

担当・役	内容・セリフ
進行役	演習開始の促し
利用者役	あの・・・、こちらで相談会をしていると伺ってきたのですが・・・
ピアサポーター役	ええ、どうぞこちらへお入りください。 こちらの椅子へおかけください。
利用者役	ありがとうございます。
ピアサポーター役	ピアサポーターの@@と申します。私自身、@年前にがんを体験した経験者です。本日は宜しくお願いします。 差し支えなければお名前をうかがってもよいですか？
利用者役	@@と言います
ピアサポーター役	@@さん、はじめまして。どうされたのですか？
利用者役	＜暗い表情で＞ 「2 年前に胃がんの手術をしたんです。先週の定期検査の結果を今日聞きにきたら、再発の可能性があるって言われたんです」
ピアサポーター役	＜心配そうに＞ 「それはびっくりしたでしょう」
利用者役	「そうなんです。先生の話の後ちょっと泣きそうになっちゃって」 「みなさんも、がんの経験者なんですか？」
ピアサポーター役	「そうですよ。私は〇〇がんをしました。でも、治療がうまくいって、今はとても元気です」
利用者役	＜悲しそうに＞ 「あなたは、治ったんですね。うらやましい・・・」 「再発してたらどうしよう・・・」
ピアサポーター役	＜少し慌てた様子で＞ 「まだ、再発と決まったわけじゃないし・・・」 「あ、でも、泣きたいときは泣いたほうがいいですよ。ここは泣いても大丈夫な場所なんですよ」

利用者役	＜ちょっと戸惑いながら＞ 「ありがとうございます・・・」
進行役	はい、終了です。ピアサポーター役の〇〇さん、いかがでしたか？
ピアサポーター役	“なんとか励ましてあげたいな”と思いました。あと、自分は辛いときにサロンで思い切り泣いたら楽になったことを思い出したので、ここは泣いてもよいところだよってことを伝えてあげたいと思いました。
進行役	では、利用者役の〇〇さん、ピアサポーターさんの対応を受けてどうでしたか？
利用者役	落ち込んでいる私を励ましたいという気持ちは感じました。ただ、泣いてもいいよと言われても、初対面の人の前ではちょっと嫌だなと感じてしまいました。
進行役	観察者役の〇〇さん、どうでしたか？
観察者役	そうですね。力になってあげたいという気持ちは、私にもよく伝わってきました。ただ、「再発と決まったわけじゃないし・・」というのは、少し無責任ななぐさめかもしれないなと感じたので、それは言わなくてよかったように思います。
進行役	ありがとうございます。こんなふうに進めていきます。

参　考　ロールプレイのシナリオ（相談内容）とねらい

ピアサポーター養成研修会では、下記のシナリオを取り上げて実施しています。

＜シナリオ（相談内容）＞

利用者役の相談内容。グループの数の分だけプリントしておく。事前配布せず、当日のセッション毎に、進行役（運営）が利用者役の受講生に渡し、利用者役はこの内容に沿って相談を行う。

セッション１　相談内容

- まさか自分ががんになるなんて想像もしていなかったのでショックだった。
- 友達も周りの人もみんな健康なのに、なんで自分だけがこんな病気になっちゃったんだろう。
- これからどうなるんだろうと不安でいっぱい。

※あなたの経験を教えてほしいとピアに尋ねてください

セッション２　相談内容

- がんと診断されて手術か放射線治療と言われた。
- 東京にいる妹が心配して毎日のように電話をくれる。
  - ▶妹は、体にメスを入れるのはやめたほうが良いとか、放射線も被爆が心配だと言っている。
  - ▶東京で体に優しい免疫療法というのをやっているクリニックがあるから東京に来ないかと言うがどうしたものか。

セッション３　相談内容

- 父が末期のがんと言われた。
- 血圧が高くてずっと病院にかかっていたのに、どうしてもっと早く見つけてくれなかったのかしら・・
- もう年だから治療はしないと父は言うけれど、私としては何が何でも治ってほしい。どうやって父を説得すれば良いか相談したい

※２０秒から３０秒くらい、
どこかで黙り込んでみてください。

セッション４　相談内容

- 夫が急性の白血病ですぐに治療を始めないといけないと言われて入院した。明日から抗がん剤治療をする予定。
- 担当の先生は、優しい感じだが、年も若くなんだか頼りない。
- セカンドオピニオンを受けたほうが良いと友達に言われたがどうしたものか・・
- どこか良い病院を知っていたら教えてほしい。

＜シナリオ（相談内容）のねらい＞

＜シナリオ（相談内容）のねらい＞は、講師・運営のみで共有し、研修前の受講者に開示しないように注意する。

「セッション 1 相談内容」のねらい

・がんと診断されたばかりで、漠然とした不安を抱えている利用者に対して、どのような寄り添い方ができるか。
・サロンやピアサポートのこともよくわからないままなんとなく来てしまったという利用者にじっくり向き合う経験をする。
・経験を話してくれと言われたとき、相手の反応を見ながら自分の体験を話せるとよい。
・長々と自分の体験を話してしまわないよう注意して話す。

「セッション 2 相談内容」のねらい

・治療選択に迷っている利用者に対してピアとしてどのような寄り添い方ができるか。
・医療介入にならないようなアドバイスや経験を伝えることができるとよい（自分はどうやって治療を決めたか）。
・妹さんの治療に対する考えや免疫療法のクリニックなど、ピアとしては「ダメ」と言いたくなる内容の相談にどうこたえるか。
・推奨は NG だが、妹さんの気持ちはよくわかると言ってあげたい。

「セッション 3 相談内容」のねらい

・娘（息子）からの相談。家族の気持ちや思いにどう寄り添うことができるか。
・近医に対する不満に同調はせず、気持ちはわかると言えるか。
・なんとか父親を説得したいという家族に、治療は厳しく辛いことを知っている、緩和ケアの重要性も知っているというピアの立場でどのような話ができるか。
・沈黙に対してどう対応したか振り返る。

「セッション 4 相談内容」のねらい

・配偶者からの相談。あえて血液がんを取り上げたシナリオ。
・あまりにも急な展開で、家族も戸惑っていることを理解した上で、慎重な対話を進めていけるとよい。
・血液がんの場合は、時間単位、日単位で病状が推移していくことがあると知らず、「すぐに治療開始とは考えられない、セカンドオピニオンでじっくり治療を選択するのがふつう」など、固形がんの治療の時間軸での不用意なアドバイスをしないよう注意が必要。
・このシナリオで血液がんを取り上げた背景について、進行役または、ファシリテーターのうちの医療者から簡単な解説をしてもらうとよい。

令和３年度　がん総合相談に携わる者に対する研修事業　委員会名簿

(1) 改訂委員会　　◎は委員長（以下 50 音順）

氏名	所属　・　役職
◎小川　朝生	国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野　分野長
天野　慎介	一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン　理事長
佐々木　治一郎	北里大学病院集学的がん診療センター　センター長
松本　陽子	NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会　理事長
若尾　文彦	国立がん研究センター　がん対策研究所　事業統括
渡邉　眞理	湘南医療大学　保健医療学部　看護学科　教授

(2) ピア・サポート養成研修ワーキンググループ　　●は WG 委員長（以下 50 音順）

氏名	所属　・　役職
●秋月　伸哉	がん・感染症センター　東京都立駒込病院　精神腫瘍科・メンタルクリニック　部長
倉田　明子	広島大学病院　精神科　診療講師
齋藤　円	市立ひらかた病院　精神科　部長
桜井　なおみ	一般社団法人 CSR プロジェクト　代表理事
野田　真由美	NPO 法人　支えあう会 「α」 副理事長
吉田　稔	日本赤十字社熊本健康管理センター　所長

(3) 短期サポートグループワーキンググループ　　●は WG 委員長（以下 50 音順）

氏名	所属　・　役職
●平井　啓	大阪大学大学院人間科学研究科　准教授
市原　香織	ファミリー・ホスピス京都北山ハウス　がん看護専門看護師
齋藤　円	市立ひらかた病院　精神科　部長
松向寺　真彩子	市立豊中病院　臨床心理士
福井　里美	東京都立大学　人間健康科学研究科看護科学域　准教授 認定 NPO 法人 がんサポートコミュニティ
古谷　浩	精巣腫瘍患者友の会Ｊ－ＴＡＧ　共同代表
山田　麻記子	東京医科歯科大学医学部附属病院　がん相談支援センター 医療ソーシャルワーカー
吉田　稔	日本赤十字社熊本健康管理センター　所長

～御礼～
2021 年 11 月 3 日、2022 年 2 月 11 日開催の「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」を実施するにあたり、研修会の運営には下記の皆様にご協力いただきました。多大なご協力を賜りましたことを厚く御礼を申し上げます。

・日本赤十字大学さいたま看護学部　遠藤 公久様
・認定 NPO 法人 がんサポートコミュニティ　間瀬 志津乃様
・認定 NPO 法人 がんサポートコミュニティ　西野 明樹様
・市立ひらかた病院　西村 知子様
・大阪医科薬科大学病院　若林 暁子様
・神戸大学医学部附属病院　酒見 惇子様
・友愛医療センター　上原 弘美様
・聖路加国際病院　橋本 久美子様
・京都大学医学部附属病院　出雲路 祥子様

令和 3 年度　厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業

〈改訂委員会〉

［委員長］ **小川　朝生**　国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野　分野長
［委　員］ **天野　慎介**　一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン　理事長
［委　員］ **佐々木治一郎**　北里大学病院集学的がん診療センター　センター長
［委　員］ **松本　陽子**　NPO 法人愛媛がんサポートおれんじの会　理事長
［委　員］ **若尾　文彦**　国立がん研究センター　がん対策研究所　事業統括
［委　員］ **渡邉　眞理**　湘南医療大学　保健医療学部　看護学科　教授

〈ピア養成研修ワーキンググループ〉

［グループ長］ **秋月　伸哉**　がん･感染症センター 東京都立駒込病院　精神腫瘍科･メンタルクリニック 部長
［グループ員］ **桜井なおみ**　一般社団法人 CSR プロジェクト　代表理事
［グループ員］ **倉田　明子**　広島大学病院　精神科　診療講師
［グループ員］ **齋藤　　円**　市立ひらかた病院　精神科　部長
［グループ員］ **野田真由美**　NPO 法人支えあう会 「α」 副理事長
［グループ員］ **吉田　　稔**　日本赤十字社熊本健康管理センター　所長

〈短期サポートグループワーキンググループ〉

［グループ長］ **平井　　啓**　大阪大学大学院人間科学研究科　准教授
［グループ員］ **松向寺真彩子**　市立豊中病院　臨床心理士
［グループ員］ **市原　香織**　京都大学大学院人間科学系専攻　博士後期課程/がん看護専門看護師
［グループ員］ **山田麻記子**　東京医科歯科大学医学部附属病院　医療ソーシャルワーカー
［グループ員］ **古谷　　浩**　精巣腫瘍患者友の会 J-TAG 共同代表
［グループ員］ **齋藤　　円**　市立ひらかた病院　精神科　部長
［グループ員］ **吉田　　稔**　日本赤十字社熊本健康管理センター　所長
［グループ員］ **福井　里美**　東京都立大学大学院 人間健康科学研究科看護科学域 准教授/認定 NPO 法人がんサポートコミュニティ

令和 3 年度　厚生労働省委託事業

がん総合相談に携わる者に対する研修事業　事業報告書

［発　行］ 2022 年 3 月 25 日
［発行元］ **一般社団法人日本サイコオンコロジー学会**
がん総合相談に携わる者に対する研修事業　担当事務局
〒 277-8577　千葉県柏市柏の葉 6-5-1
国立研究開発法人　国立がん研究センター　先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野内
TEL：04-7134-6986　FAX：04-7134-7026
［製作者］ **株式会社 青海社**　［DTP/印刷］ **株式会社 真興社**